

様式第4 [基本計画標準様式]

○基本計画の名称：十日町市中心市街地活性化基本計画

○作成主体：新潟県十日町市

○計画期間：平成25年7月から平成30年3月まで

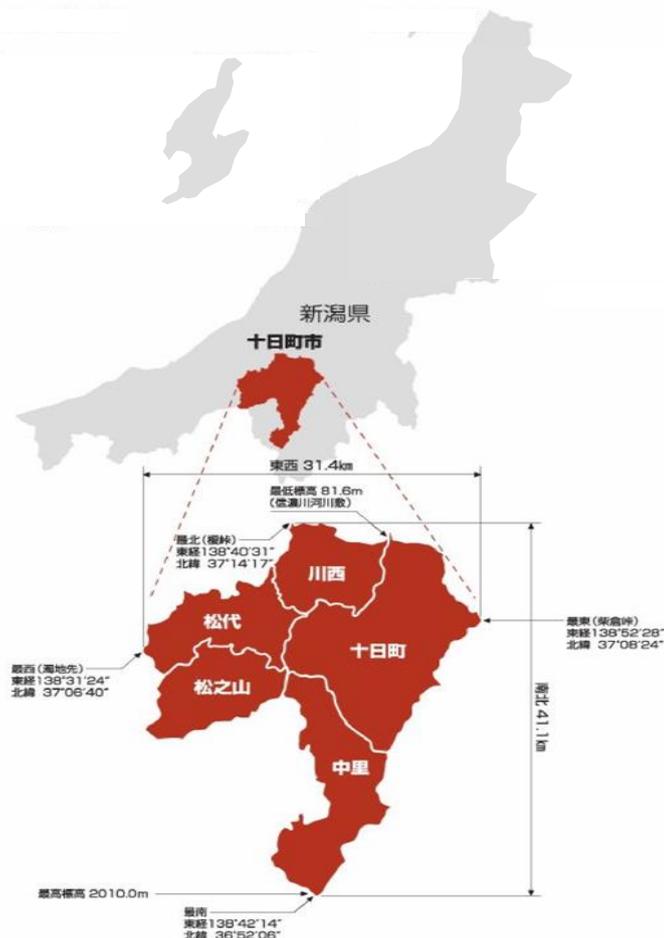
1. 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

[1] 十日町市の概要

(1) 位置・地勢・気候

十日町市は、新潟県南部の長野県との県境に位置しており、東は南魚沼市、魚沼市、西は上越市、柏崎市、南は湯沢町、津南町、北は小千谷市、長岡市などと接し、東京から約200km、新潟市から約100kmとなっている。市域は東西31.4km、南北41.1kmの広がりをもっており、面積は589.92k㎡である。

■十日町市の位置



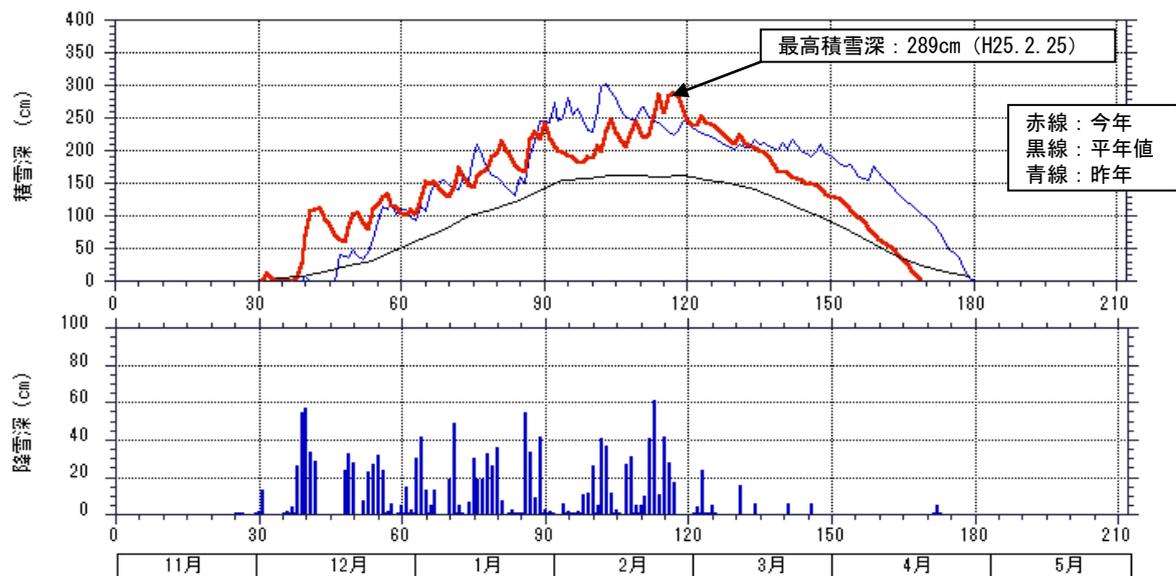
市の東側には魚沼丘陵、西側には東頸城丘陵の山々が連なり、中央部には日本一の大河信濃川が南北に流れ、中心市街地が位置し広大な圃場をもつ十日町盆地とともに雄大な河岸段丘を形成している。また、西部中山間地域には渋海川が流れ、流域に点在する集落や棚田が美しい農山村の景観を呈している。そして、最南部は上信越高原国立公園の一面を占め、標高2,000m級の山岳地帯となっている。

■十日町盆地（中央部が市街地・南側から撮影）



気候は日本海気象区分に属し、四季折々に季節感があふれる。毎年の平均積雪深が2メートルを超える全国有数の豪雪地帯であり、1年の3分の1以上が降積雪期間となる。この気象条件が独自の生活文化の形成や経済活動の発展等に大きな影響を与えてきた。

■降積雪の状況（平成24年11月～平成25年5月：独立行政法人森林総合研究所十日町試験地 HP より）



■ギネスにも登録された十日町雪まつり



■市民の協働による歩道除雪



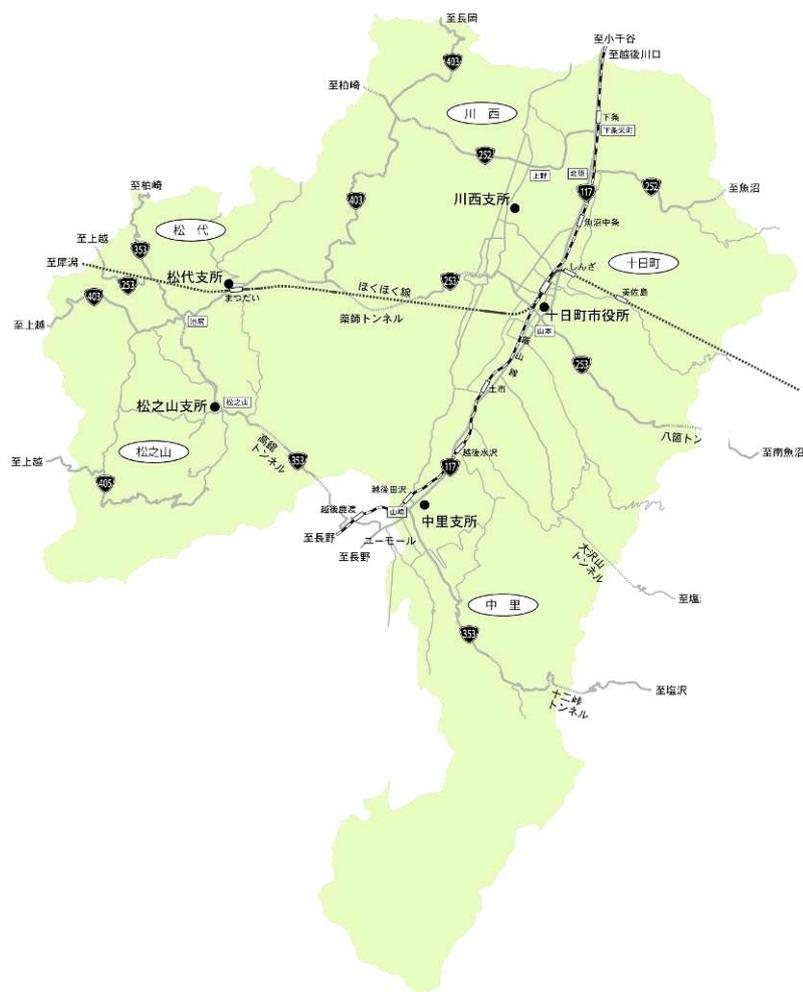
(2) 交通体系

道路網については、市内には6本の国道が走り、その中でも新潟県と長野県を結ぶ国道117号が中心市街地を南北に通じ、小千谷市、長岡市などと接続している。西側の柏崎市及び東側の魚沼市とは国道252号で接続し、上越市及び東側の南魚沼市とは国道253号で接続している。国道253号は、関東方面から関越自動車道を経由した市中心部へのアクセスの要であり、関西・北陸方面からのアクセスの際も北陸自動車道経由での同国道利用が主となるなど、この3本の国道が骨格を形成している。

鉄道網は、新潟県と長野県を結び、国道117号と並行して南北に走るJR飯山線と、首都圏と北陸方面を結び、越後湯沢～福井間で「特急はくたか」が運行される北越急行ほくほく線が走る。いずれの路線も、市街地内に立地する十日町駅を発着としており、県内外から市内への移動を容易にしている。

これら交通網利用による所要時間は、東京方面から関越自動車道経由で約3時間、上越新幹線及び北越急行経由で約2時間、北陸方面からは北陸自動車道経由で約2時間30分、北越急行経由で約2時間30分となっている。

■道路・鉄道網



■越後湯沢～金沢間を走る特急はくたか



(3) 沿革

十日町市を含む中魚沼・東頸城地方一帯で人類の活動が始まったのは古く、数万年前の旧石器時代の石器類が出土している。もっとも数の多い縄文中期（5,000年前）の遺跡からは、縄文土器の華とうたわれる「火焰型土器」が大量に出土し、特に笹山遺跡出土の土器群は、平成11年に縄文土器として初の国宝に指定されている。

古墳時代から平安時代末期に至る間は資料が乏しいが、12世紀後半に入ると、大井田氏を中心とする新田一族が新田義貞の討幕挙兵に馳せ参じて以来、越後南朝の拠点となる。

戦国時代に入ると、越後一帯に君臨した上杉謙信が関東出兵の際に居城春日山から市内の松代～城之古～六箇～三国街道を行く上杉軍道など、歴史に再び登場する。

江戸時代初めになると、越後縮が作られるようになり、1673年に縮市場が開設され、十日町は小千谷、堀之内とともに縮の三市場として繁栄した。

その後、天明期をピークに縮の生産が漸次衰退する局面を機に、十日町は麻織物から絹織物への転換を試み、明治初期までの十日町絹織物草創期と呼ばれる試行錯誤・試練の時期を経て、大正から昭和初期にかけて新しい機業地として発展した。

これ以降、絹織物産業は戦後から高度経済成長期にかけて、全国有数の和装産地として地域の発展を支えることになる。また、昭和50年に絹織物産地として世界的に有名なイタリアのコモ市と姉妹都市提携を結び、現在も交換留学など交流を続けている。

近年では、里山と現代アートの融合をテーマにした「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」を平成12年から3年ごとに開催するなど、古くは「妻有（つまり）」と呼ばれた中魚沼地方とほくほく線（北越急行）で結ばれた東頸城松之山郷が一体となった取り組みを行っている。この交流やつながりから、平成17年4月1日、旧十日町市、川西町、中里村、松代町及び松之山町の5市町村が新設合併して新十日町市が誕生した。

合併直前の平成16年に発生した新潟県中越大震災をはじめ、度重なる豪雪や豪雨など災害に見舞われたが、その度に、地域を挙げて「活力のあるまちづくり」に取り組み、大学との連携による新ビジネス創出や、世田谷区など交流地域との関係強化によって交流人口拡大を図るなど、地域内外の力を結集して、子育て世代をはじめ、お年寄りや障がいのある人に優しい「選ばれて住み継がれるまち」を目指している。

■コモ市との姉妹都市提携 35周年



■国宝火焰型土器



■中越大震災



■NPOによる子ども教室

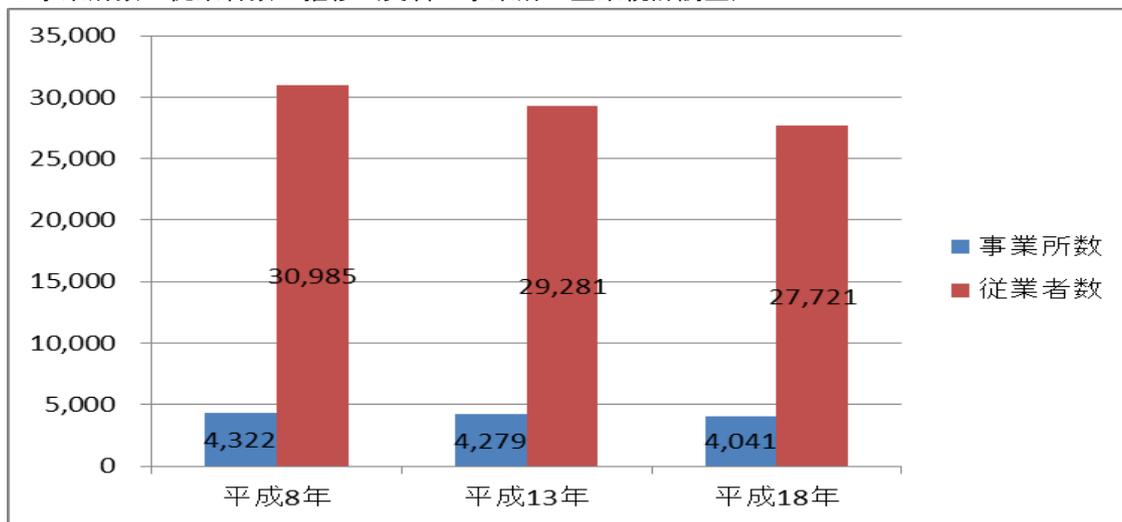


(4) 産業

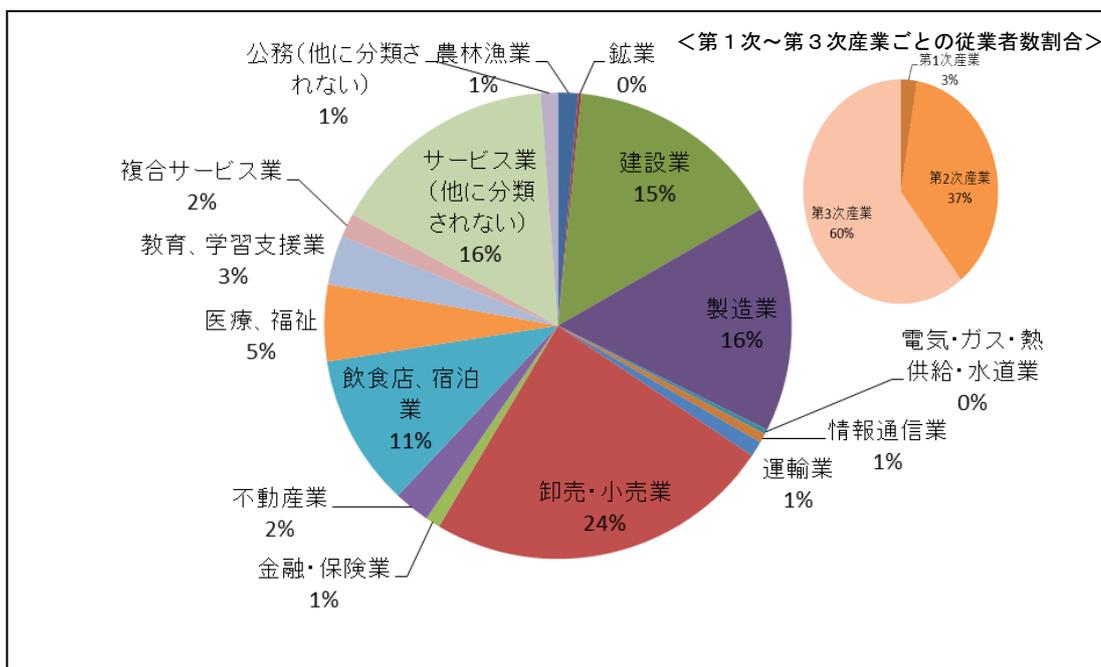
①産業構造

事業所企業統計調査によると、事業所数・従業者数とも減少傾向にある。事業所数の構成比で見ると小売業・サービス業などの第3次産業が約7割を占め、第2次産業については、そのうち建設業・製造業が約2割ずつを占める。

■事業所数・従業者数の推移（資料：事業所・企業統計調査）



■産業大分類ごとの従業者数の割合（資料：平成18年事業所・企業統計調査）



地域別には、旧十日町市の地域は古くから絹織物を主産業に栄え、高度経済成長期には最盛期を迎えたが、昭和50年代に入ると生活様式の変化等による構造不況に陥り、それ以降、現在まで出荷額や従業者数が減少している。

一方、川西地域、中里地域、松代地域及び松之山地域は稲作を主体とする農業を主産業としてきたが、新規学卒者の市外流出や昭和45年からの減反政策などもあり、農業離れや後継者不足が問題となっている。

②取り組み

平成 23 年に、隣接する津南町と共同で企業立地促進法に基づく「十日町地域（十日町市・津南町）産業活性化基本計画」を策定し、国から同意を受けたほか、独自の税制優遇制度や助成及び融資制度などによって雇用の創出及び地域企業の育成、新分野進出・新規創業の支援を行っている。また、国内最高級とされる魚沼産コシヒカリをはじめ、全国シェアの上位を占めるなめこに代表されるきのこの栽培などの農林業振興や食品加工業の育成にも力を入れており、それらを連携させた6次産業化・高付加価値化を目指している。さらに農山村地域の特性を活かしたグリーンツーリズムの推進など多様な活動を展開している。

その他、日本三大薬湯の一つに数えられる松之山温泉、柱状節理の溪谷美を誇る清津峡、豊かな大自然に包まれた当間高原リゾート、「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」開催をきっかけとするアートのあるまちづくりなどを地域資源としながら、観光交流人口の拡大を進めている。



特に「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」は、平成 24 年の第 5 回展で会期中の入込客数が約 49 万人を数え、前回は約 3 割上回る過去最高を記録した。県内経済波及効果も 46 億 5 千万円と試算され、地域内でも商業者の多くから会期中の売り上げが増加したとの声が聞かれる。

また、地域の集落・町内で地域コミュニティ活動の活発化やまちづくりに対する意識が高まるなど、地域活性化におけるさまざまな成果が報告されているほか、各メディアを通じた情報発信による地域の認知度向上にも効果を発揮している。

このことから、「大地の芸術祭の里」を新たな地域ブランドと位置づけ、さまざまな施策に反映することとしている。

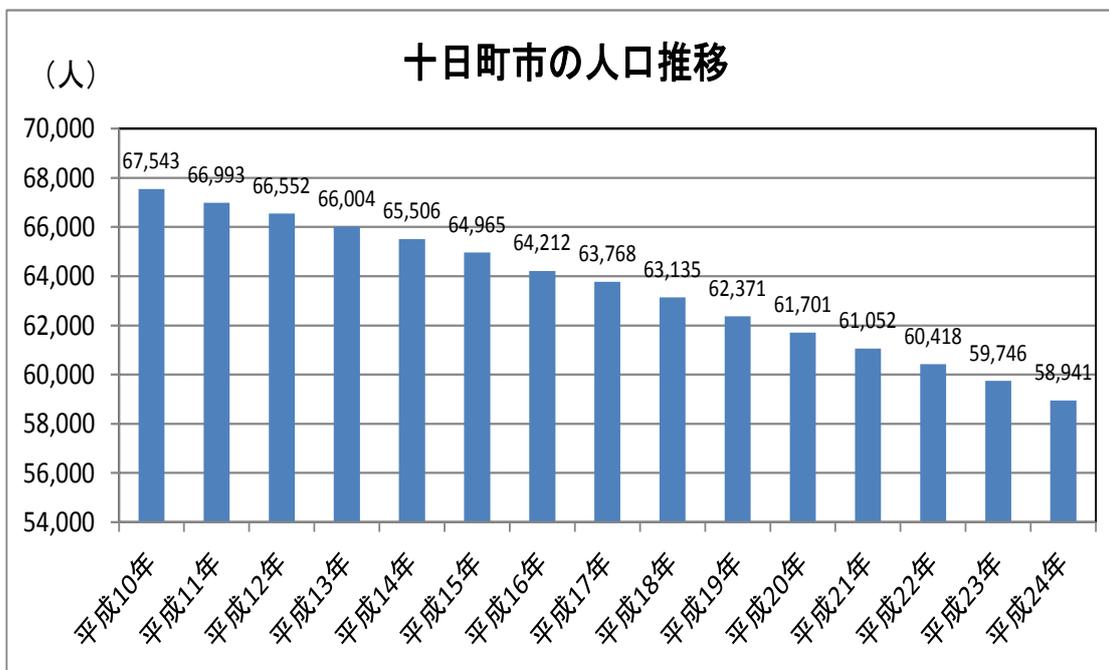


(5) 十日町市の人口

①人口・世帯数

本市の人口は減少傾向を続けており、平成24年3月末現在の住民基本台帳人口は58,941人で、平成12年と比較すると11.4%減少している。

世帯数は、平成12年の19,497世帯が平成24年には20,048世帯に増加し、増加率は2.8%となっており、1世帯当たり人員は3.41人から2.94人に減少している。



資料（住民基本台帳人口（各年3月31日時点）、平成17年以前は合併前の町村を合算）

<参考>人口及び世帯数の推移（単位：人、世帯、人/世帯）

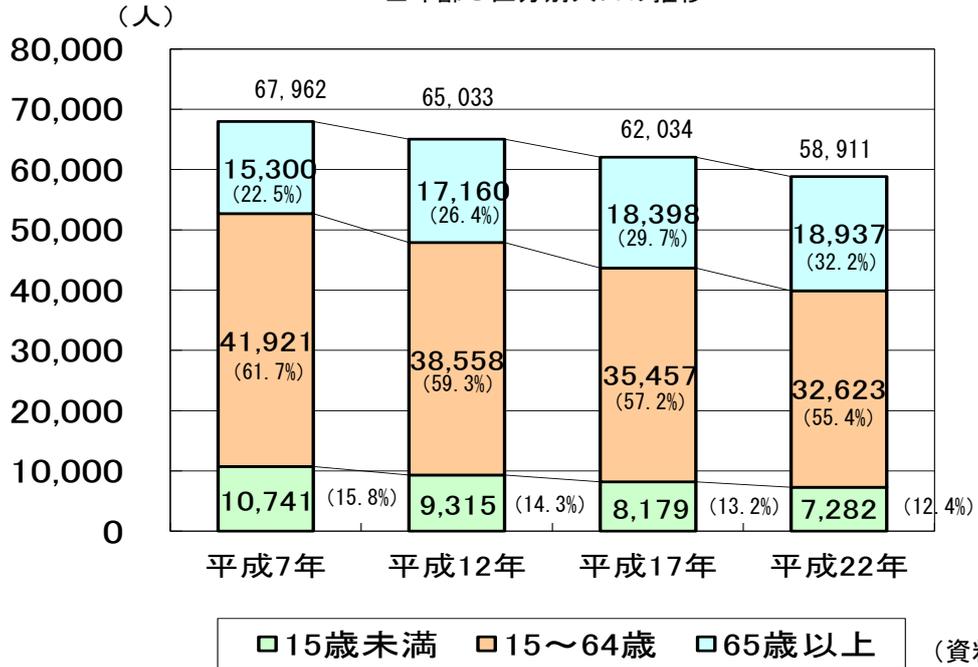
	H12	H17	H22	H24	H12・H24 比
人口	66,552	63,768	60,418	58,941	△11.4%
世帯数	19,497	19,825	20,020	20,048	2.8%
1世帯当たり人員	3.41	3.22	3.02	2.94	—

②少子高齢化の進行

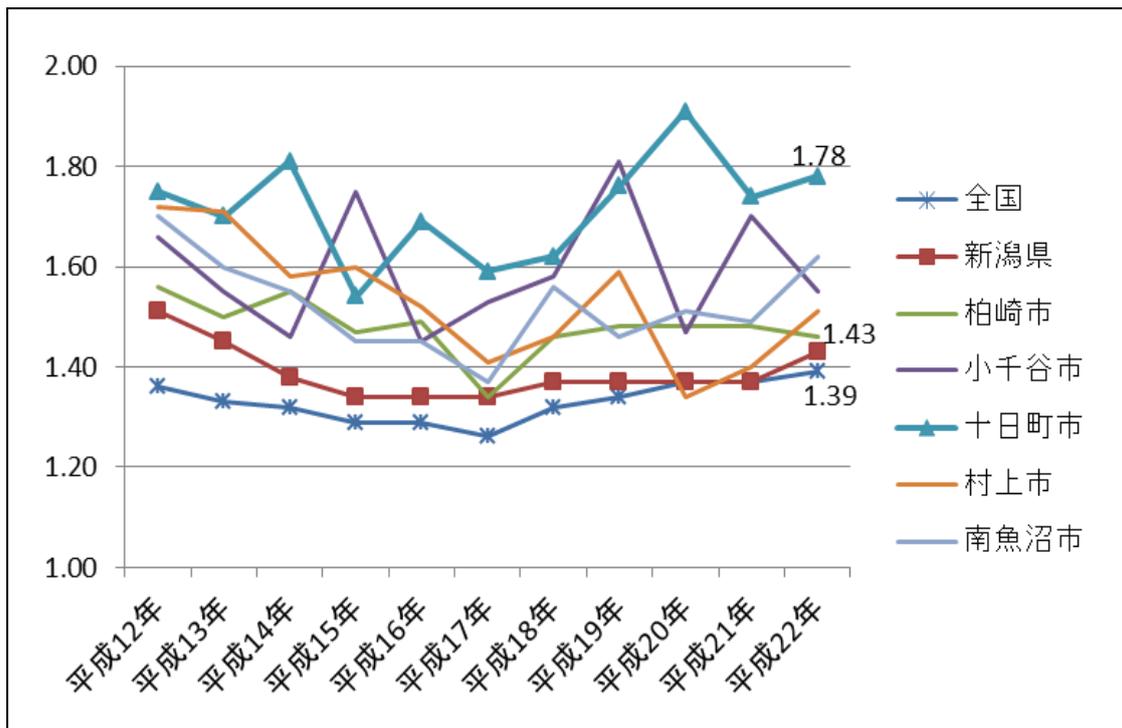
年齢別人口構成をみると、平成22年国勢調査では、年少人口（15歳未満）が占める割合は12.4%、老年人口（65歳以上）が占める割合は32.2%となり、平成7年から15年間で年少人口割合は3.4ポイント減少、老年人口割合は9.7ポイント増加しており、少子高齢化が進行している。

一方で、合計特殊出生率の推移をみると平成22年が1.78となっており、全国平均の1.39及び新潟県平均の1.43を上回り、また、比較的規模が類似する柏崎市、小千谷市、村上市、南魚沼市なども上回っている。平成22年の値を平成12年と比較すると0.03ポイントの上昇となっており、年によって若干の変動はあるものの、少子化の進行には一定の改善傾向がみられる。

■年齢3区分別人口の推移



■合計特殊出生率の推移



[2] 中心市街地の現状分析

(1) 十日町市中心市街地の概要

本市の中心市街地は、中央を南北に走る国道117号沿いに形成され、それと並走するJR飯山線と北越急行ほくほく線の十日町駅を中心に、公共交通機関の結節点となっている。

また、年に複数回地域を代表する大規模イベントが開催されるなど、市民のハレの場として定着しているほか、絹織物製造を中心とした各種産業や地域住民の日常生活を支える商業など、古くから本市の経済・文化活動の中心となってきた。

以上のことから、「十日町市都市計画マスタープラン」(平成20年3月)においても、市街地が含まれる旧十日町市の中心部が「都市拠点」とされており、商業機能の集積、活力ある都市づくりを推進する地域と位置づけられてきた。

また、絹織物産業が盛んな頃、工場で働く女工向けの商業を中心に栄えた商店街では、豪雪地帯ならではの総延長約3.6kmにも及ぶアーケードが市街地全域に設置され、現在においても健在である。

一方、古くからの細かい街路や町並みが残る地区でもあり、雪が大量に降る冬期は、中心部でありながら自動車の通行に支障をきたすところも多い。また、織物産業の衰退などによる織物関係事業所の跡地や、震災等を機にした転居による空洞化も進んでいる。

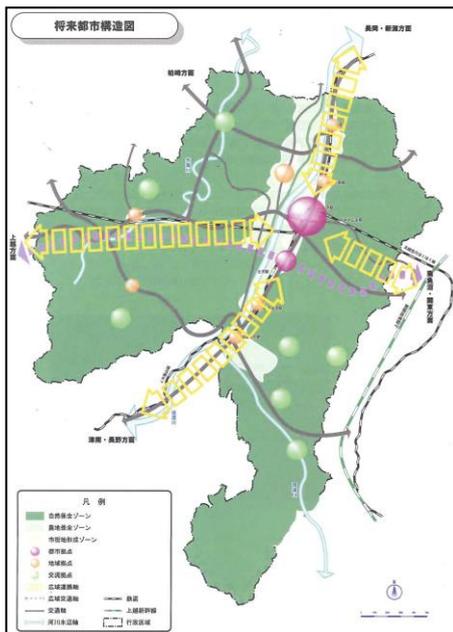
中心市街地の中心部には平成18年に開設した市役所本町分庁舎や金融機関、診療所などの公益施設が点在し、南側には市役所本庁舎や税務署など官公庁が集積している。

また、中心市街地の北端に位置する「道の駅クロスTEN」、「越後妻有里山現代美術館キナーレ」は、周辺地域の観光拠点として大きな役割を果たしている。

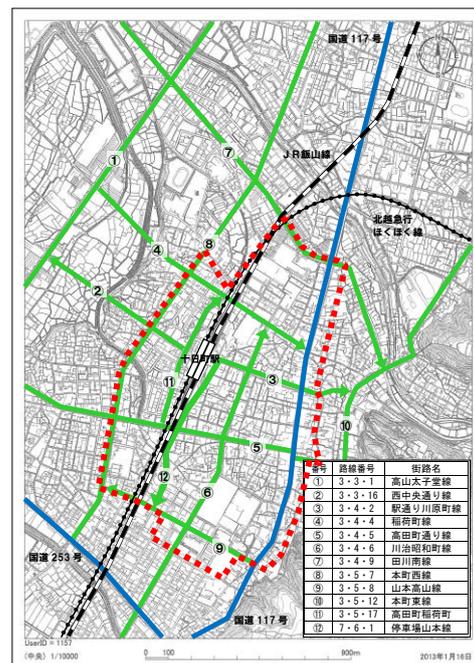
■きものまつり（稚児行列）



■都市構造図（十日町市都市計画マスタープラン）



■中心市街地の交通



(2) 中心市街地に蓄積されている既存ストック

①社会資本資源

ア) 交通

中心市街地内に位置するJR飯山線及び北越急行ほくほく線十日町駅は、通勤通学者や市外からの来訪者の受け入れの玄関口となる施設である。特に、着地型旅行受け入れの促進など交流人口増加施策の重要な拠点として、他の公共交通機関との結節点となる同駅は不可欠な施設となっている。

イ) 快適な移動環境

十日町駅と接続する中心市街地には総延長約 3.6 km にも及ぶアーケードが整備されている。アーケードの整備エリア以外では一部歩道融雪装置が設置されており、降雪期等でも天候に影響されない歩行空間及び回遊環境が確保されている。その他、エリア内の主要道路には排雪のための流雪溝が整備され、歩行者・車両とも降雪期でも快適に移動できる環境が確保されている。

■市街地に整備されたアーケード



ウ) 情報の受発信環境

中心市街地のアーケード内には放送設備が整備されており、地元コミュニティFM放送の番組が常時放送されるなど地域情報を得やすい環境が確保されている。その他、主要な交差点に設置された案内看板により、住民、来街者とも目的地へスムーズに移動できる対応がなされている。

②景観資源と独特な住居景観

ア) 街路の景観整備

アーケードの支柱に統一されたフラワーポットを飾る「花いっぱい運動」などの美化活動に取り組んでいる。特に、十日町駅に近接する智泉禅寺がある昭和町通り商店街では、歩道のバリアフリー化や統一的な花植え運動など、住民主導による景観美化活動に取り組み、市内でも先進的なエリアとなっている。

■智泉禅寺山門前でのおもてなし



イ) 独特な住居景観

住宅が密集する中心市街地では、積雪に耐える耐雪型住宅や、1階がコンクリート造りで屋根勾配が急峻な落雪式住宅、1階部分の窓の「雪囲い」など、住宅環境に工夫を凝らされており、豪雪地ならではの景観を醸し出している。

■住宅環境（耐雪型住宅）



③文化資源

ア) アートのまちづくり

地域の自然・ひと・歴史・文化などと調和した「彫刻のあるまちづくり」と「作家と地域住民のつながり・市民の生活の中に融和していく空間の創造」などを目的に、平成7年から「石彫シンポジウム」が展開されて、80体ほどの作品群が設置されている。

また、平成12年から3年に一度開催されている「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」では、空き店舗等を活用した作品を展開している。

作家の作品制作の支援やワークショップへの参加、来街者のおもてなしに、商店街や町内組織、市民団体などが積極的にかかわり、住民・来街者参加型のアートによるまちづくりを進めている。

その他、エリア北側に位置する「道の駅クロステン」「越後妻有里山現代美術館キナーレ」は大地の芸術祭を核とした「大地の芸術祭の里」ブランドづくり、来街者との交流及び地域情報の発信などの重要な観光拠点施設となっている。

イ) 雪国文化

中心市街地とその周辺区域では、冬の厳しさと美しさを知り尽くした市民の雪に打ち克つ気概と「雪を友とし、雪を楽しむ」という発想から生まれた「十日町雪まつり」が毎年開催されている。市民手づくりの雪まつりの原点にある町内会や職場、市民活動団体などによる雪像づくりを通じ、独自のコミュニティが醸成されている。このような取り組みは、数年に一度見舞われる豪雪などの自然災害に打ち克つ住民の「つながり力」を強くし、中越大震災以降、高い組織率となる自主防災組織の礎となっているといえる。

また、農家の人々が冬期間の副業として竹やわらなどで作った生活用品や民芸品を持ち寄る露店市で明治時代に始まったと言われる「節季市（通称：チンコロ市）」など、雪国ならではの歴史や文化を伝えるイベントや取り組みが行われている。

■石彫作品



■大地の芸術祭作品（空き店舗）



■越後妻有里山現代美術館キナーレ



■町内会による雪像づくり



■節季市



■チンコロづくり



ウ) 市民活動

中心市街地周辺に拠点を構える中央公民館は、戦後の公民館制度創設当時から活発な活動を展開してきた。なかでも、青年学級の機関誌や演劇活動、婦人学級の文集制作などが評価され、これまでに「優良公民館」として3度の文部大臣表彰を受賞するなど、高い評価を得ている。

こうした公民館活動からたくさんの市民活動団体や市民サークルが派生し、中心市街地周辺を拠点に芸術・文化、福祉ボランティア活動などを展開している。

一方、市町村合併を契機に「協働のまちづくり」の機運が高まり、「市民活動ネットワークひとサポ」といった市民活動を支援する組織が誕生し、人と人や組織と組織をつなげる活動も展開されている。

また、「十日町きものまつり」や「きものの街のキルト展」など、地域を支えた織物産業の歴史性を活かした和が感じられるイベントや、市の名称の由来とも言われる市(いち)を復活させた「とおか市」など幅広い世代を取り込んだイベントが開催され、地域や世代を超えた交流が図られている。

■キルト展



■きものまつり



■とおか市



(3) 地域の現状に関する統計的なデータの把握・分析

①人口に関する現状分析

ア) 人口・世帯の状況

【中心市街地内人口】 5,008人(平成12年)⇒4,372人 (平成24年)	・中心市街地内人口は減少が続いており、全市より人口減少のペースが早い
--	------------------------------------

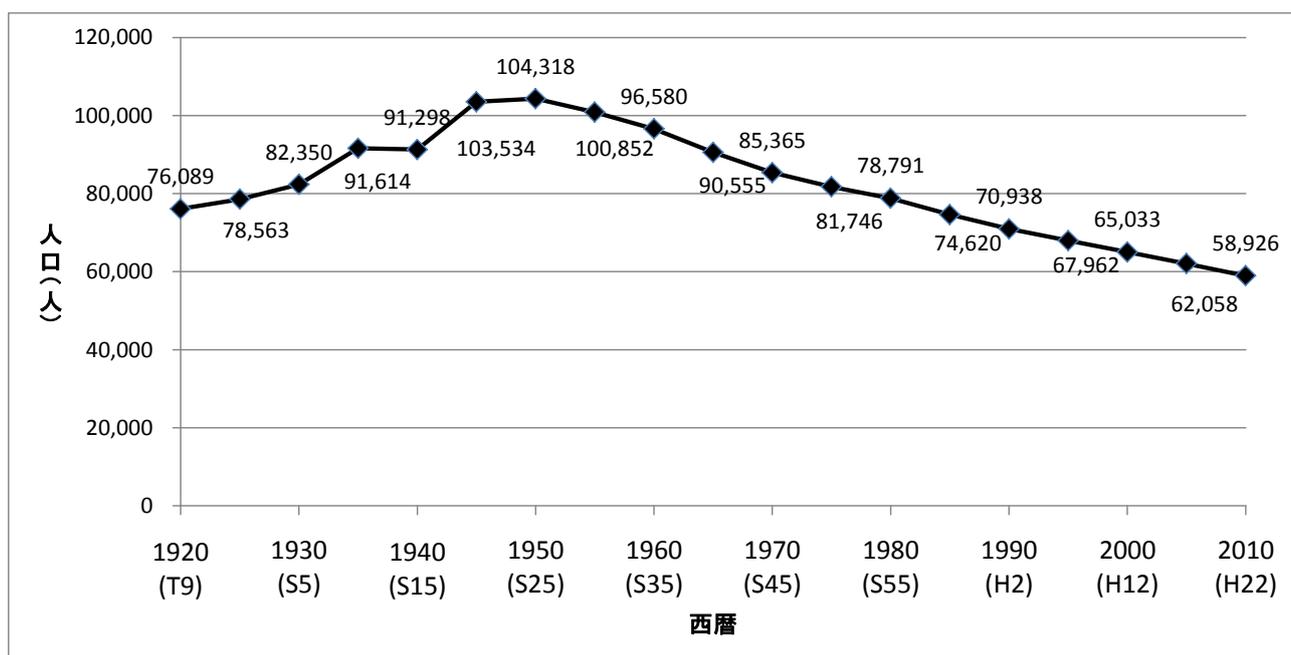
当市の人口は、昭和25年(1950年)をピークとして減少の一途をたどっている。少子化による自然減と、戦後の高度経済成長とともに進行する大都市圏への人口流出による社会減の両者を反映しているものと考えられる。また、年代別で確認すると、生産年齢人口は一貫して減少しているものの、少子化の進行は、近年やや緩やかになっている。

全市と同様に中心市街地の人口も減少を続けており、平成24年には平成12年の約87%の4,372人となっている。同じ平成12年から平成24年にかけて全市の人口は89%となっていることから、全市に比べても人口減少のペースが早くなっている。

これは、豪雪地帯であるため、敷地が広く屋根雪処理が容易にでき、道路も広く便の良い郊外の新興住宅地の人気が高いことと、平成16年の中越大震災で被災した世帯が、市外に移転したことなどが要因になっているものと想定される。

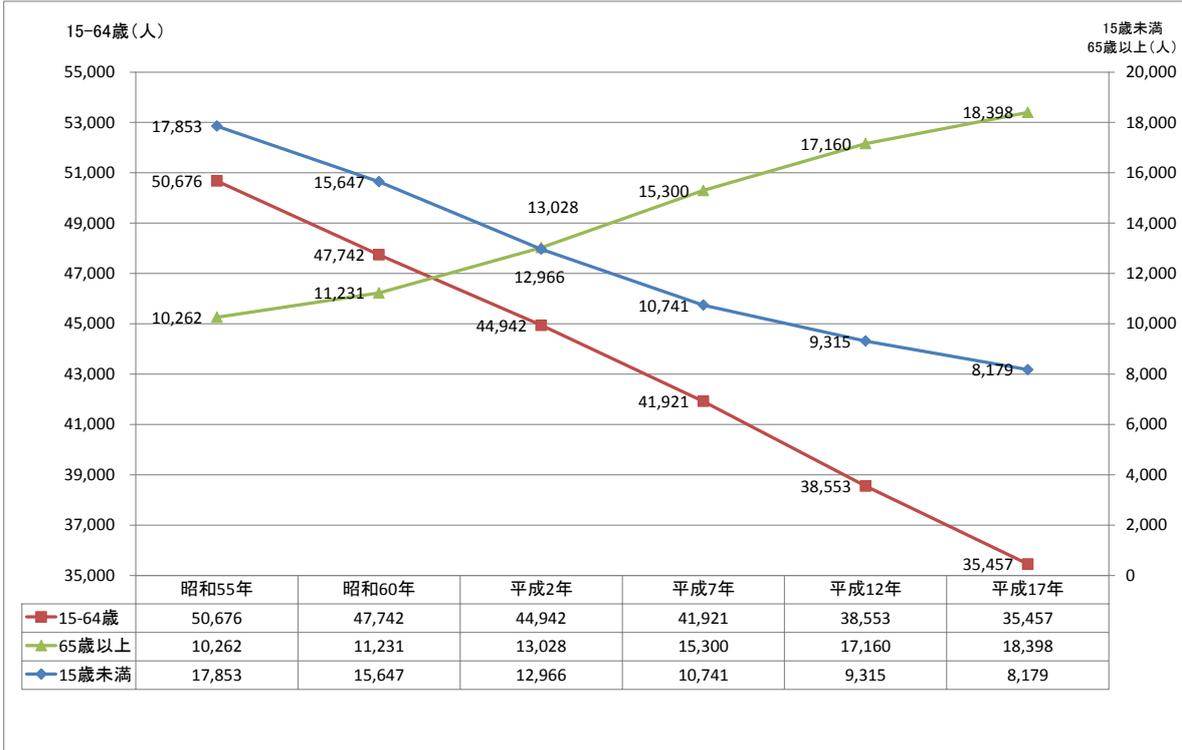
また、当市の世帯構成は、三世帯世帯の割合が高く、単独世帯の割合が低いという特徴がある。

●総人口の推移



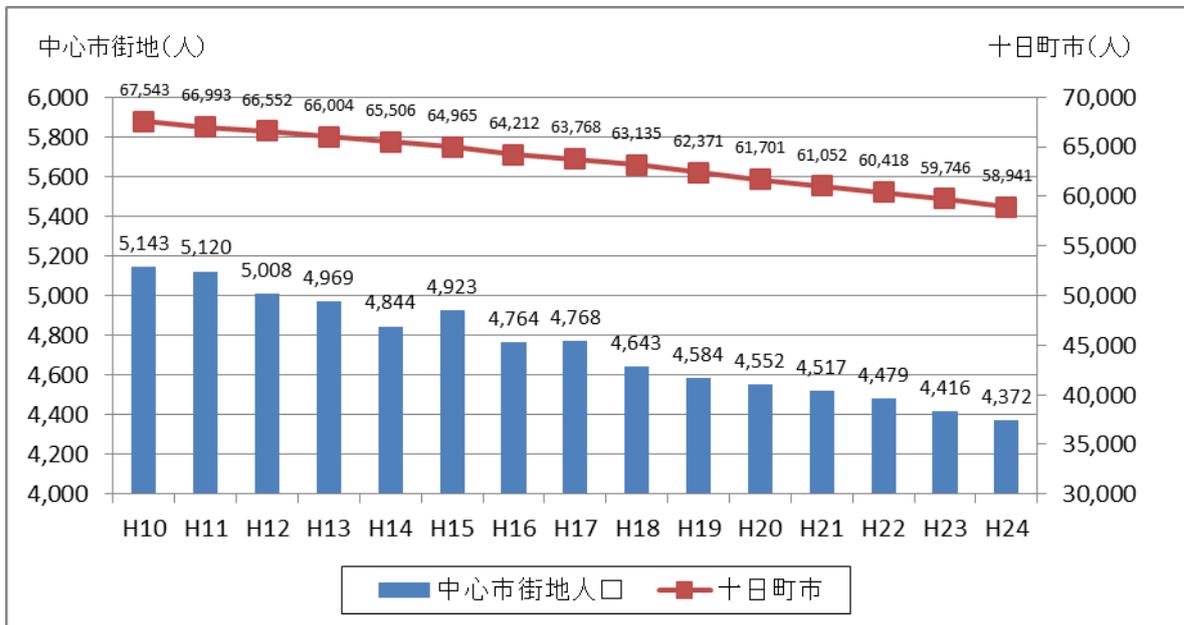
(出典)国勢調査より/H12年以前は合併前の旧5市町村分を合計)

●総人口の年代別構成の推移



(出典)国勢調査(H12年以前は合併前の旧5市町村分を合計)

●中心市街地の人口推移



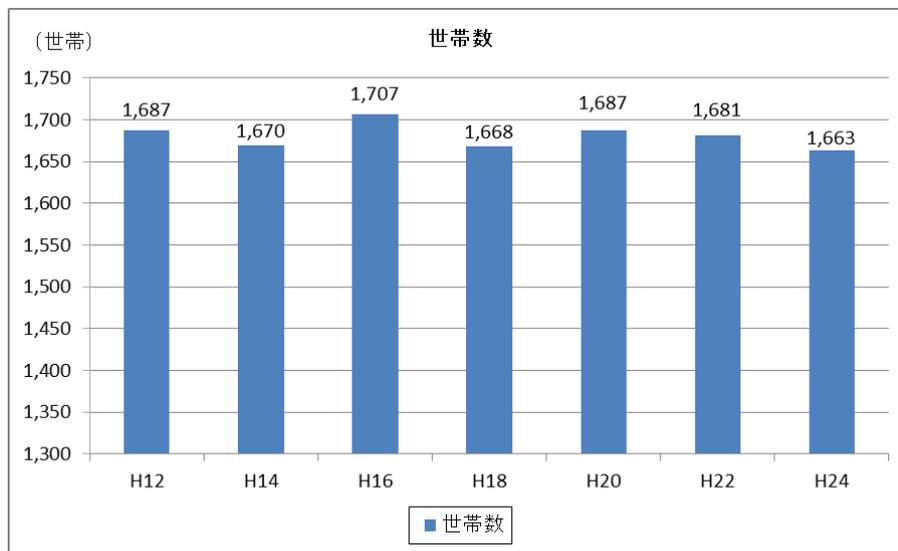
(出典)住民基本台帳:各年3月31日現在

●市町村及び中心市街地の人口推移

項目	単位	中心市街地		全市	
		H12年	H24年	H12年	H24年
人口	人	5,008	4,372	66,552	58,941
(人口増減率)	%	—	-12.6	—	-11.4
市人口シェア	%	7.5	7.4	—	—
(%増減差)	ポイント	—	-0.1	—	—
世帯数	世帯	1,687	1,663	19,497	20,048
(%増減差)	%	—	-2.4	—	2.8

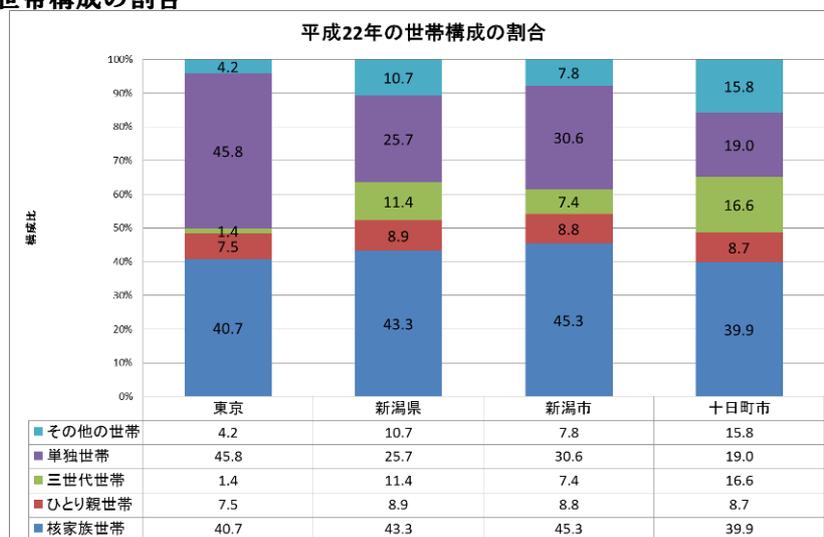
(出典)住民基本台帳:各年3月31日現在

●中心市街地の世帯数の推移



(出典)住民基本台帳:各年3月31日現在から作成

●世帯構成の割合



(出典)国勢調査から作成

イ) 高齢化の状況

【中心市街地高齢化率】
26.1% (平成 12 年)
⇒33.0% (平成 24 年)

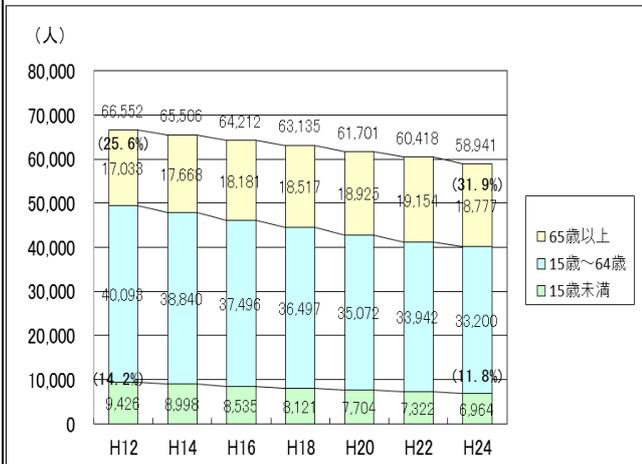
- ・ 高齢化が進んでおり、中心市街地の高齢化率は全市の高齢化率より高い
- ・ 中心市街地区域内でも中心部の高齢化が特に進んでいる
- ・ 雪下ろしで転落するなどの事故が多い。

中心市街地においても全市と同様に急速に高齢化が進み、しかもそのペースは、全市に比べてやや早い。郊外の新興住宅地への転居傾向がある一方、古くから中心市街地に住む高齢者などは、住み慣れた場所に留まることを選ぶ傾向が強いと考えられる。

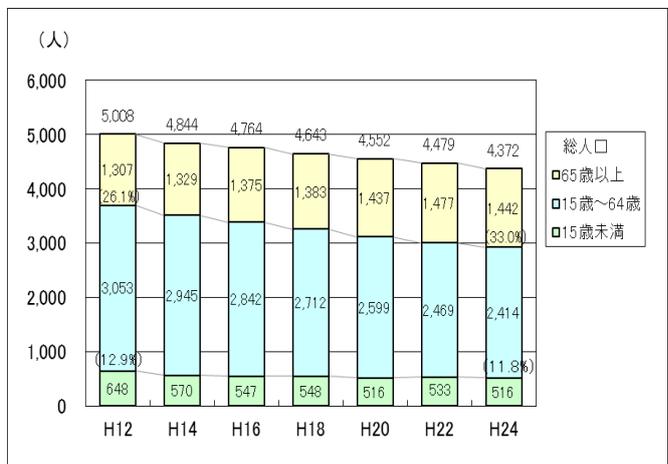
また、屋根の雪下ろし時の転落など雪処理中の高齢者の事故が多く発生している。

少子化については、全市と類似しているが、近年はその減少に下げ止まりの傾向がみられる。

●全市の年齢構成



●中心市街地の年齢構成



(出典)住民基本台帳:各年3月31日現在

●全市及び中心市街地の高齢化率の推移

項目	単位	中心市街地		全市	
		H12年	H24年	H12年	H24年
老年人口構成比(65歳～)	%	26.1	33.0	25.6	31.9

(出典)住民基本台帳:各年3月31日現在

●全市及び中心市街地の少子化の推移

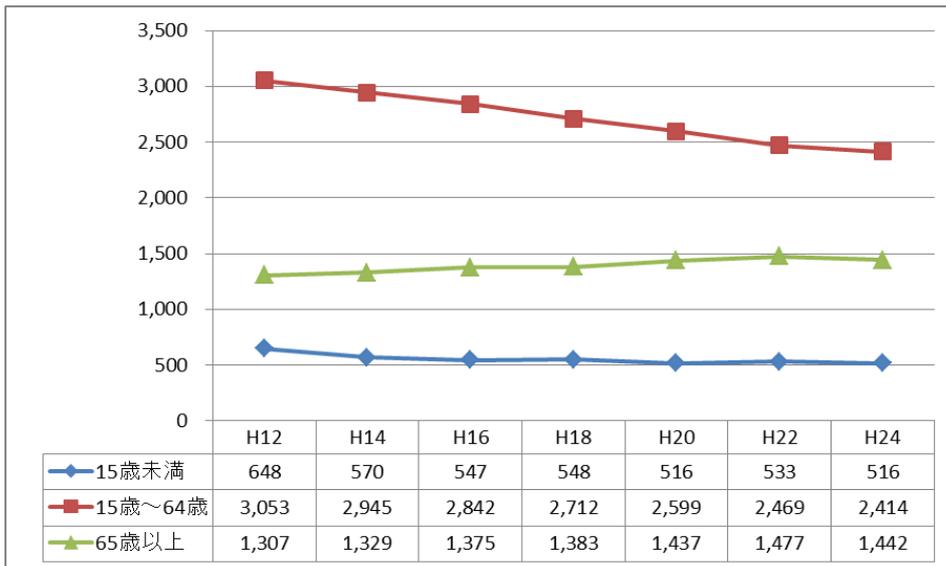
項目	単位	中心市街地		全市	
		H12年	H24年	H12年	H24年
年少人口構成比(~14歳)	%	12.9	11.8	14.2	11.8

(出典)住民基本台帳:各年3月31日現在

●雪害による人的被害（全市）

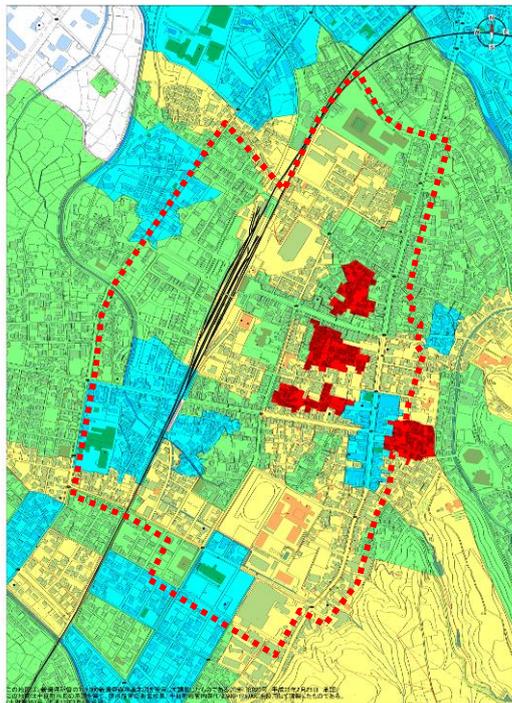
	H19年	H20年	H21年	H22年	H23年	H23年の死亡の内訳
死亡	1	1		2	4	<ul style="list-style-type: none"> ・61歳男性：除雪作業による ・72歳男性：雪下ろし中に2階から転落 ・62歳男性：雪下ろし中に屋根から転落 ・29歳男性：大型除雪機に巻込まれる
重傷者		12	1	26	5	
軽傷者	1	5	3	13	31	

●中心市街地における人口の年代別構成の推移



（出典）住民基本台帳：各年3月31日現在

●中心市街地における行政区別による高齢化分布



中心市街地活性化区域

55歳以上の人口割合		
40%未満		
40%～50%未満		
50%～60%未満		準高齢化 (55歳以上割合 50%以上)
60%以上		

（出典）住民基本台帳：平成24年3月31日から作成

ウ) 人口動態

【社会増減】

-17人 (平成19年~平成23年の5年間の平均)
 ※H17、H18は地震による特殊要因のため除外

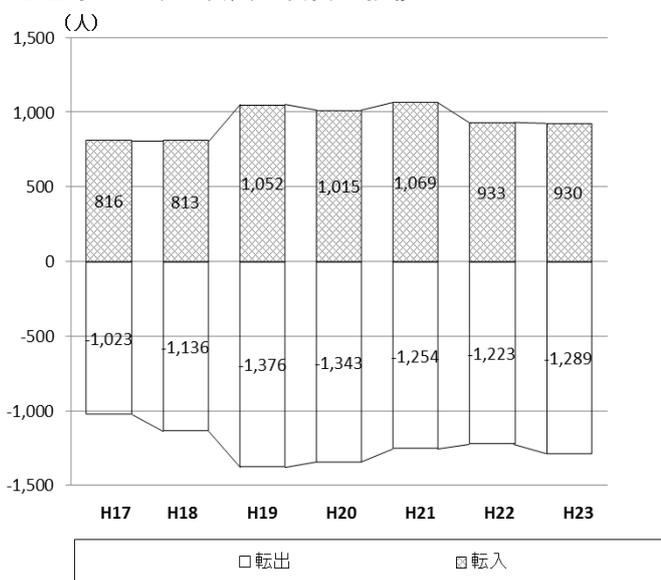
・転入者の減少が、社会減につながっている。

全市では転入人口に比較して転出人口が大きく上回っており、平成17年に比較すると増加する傾向にある。

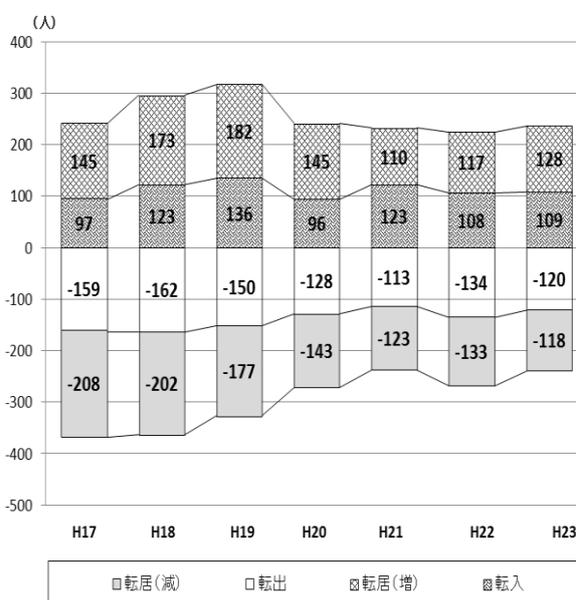
中心市街地では、平成16年の中越大震災で被災した老人世帯が生活再建のため、中心市街地外への家族と同居するケースが相次いだため、平成17年と平成18年は転出が大きかったが、その後の転出は減少傾向にある。

中心市街地内への転入は平成18年、19年に増加したが、その後は減少傾向に転じ、毎年数人~50人程度の社会減少となっている。

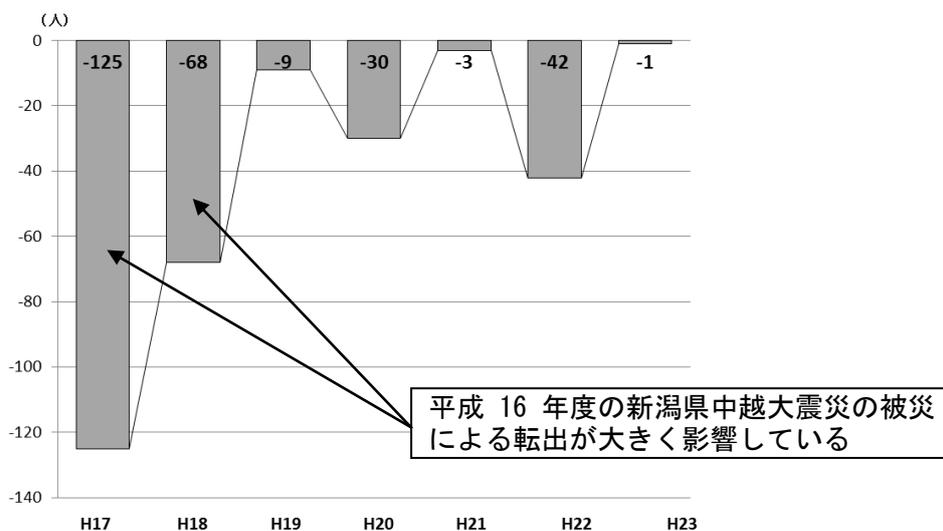
●全市における転入・転出の推移



●中心市街地における転入・転出の推移



●中心市街地における社会増減



(出典)住民基本台帳を集計

エ) 通勤・通学や就業人口の状況（全市）

【昼夜間人口比】 98.2%（平成2年） ⇒ 98.1%（平成22年） 【流入・流出人口】 1,284人の流出超過（平成22年）	・ 常住人口、昼間人口ともに減少しているが昼夜間人口比はほとんど変わらず推移 ・ 全市的に流出超過であるが、近年は通学による流入人口が多くなっている。
--	--

市の昼間人口の推移

平成22年までの過去20年間で、常住人口、昼間人口ともに約1万人減少しているものの、昼夜間人口比はほとんど変わらずに推移している。これは、近隣の大規模都市との距離が比較的離れているため、当市地域が単独の都市圏を構成していることによると考えられる。

●昼間人口の推移（「国勢調査」より）

年次	常住人口	昼間人口	昼夜間人口比
平成2年	70,938	69,668	98.2%
平成7年	67,962	66,346	97.6%
平成12年	65,028	63,360	97.4%
平成17年	62,034	60,803	98.0%
平成22年	58,911	57,800	98.1%

※ H12年以前は合併前の旧5市町村分を合計

周辺市町村との通勤・通学の状況と推移、その要因について

通勤通学については、いずれも平成22年までの過去20年間において流出超過の傾向にある。ただし、通学状況については、平成9年のほくほく線開業以降、流入が増えている。

周辺市町村との間で最も人の動きが活発なのは津南町であり、流入が流出を上回ってはいるが、流出も最も多い地域である。続いて、南魚沼市、小千谷市、長岡市と、近隣都市への流出傾向が大きい。

●周辺市町村との通勤状況（「国勢調査」より）*15歳以上の就業者

年次	当市が従業地		当市が常住地		流入超過数
	総数	他市町村からの通勤（流入）	総数	他市町村への通勤（流出）	
平成2年	37,877	1,568	38,771	2,462	△894
平成7年	36,277	1,766	37,552	3,041	△1,275
平成12年	33,551	1,967	35,130	3,546	△1,579
平成17年	31,885	2,380	33,159	3,654	△1,274
平成22年	28,708	2,327	29,992	3,711	△1,284

※ 平成12年以前は合併前の旧5市町村を合算し、5市町村域内での流入流出を差し引いて算出

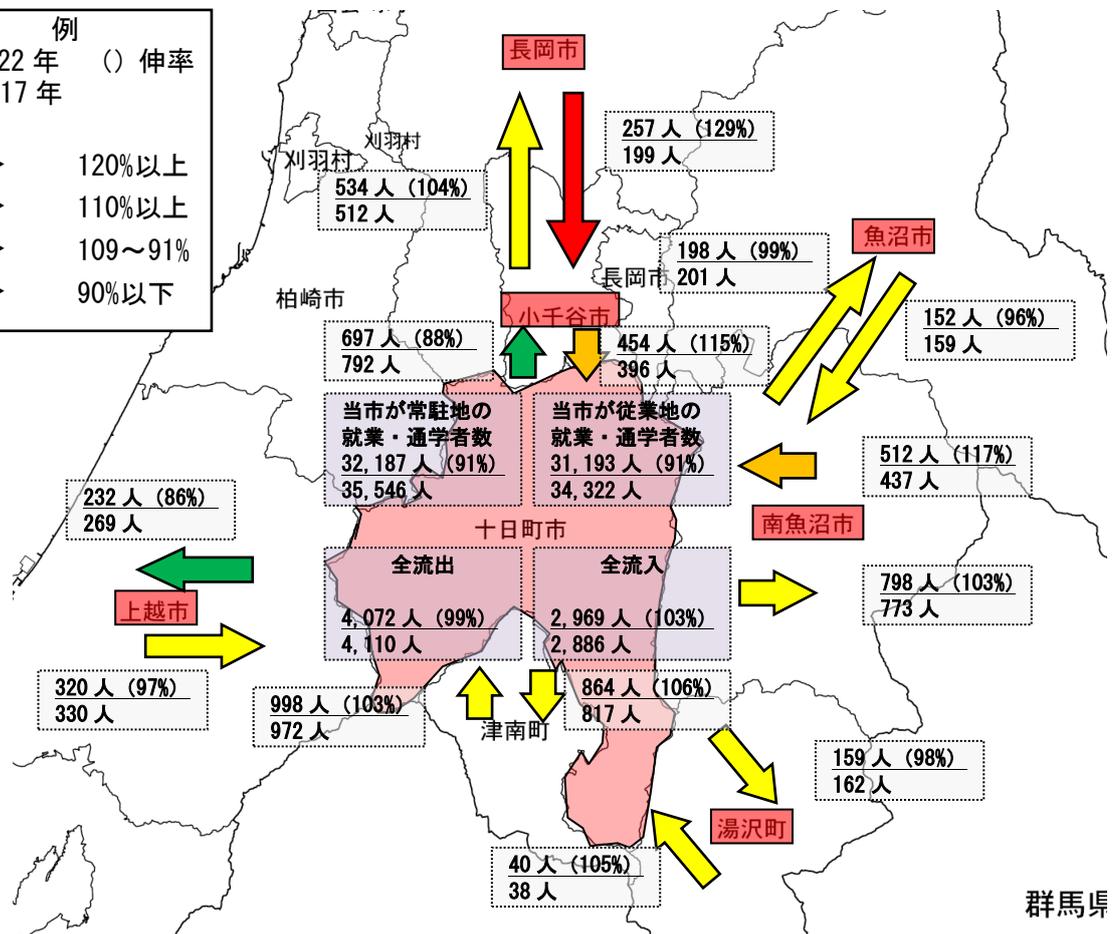
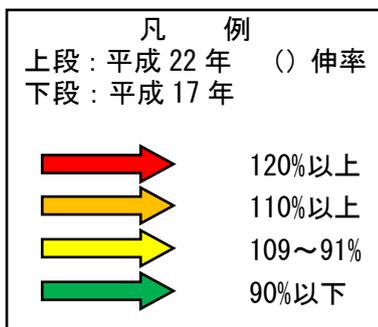
●周辺市町村との通学状況（「国勢調査」より）＊15歳以上の通学者

年次	当市が通学地		当市が常住地		流入超過数
	総数	他市町村からの通学（流入）	総数	他市町村への通学（流出）	
平成2年	3,610	224	3,982	596	△372
平成7年	3,125	321	3,461	657	△336
平成12年	2,744	546	2,826	628	△82
平成17年	2,437	506	2,387	456	+50
平成22年	2,485	642	2,195	361	+290

※ H12年以前は合併前の旧5市町村を合算し、5市町村域内での流出入を差し引いて算出

●周辺市町村との流出入状況詳細（「国勢調査」より）

(人)		津南町	南魚沼市	小千谷市	長岡市	上越市	魚沼市	湯沢町	その他	総数
平成17年	流出	814	773	792	512	269	201	162	587	4,110
	流入	972	437	396	199	330	159	38	355	2,886
平成22年	流出	864	798	697	534	232	198	159	590	4,072
	流入	998	512	454	257	320	152	40	236	2,969
内伸率 H22/H17	流出	106%	103%	88%	104%	86%	99%	98%	101%	99%
	流入	103%	117%	115%	129%	97%	96%	105%	66%	103%



◆人口に関するまとめ

■中心市街地の人口減少と高齢化が進行。

全市の人口は、昭和 25 年をピークとして、戦後の高度経済成長に合わせた大都市圏への人口集中に伴う生産年齢人口の社会減に加えて、近年の少子化による自然減によって減少の一途をたどっている。

中心市街地の人口は全市と同様に減少を続けており、その減少ペースは全市より早く進行している。また、全市の世帯数は増加しているが、中心市街地内の世帯数は減少傾向にある。

中心市街地への転入人口は近年横ばい状況であるが、転出人口は増加傾向にあり、中心市街地の人口減少の原因となっている。中心市街地は宅地などの敷地面積が狭く、屋根雪の処理スペースや駐車スペースの確保のため、敷地が広くとれる郊外に転出することも少子高齢化の一因と想定される。

さらに、中心市街地の高齢化率は全市に比べて高く、特に昔から市街地を形成していた中心部における少子高齢化は著しく進行している。

豪雪地域である当市では、屋根の雪下ろしで転落するなど、雪処理中の事故が多く発生している。

■通学による流入人口が増加。

常住人口、昼間人口ともに減少しているものの、昼夜間人口比はほとんど変わらずに推移している。これは近隣の大規模都市との距離が比較的離れており、当市地域が独立した都市圏を構成しているものと考えられる。

また、平成 9 年に南魚沼市の越後湯沢駅と上越市の犀潟駅を結ぶ北越急行ほくほく線が開業したことにより、近年当市への通学者が増加していることから、平成 17 年には流入が超過に転じ、平成 22 年にはさらに増加している。

②建物・土地利用等に関する現状分析

ア) 中心市街地の土地・建物の利用状況

【土地・建物利用状況】

- ・ 国道や県道などの幹線道路沿いに商業用地が連担している。
- ・ 中心市街地は住宅用地としての土地利用が多い。
- ・ 中心市街地には老朽化した空きビルや空き地が点在している。
- ・ 駅西土地区画整理事業が完了し、優良宅地が整備された。

中心市街地の土地利用は、国道や県道などの幹線道路沿いに商業用地が連担しており、中心市街地の北側と南側には公益施設用地が比較的大きく広がっている。また、中心部は都市計画用途地域の商業地域の指定がされているが、実際は多くが住宅用地として利用されている。

また、平成16年の中越大震災の被災を機に廃業し、未利用のまま老朽化した空きビルがあるほか、被災により建物が取り壊され、空き地となっている土地が多く点在している。

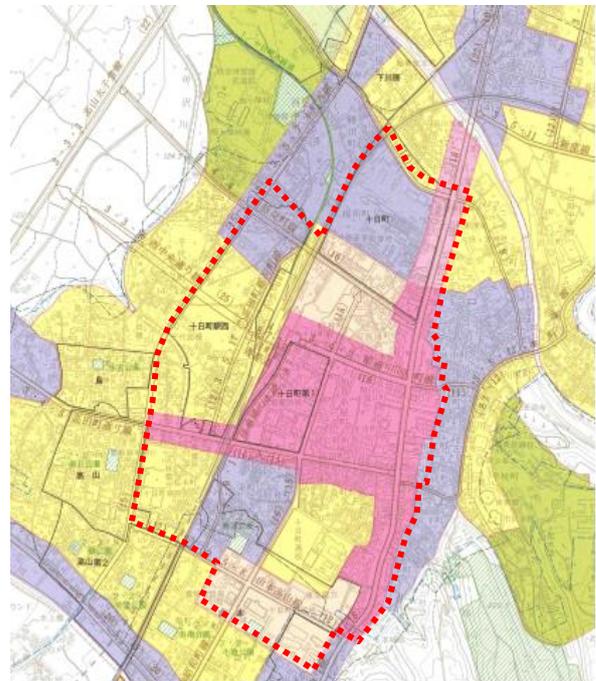
さらに、地場産業の織物業が好景気の頃に建築された事務所ビルにおいては、織物業の衰退による業務縮小のため空きフロアが増加している。

また、区域の西側には、平成5年から平成25年にかけて実施された十日町駅西土地区画整理事業で、優良宅地が整備され、宅地化が進んでいる。



凡 例				
自然的 利用	農地	田	畑	
	山林	水面	その他自然地	
	宅 地	住宅用地	商業用地	工業用地
		公共公益用地	道路用地	交通施設用地
		公共空地	その他公的施設用地	その他の空地
都市的 土地 利用				

●中心市街地の都市計画用途地域



中心市街地活性化区域



中心市街地活性化区域

● 中心市街地の土地・建物の状況



旧娯楽会館：平成16年の中越大震災により被災し廃業した大型商業ビル（平成24年8月に解体）



旧田倉：平成16年の中越大震災後に廃業した大型商業ビル（平成24年11月に解体）



中心市街地活性化区域

平成5年から平成24年にかけて駅西土地区画整理事業が実施され、13.8haに及ぶ区域に優良宅地が整備された。



平成16年の中越大震災の被災により取り壊された映画館跡地



平成16年の中越大震災の被災により取り壊された織物工場跡地



地場産業である織物業の不況により廃業した工場跡地

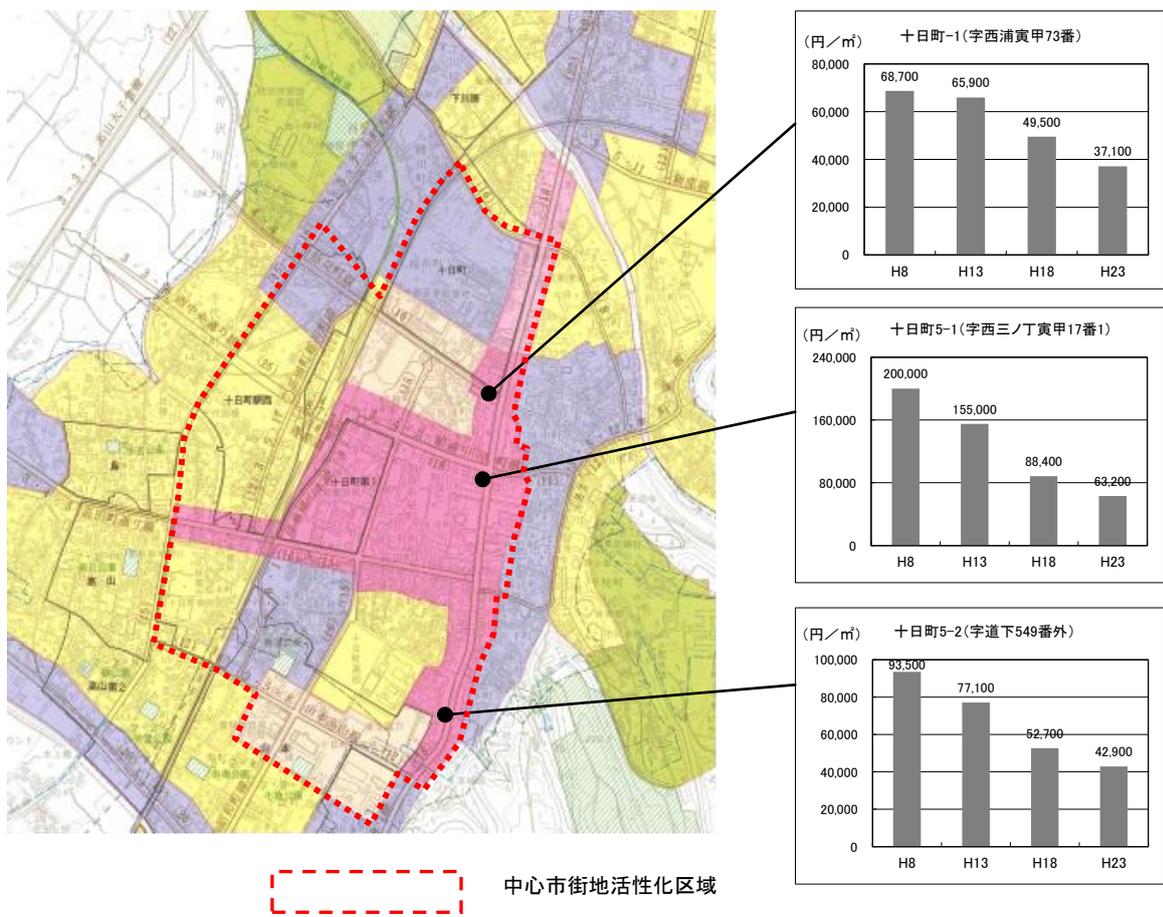


イ) 地価に関する状況

【地価】 200,000 円/㎡ (平成 8 年) ⇒ 63,200 円/㎡ (平成 23 年)	・ 中心市街地の商業地は地価の下落が著しい。
---	------------------------

地価公示ポイントの単純平均で比較すると、平成 8 年から平成 23 年までの 15 年間で、公示価格が市全域で概ね 4 分の 3、中心市街地で 2 分の 1 に下落した。特に中心市街地の商業地では 3 分の 1 以下まで大幅に落ち込んだところもある。

● 中心市街地内の地価公示ポイントと地価の推移



● 市内の地価の推移

ポイント	住所	用途区分	公示価格 (円/㎡)				増減率 (H8→H23)
			H8年	H13年	H18年	H23年	
十日町-1	字西浦寅甲73番	住宅地	68,700	65,900	49,500	37,100	△ 46.0%
十日町-2	四日町新田305番4	住宅地	38,900	39,600	31,800	28,200	△ 27.5%
十日町-3	寿町2丁目2番28	住宅地	60,100	60,600	47,900	42,300	△ 29.6%
十日町-4	上新井40番1	住宅地	18,100	18,500	17,400		—
十日町-5	上野甲1035番1	住宅地	8,600	17,400	16,500	15,100	75.6%
十日町 5-1	字西三ノ丁寅甲17番1	商業地	200,000	155,000	88,400	63,200	△ 68.4%
十日町 5-2	字道下549番外	商業地	93,500	77,100	52,700	42,900	△ 54.1%
十日町 5-3	水口沢18番1	商業地	34,000	34,100	31,100	27,800	△ 18.2%
増減率の平均		市全域の地価公示ポイント(十日町-4を除く)				△ 24.0%	
		中心市街地(十日町-1、十日町5-1、十日町5-2)				△ 56.2%	

出展：国土交通省「土地総合情報ライブラリー」

ウ) 住宅建築に関する状況

【住宅建築】

- ・中越大震災からの復興が進むにつれて、建築申請件数が減少している。
- ・住宅建築時に約15%が、中心市街地内から市街地外に移転している。

住宅の建築確認申請件数

十日町市中心市街地活性化推進室調べ

年度	総数	市街地内→市街地内		市街地内→市街地外	
		件数	割合 (%)	件数	割合 (%)
平成 17 年度	(43) 57	(39) 51	(90.7) 89.5	(4) 6	(9.3) 10.5
平成 18 年度	(22) 38	(20) 35	(90.9) 92.1	(2) 3	(9.1) 7.9
平成 19 年度	(18) 26	(15) 21	(83.3) 80.8	(3) 5	(16.7) 19.2
平成 20 年度	(15) 23	(12) 18	(80.0) 78.3	(3) 5	(20.0) 21.7
平成 21 年度	(7) 20	(5) 16	(71.4) 80.0	(2) 4	(28.6) 20.0
平成 22 年度	(1) 11	(1) 7	(100.0) 63.6	(0) 4	(0) 36.4
計	(106) 175	(92) 148	(86.8) 84.6	(14) 27	(13.2) 15.4

※ 建築確認申請受付一覧表から申請者地番が中心市街地内の地番のものを抽出しているため、中心市街地活性化基本計画の中心市街地の区域との整合はない。

※ 件数 () 内数値は、中越大震災と中越沖地震の被災によるもの。

※ 市街地内→市街地外には、区域内アパート居住から郊外へ新築した場合も含む。

中越大震災以降6年間について、中心市街地内の住宅の建築確認申請件数をみると、中越大震災からの復興が進むにつれて、建築確認申請の件数が減っている。また、市街地内から市街地外へ移転する割合が年々増えており、平均して15.4%となっている。

これは、被災というやむを得ない理由のため、震災直後は新たに土地を取得する余裕がなく、現在地での建て替えが多かったが、その後は、将来計画に基づくものが多くなり、アパート居住者などが新たに住宅を取得する場合に、地価が安く敷地面積が広い郊外の宅地を求めるケースが増えたものと考えられる。

エ) 生活関連施設に関する状況

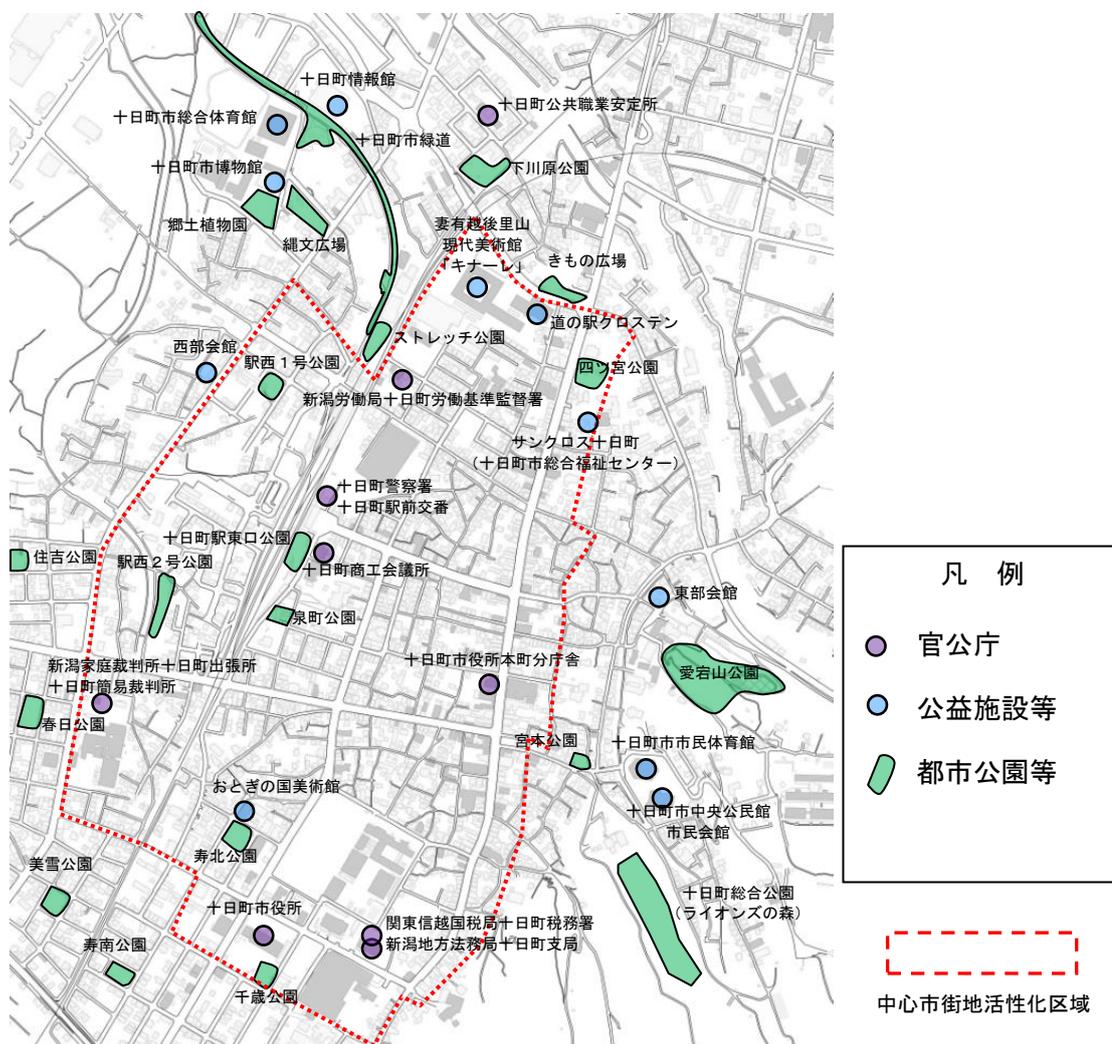
【生活関連施設】

- ・公園、図書館、中央公民館・市民会館などの公共公益施設の多くが中心市街地の隣接周縁部に位置する。
- ・医療施設、福祉施設、金融機関は中心市街地に集積されている。
- ・「県立十日町病院」は中心市街地内の現在地での建替えが決定している。

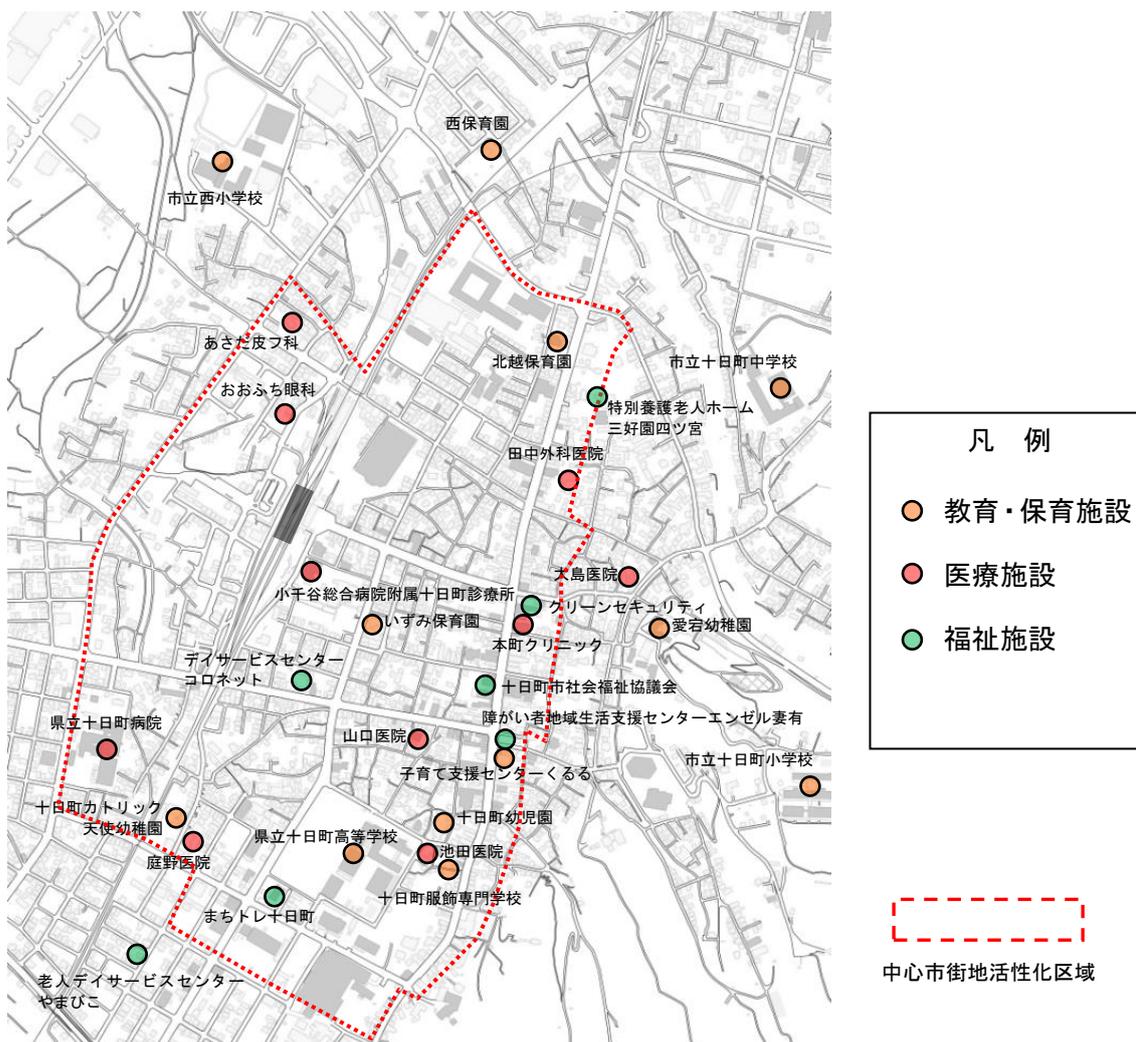
昭和 40～50 年代にかけて建設された公益施設は、広大な土地を求め中心市街地の隣接周縁部に立地してきたが、市民会館や中央公民館など一部の施設は老朽化や耐震上の問題から建て替えの時期に来ている。

一方で、近年は市役所の分庁舎を平成 18 年に本町 2 丁目に設置するなど公益施設のまちなか回帰に取り組み始めている。

●公共公益施設の立地状況



●中心市街地の医療、教育・福祉施設の立地状況



中心市街地には多くの医療施設や福祉施設が集積されている。

「県立十日町病院」は、中心市街地の医療施設や福祉施設と一体的に連携を図る必要があるため、現在地での建て替えが決定している。

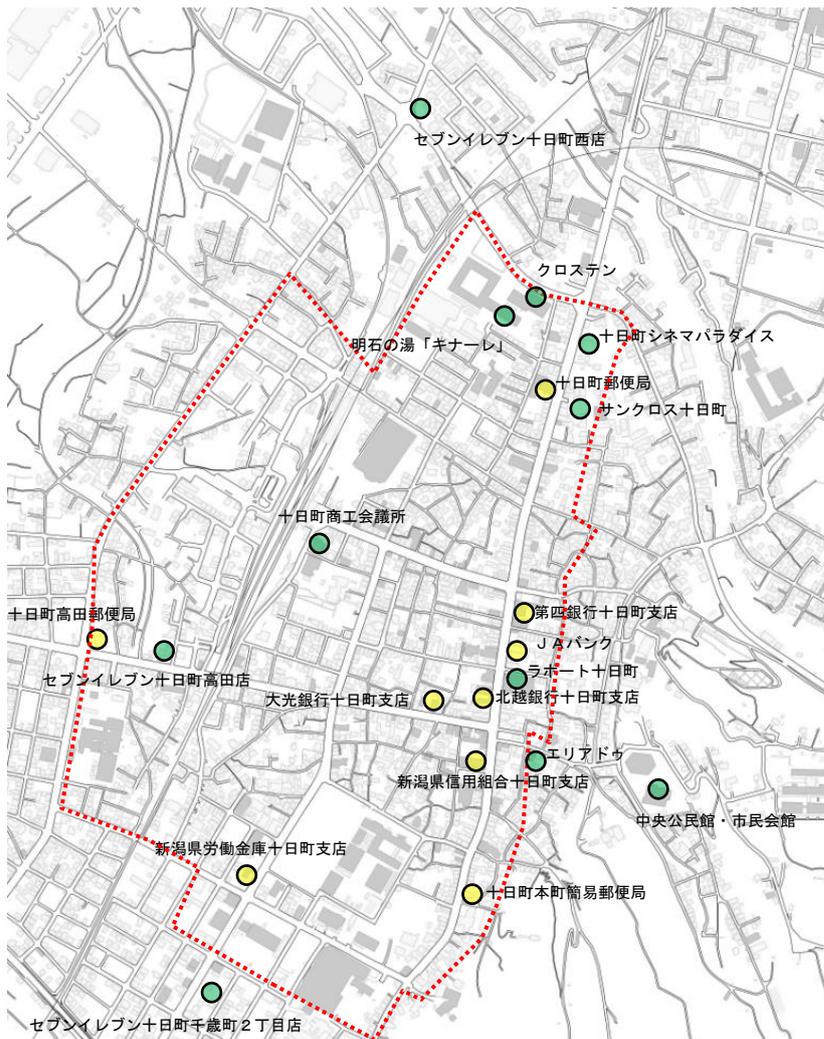
一方で、今後少子高齢化にともなって子育て世代や高齢者向けの居住・生活サービスの需要が増加すると見込まれるが、これに対応する施設が不足している。

●中心市街地の大規模な医療施設の規模及び診療科目

		県立十日町病院	
施設の階数	6階		
病床数	275		
診療科目	内科	眼科	
	外科	泌尿器科	
	整形外科	耳鼻科	
	産婦人科	神経内科	
	小児科	放射線科	
	脳外科	麻酔科	
	リハビリテーション科		

●中心市街地付近の生活利便施設、娯楽施設等の立地状況

施設	立地状況
金融機関	郵便局3局、銀行5行、JAバンク1行 (第四銀行十日町支店、北越銀行十日町支店、大光銀行十日町支店、新潟県信用組合十日町支店、新潟県労働金庫十日町支店)
健康増進施設	総合体育館、市民体育館、明石の湯(キナーレ内)、エリアドゥ
ホール・ギャラリー	中央公民館・市民会館、サングロス十日町(総合福祉センター) クロステン、十日町商工会議所
集宴会場	結婚式場1館(ラポート十日町)、集宴会場を備えた旅館等3軒(旅館清水屋、ホテルむかでや、原田屋旅館)
娯楽施設	単館映画館1館(「十日町シネマパラダイス」126席)
飲食施設	中心市街地内に多く点在している
コンビニエンスストア等の利便性の高い物販施設	セブンイレブン十日町高田店 セブンイレブン十日町西店 セブンイレブン十日町千歳町2丁目店



凡例

- 金融機関
- その他生活利便施設、娯楽施設等

中心市街地活性化区域

◆建物・土地利用等に関するまとめ

■中心市街地は住宅用地としての土地利用が多い。

中心市街地は、国道や県道などの幹線道路沿いに商業用地が連担しているものの、住宅地としての土地利用が多い。

■建物ストックの老朽化と遊休地などの増加。

中心市街地内には、高度経済成長と地場産業の織物業の発展とともに昭和40年代に建設された商業ビルや織物工場が多く点在しているが、平成16年の中越大震災による被災や老朽化しているものが多く、その改築や耐震化が求められている。

また、工場などが取り壊され未利用のままとなっている遊休地や業務縮小のため空きフロアとなっているビルも増加していることから、これらの有効利用が求められている。

■市街地内から市街地外への建て替えが増加。

中越大震災からの復興が進むにつれて、建築確認申請の件数が減少している。また、地価が安く、敷地が広い郊外の宅地を求める傾向があることから、市街地内から市街地外へ移転する割合が年々増える傾向にあり、平均して15.4%となっている。

■市民活動の拠点施設が老朽化。

活発な市民活動を支える拠点である市民会館や中央公民館などが老朽化や耐震上の問題から建て替えの時期に来ている。

■少子高齢化に対応した生活サービス施設が不足。

公園や図書館などの公共公益施設は、建設に広大な土地が必要であったことから中心市街地の隣接周縁部に建設されてきたが、平成18年には市役所機能の一部を本町分庁舎に移設したほか、県立十日町病院の建て替えは中心市街地内の現在地で決定しているなど、公益施設を中心市街地に集積する取り組みを進めている。

その他、医療、福祉施設や金融機関などは中心市街地に集積しているが、少子高齢化に対応した子育て世代や高齢者向けの居住・生活サービス施設が不足している。

③商業・観光に関する現状分析

ア) 中心市街地の歩行者・自転車の通行量

【歩行者・自転車通行量】

5,841人・台(平日)⇒3,346人・台(休日)
4,031人・台(平成17年)
⇒4,397人・台(平成23年度)

・休日より平日の通行量が多い、地域密着型商業^{*}の街である。
・平成18年の市役所分庁舎設置が通行量増加につながったと考えられる。

平成23年に行った調査によると、いずれの調査地点においても休日よりも平日の通行量が多いことから、地域密着型商業^{*}が中心の街であるといえる。各地点別では、本町分庁舎前が特出して多く、次いで駅前(「志天」前)、駅通り(共立観光前)と続く。自転車の利用は、平日こそ歩行者の10分の1から5分の1程度あるが、休日はどの地点もほとんどない。

また、平成17年の結果と比較すると、平成18年に市役所機能の一部を移転した本町分庁舎前で約2割の増加がみられるが、ほかの地点ではほぼ横ばいである。

●中心市街地の各調査地点の平日・休日の歩行者・自転車通行量の比較(平成23年度調査)

地点名	歩行者		自転車		合計		
	平日	休日	平日	休日	平日	休日	休日/平日
1 島田屋酒店前	411	213	91	8	502	221	44.0%
2 本町分庁舎前	1,910	1,092	213	11	2,123	1,103	52.0%
3 旧田倉前	486	349	138	10	624	359	57.5%
4 共立観光前	733	622	87	5	820	627	76.5%
5 でんきのデンデムシ駐車場前	537	333	103	4	640	337	52.7%
6 志天前	1,031	691	101	8	1,132	699	61.7%
合計	5,108	3,300	733	46	5,841	3,346	57.3%

<参考数値>

7 市道稲荷町線(稲荷町3丁目東)	206		101		307		
8 市道川治昭和町線(昭和町4丁目)	494		182		676		
9 市道十日町駅連絡道線(十日町駅連絡道地下道)	297				297		

【調査地点:1~6】(中心市街地活性化推進室調査)

平成23年度調査の調査日時(平日・休日の2回実施)

平日:平成23年5月26日(木) 7:00~19:00

休日:平成23年5月29日(日) 7:00~19:00

【調査地点:7~8】(建設課調査)

平日:平成22年10月14日(木) 7:00~19:00

休日:平成23年5月29日(日) 7:00~19:00

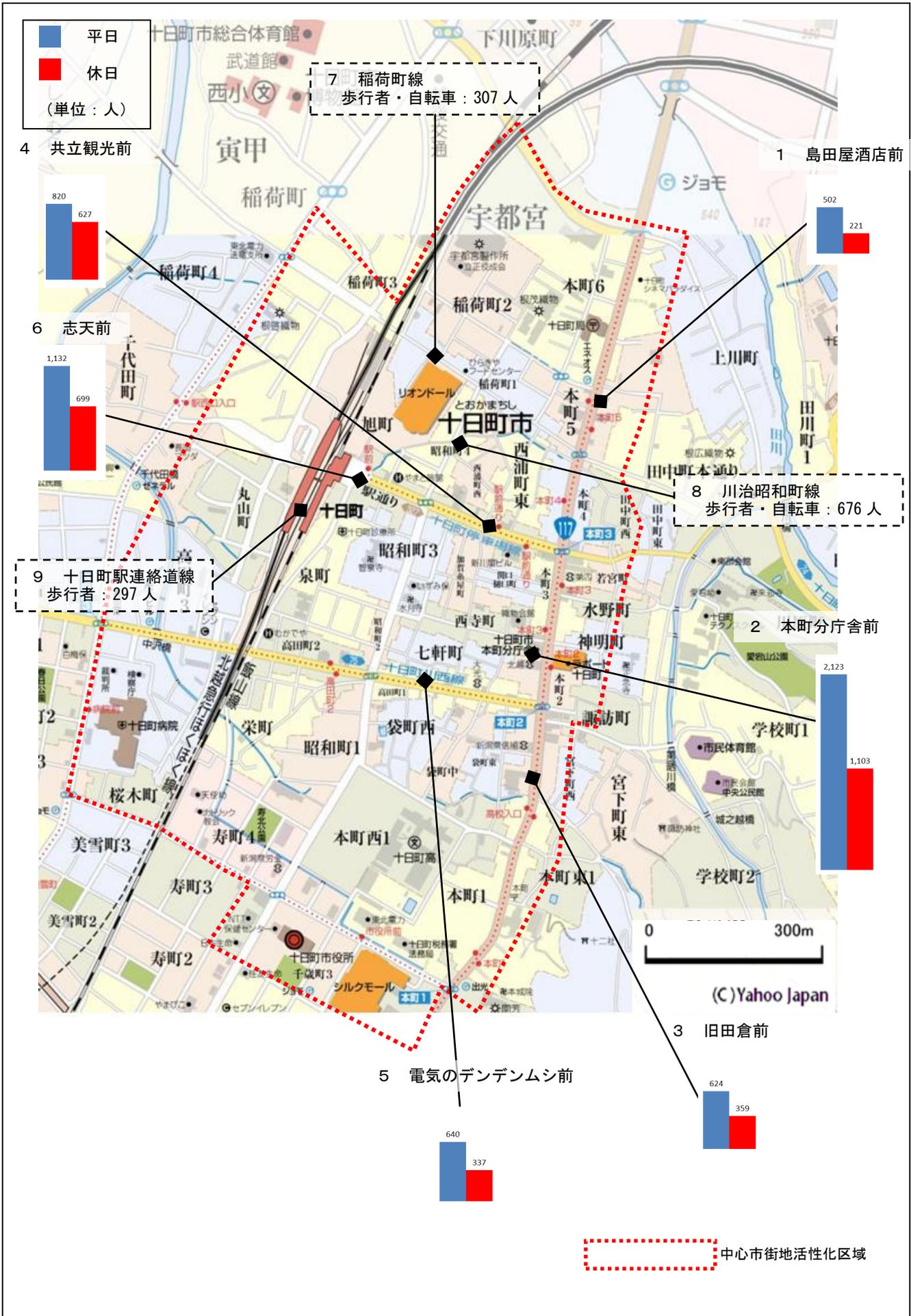
【調査地点:9】(都市計画課調査)

平日:平成22年6月7日(月) 7:00~19:00

休日:平成23年5月29日(日) 7:00~19:00

※経済産業省関東経済産業局の商店街分類より(ターゲティング分類等による中心市街地・商店街の活性化成功事例調査事業及び中心商店街・商店街の競争力強化のための指針提供事業)

- ・地域密着型商店街:地域の生活に密着した商店街
- ・近隣広域型商店街:地域住民に限らず周辺地域からも来街者のある商店街
- ・広域観光型商店街:遠方からの来街者の多い商店街



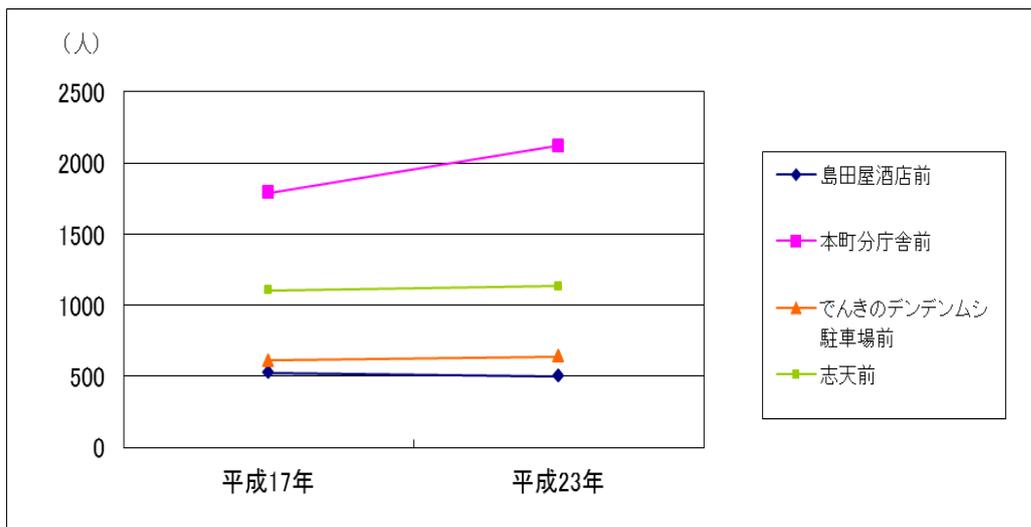
●歩行者・自転車通行量の推移（平日）（平成17年・23年度調査）

地点名	歩行者		自転車		合計		
	平成17年	平成23年	平成17年	平成23年	平成17年	平成23年	23年/17年
1 島田屋酒店前	401	411	123	91	524	502	95.8%
2 本町分庁舎前	1,583	1,910	207	213	1,790	2,123	118.6%
3 電きのデンデンムシ駐車場前	518	537	93	103	611	640	104.7%
4 志天前	994	1,031	112	101	1,106	1,132	102.4%
合計	3,496	3,889	535	508	4,031	4,397	109.1%

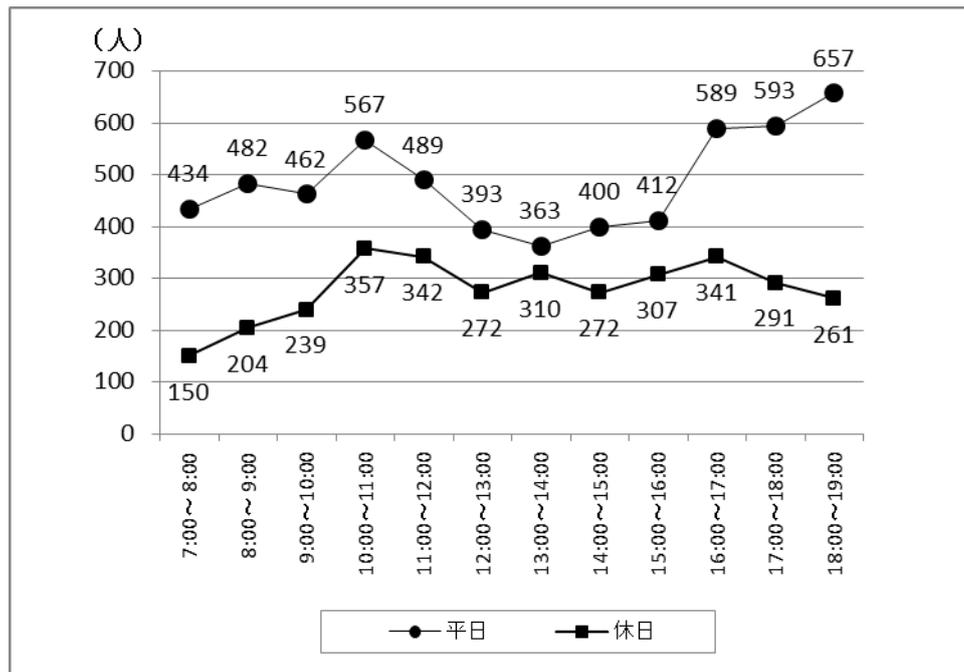
平成17年、平成23年の各調査日時

平成17年5月12日(木) 7:00~19:00、

平成23年5月26日(木) 7:00~19:00



●時間帯別通行量（平成23年度調査）



イ) 商業活動の状況

【中心市街地内の小売業事業所数】

199 店 (平成 6 年) ⇒ 129 店 (平成 19 年)

【中心市街地の小売業売場面積】

18,641 m² (平成 6 年) ⇒ 7,969 m² (平成 19 年)

【中心市街地の小売従業者数】

1,155 人 (平成 3 年) ⇒ 497 人 (平成 19 年)

【中心市街地の小売年間販売額】

17,465 百万円 (平成 3 年) ⇒ 6,318 百万円 (平成 19 年)

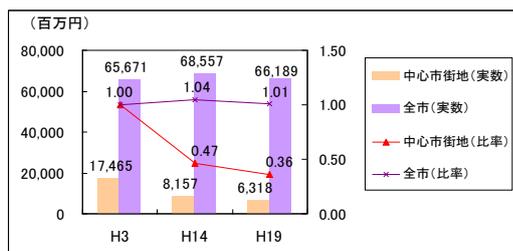
・ 中心市街地商店街の全体が商業の衰退状況にあるが、特に本町1丁目～4丁目にかけての衰退が著しい。

小売事業所数は、全市と中心市街地商店街ともに右肩下がり推移している。小売業売場面積、小売業従業者数及び小売年間販売額は、全市がほぼ横ばいで推移しているのに対し、中心市街地商店街は平成3年または6年に対し平成19年は50%前後の減少率となっている。

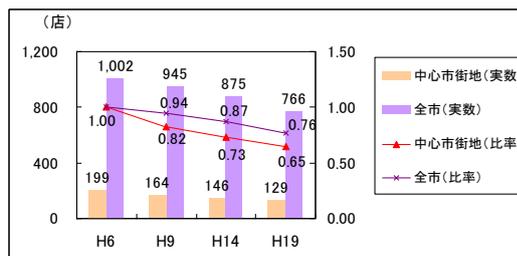
また、中心市街地内の商店街ごとの状況をみると、本町1～4丁目の落ち込みが著しく、特に“地域のデパート”的存在であった衣料品小売の「田倉」が平成16年に閉店した本町1～2丁目では、どの指標も大きく低下している。

全市では、小売事業所数が減少する一方で売場面積が増加しているが、これは年間小売販売額や小売従業者数が大きく減少していないことからわかるように、郊外型の大規模小売店舗に商業の中心が移ってきていることがみてとれる。

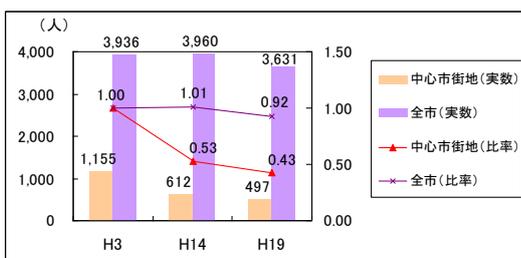
●年間小売販売額の推移



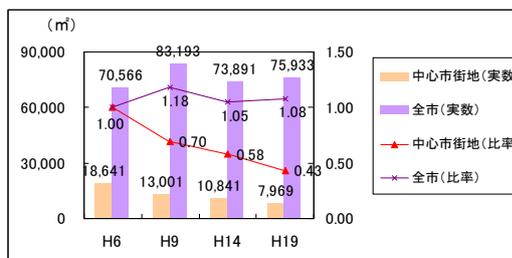
●小売事業所数の推移



●小売従業者数の推移



●小売業売場面積の推移



資料：商業統計（H6、H9の「小売従業者数」、「小売年間販売額」は、旧町村のデータがないため掲載していない。）

●中心市街地の各商店街の小売業年間販売額等の推移

	小売年間販売額 (百万円)			小売従業員数 (人)			小売事業所数 (店舗)			小売業売場面積 (m ²)		
	H14	H19	比率	H14	H19	比率	H14	H19	比率	H14	H19	比率
本町 1, 2 丁目	2,880	1,690	58.6%	210	161	76.7%	32	25	78.1%	3,587	1,490	41.5%
本町 3, 4 丁目	1,918	1,362	71.1%	138	110	79.7%	32	28	87.5%	3,162	2,466	78.0%
本町 5, 6 丁目	620	624	101.0%	49	44	89.8%	17	16	94.1%	344	596	173.3%
高田町昭和町	1,635	1,593	97.4%	132	115	87.1%	41	38	92.7%	2,383	2,214	92.9%
駅通り	1,104	1,049	95.0%	83	67	80.7%	23	22	95.7%	1,365	1,203	88.1%
主要商店街計	8,157	6,318	77.5%	612	497	81.2%	145	129	89.0%	10,841	7,969	73.5%
全市	68,557	66,183	96.5%	3,960	3,631	91.7%	875	766	87.5%	73,891	75,933	102.8%
全市での主要商店街のシェア	11.9%	9.5%	-2.4P	15.5%	13.7%	-1.8P	16.6%	16.8%	0.2P	14.7%	10.5%	-4.2P

資料：商業統計「二次加工統計表」より

ウ) 大規模小売店舗と消費動向の状況

【中心市街地内の買物利用割合】 68.5% (昭和 55 年) ⇒ 28.1% (平成 22 年)	・郊外の大規模小売店舗での買物割合の高まりや、十日町市以外での買物も多くなってきている。
---	--

平成 7 年頃から郊外型の大規模小売店舗での買物利用割合が高くなる一方で、平成 22 年の中心市街地の買物利用割合は大型小売店舗を含めても 28%にまで落ち込んでいる。

また、旧十日町市以外で買物をする割合はここ近年では 20%前後にとどまっていることから、市内の店舗間での顧客の奪い合いが続いていると考えられる。

中心市街地での消費動向の衰退を食い止めるため、市や商業関係団体では商店街の魅力向上に取り組んでいるが、大規模小売店舗を含めた大規模集客施設の郊外立地を抑制する計画的な土地利用規制を通じて、郊外への商業スプロール化を防ぐ必要がある。

●中心市街地内の主要な大規模小売店舗 (市調査)

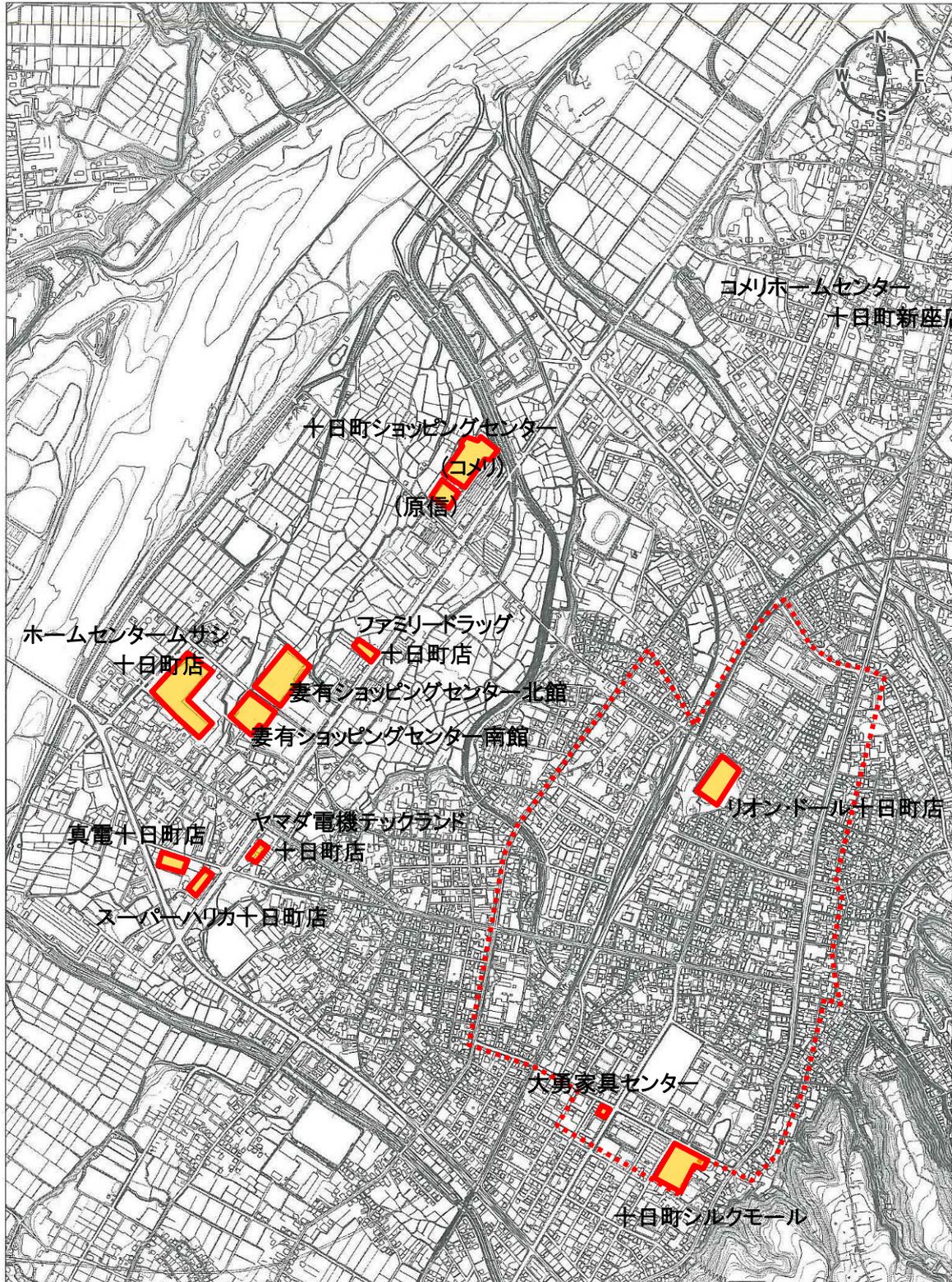
名称	店舗面積 (㎡)	出店	店舗構成			駐車台数	営業時間
			業態	核店舗 (主要販売品)	店舗数		
リオン・ドール十日町店	5,491	S54.12	スーパー	リオン・ドールコーポレーション、ひらせいホームセンター (食料品、衣料品、家庭用品、書籍、映像)	8	400	09:00 ~ 22:00
十日町シルクモール (原信十日町店)	7,403	H5.04	その他	原信、三喜、タツミヤ、セリア、星光堂薬局、ワシントン靴店 (食料品、衣料品、医薬品、靴・カバン)	13	500	09:00 ~ 21:00
大勇家具センター	1,400	S43.12	専門店	大勇家具センター (家具類、インテリア用品)	1	15	09:00 ~ 20:00

●中心市街地外的主要な大規模小売店舗 (市調査)

名称	店舗面積 (㎡)	出店	店舗構成			駐車台数	営業時間
			業態	核店舗 (主要販売品)	店舗数		
十日町SC (コメリHC十日町店・原信十日町北店)	7,970	H15.03	その他	コメリ、原信 (DIY、家庭用品、食料品)	2	416	09:00 ~ 21:00
コメリホームセンター十日町新座店	1,911	S62.10	ホームセンター	コメリ (自動車用品、家庭用品、DIY、園芸用品)	1	100	09:00 ~ 20:00
妻有SC北館 (イオン十日町店)	10,178	H6.11	ショッピングセンター	イオンリテール (食料品、衣料品、身の回り品、家庭用品)	15	343	09:00 ~ 22:00
妻有SC南館 (ケーズデンキ十日町店)	5,054	H15.11	専門店	北越ケース (家電、情報通信機器)	6	498	10:00 ~ 20:00
ホームセンタームサシ十日町店	14,023	H17.04	ホームセンター	アークランドサカモト (DIY、家庭用品、衣料品、食料品)	1	660	09:00 ~ 19:30
ファミリードラッグ十日町店	1,182	H19.04	専門店	マツモトキヨシ甲信越販売 (医薬品、化粧品、家庭用品)	2	44	09:30 ~ 21:00
スーパーハリカ十日町店	1,224	H8.07	専門店	ハリカ (贈答品、酒類、清涼飲料)	3	38	9:30 ~ 20:00
真電十日町店	1,500	S61.10	専門店	ノジマ (家電、情報通信機器)	1	100	10:00 ~ 20:00
中里SC U-MALL (ラポート十日町中里店)	1,980	H4.5	スーパー	ラポート十日町 (食料品、家庭用品、衣料品、身の回り品)	9	106	09:30 ~ 20:00
ヤマダ電機テックランド十日町店	1,540	H24.3	専門店	ヤマダ電機 (家電、情報通信機器)	1	115	10:00 ~ 22:00

●中心市街地と周辺の大規模小売店舗の分布状況

十日町市丑 付近



UserID = 1157

(中央) 1/12500

0 1km

2013年1月24日

 中心市街地活性化区域

●旧十日町市の買物地区利用割合の変遷

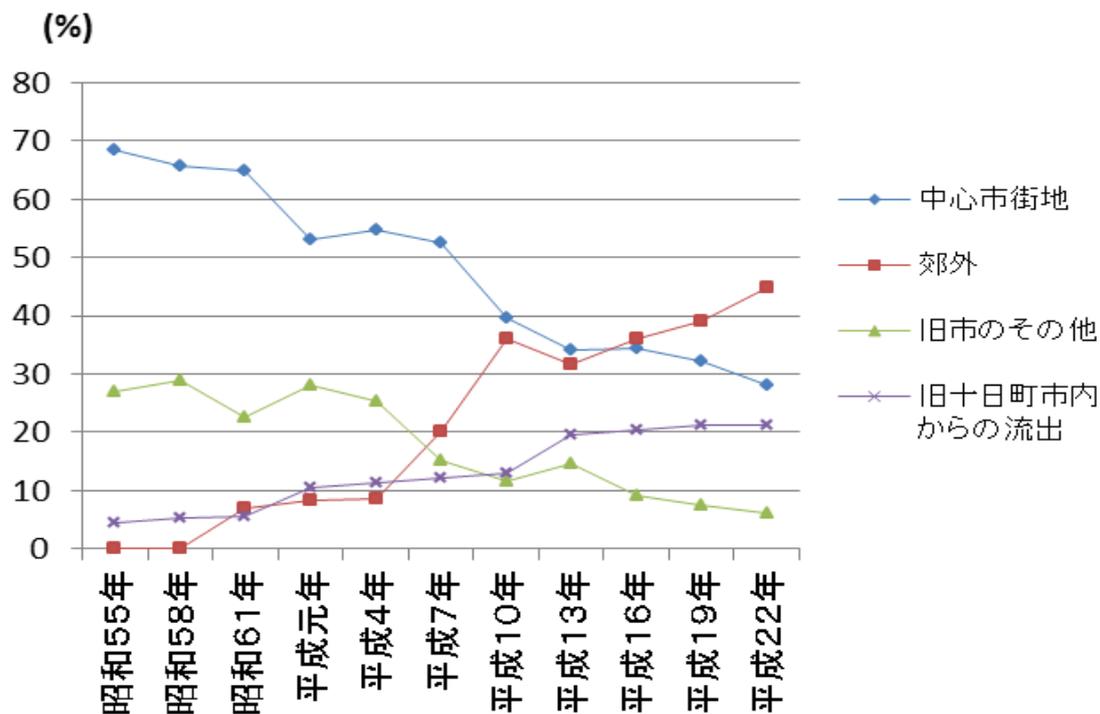
単位 (%)	中心市街地								郊外					中心市街地計	郊外計	左記以外の旧十日町市内	旧十日町市内合計	旧十日町市内から旧市外への流出
	本町1丁目～本町2丁目 注1	本町3丁目～本町4丁目 注2	本町5丁目～本町6丁目	駅通り	高田町1丁目～高田町4丁目	昭和町1丁目～昭和町3丁目	リオン・ドール	十日町シルクモール	高山(R253沿い)	トーカイ(しまむら(妻有SCを除く) 注3	下島(ジャスコ付近) 注3	下島(原信・コメリ以外)	下島(左記以外の地区)					
全品目																		
昭和55年	(1)7.6	30.3	4.1	10.6	6.8	9.1								68.5	0.0	27.0	95.5	4.5
昭和58年	(1)8.7	29.0	3.1	7.6	5.2	12.1								65.7	0.0	29.0	94.7	5.3
昭和61年	(1)8.8	31.2	(2~6)	6.1	4.8	14.0			7.0					64.9	7.0	22.6	94.5	5.5
平成元年	14.8	14.2	2.4	5.0	3.9	12.8			8.4					53.1	8.4	28.0	89.5	10.5
平成4年	12.9	12.2	2.7	4.5	4.3	18.1			8.6					54.7	8.6	25.3	88.6	11.4
平成7年	8.1	7.1	1.5	2.5	2.9	14.2	16.2		6.9	13.1				52.5	20.0	15.3	87.8	12.2
平成10年	5.5	4.7	0.8	2.2	1.8	1.0	11.3	12.2	6.0	30.0				39.5	36.0	11.6	87.1	12.9
平成13年	4.8	4.2	0.9	2.5	1.7	1.1	6.6	12.3	4.1	3.5	24.2			34.1	31.8	14.6	80.5	19.5
平成16年	3.9	2.8	0.7	2.4	1.6	1.0	10.3	11.6	3.3		20.5	4.3	8.0	34.3	36.1	9.2	79.6	20.4
平成19年	3.5	2.4	0.4	2.5	2.4	0.7	10.1	10.1	3.4		26.0	7.0	2.8	32.1	39.2	7.5	78.8	21.2
平成22年	1.9	1.4	0.4	0.8	3.0	0.6	10.5	9.5	2.8		29.5	9.5	3.0	28.1	44.8	6.0	78.9	21.1

注1) 昭和55年～61年度は本町1丁目のみ。

注2) 昭和55・58年度は本町2丁目を含み、昭和61年度は本町2丁目～6丁目を地区とした。

注3) 平成7年度は(トーカイ～しまむら)を含まない。

※新潟県「平成22年度 中心市街地に関する県民意識・消費動向調査報告書」を元に作成



エ) 商店街の状況

【アーケードの延長】

L=3.6km

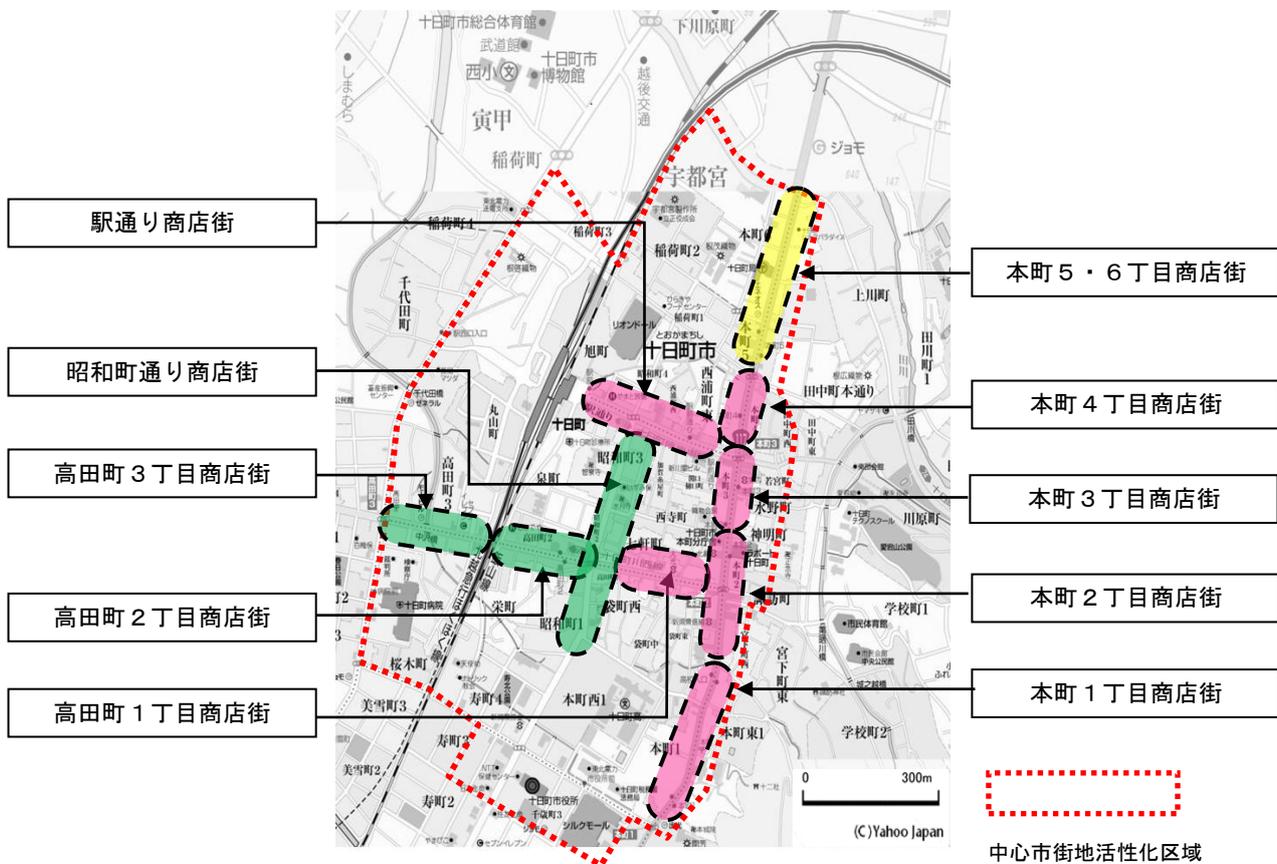
【空きビル・空き店舗】

老朽化した空きビルが点在。閉店した店舗は住宅併用のため貸し出す物件は少ない。

- ・国道や県道などの幹線道路沿いに連担している商店街はアーケードや融雪歩道が整備され、安全で快適な歩行空間となっている。
- ・老朽化した空きビルが点在し、近隣住民に不安を与えている。

中心市街地には国道や県道などの主要幹線道路沿いに10の商店街が存在する。これらの商店街では、老朽化したアーケードのリニューアルと道路拡幅による歩道設置に併せた融雪歩道の整備を平成2年から平成15年にかけて実施し、約5.3kmもの快適な歩行空間が確保されている。そのため、全国でも有数の豪雪地域であっても、冬期間でも来街者の利便性と安全が確保されている。

●中心市街地商店街の位置と施設状況

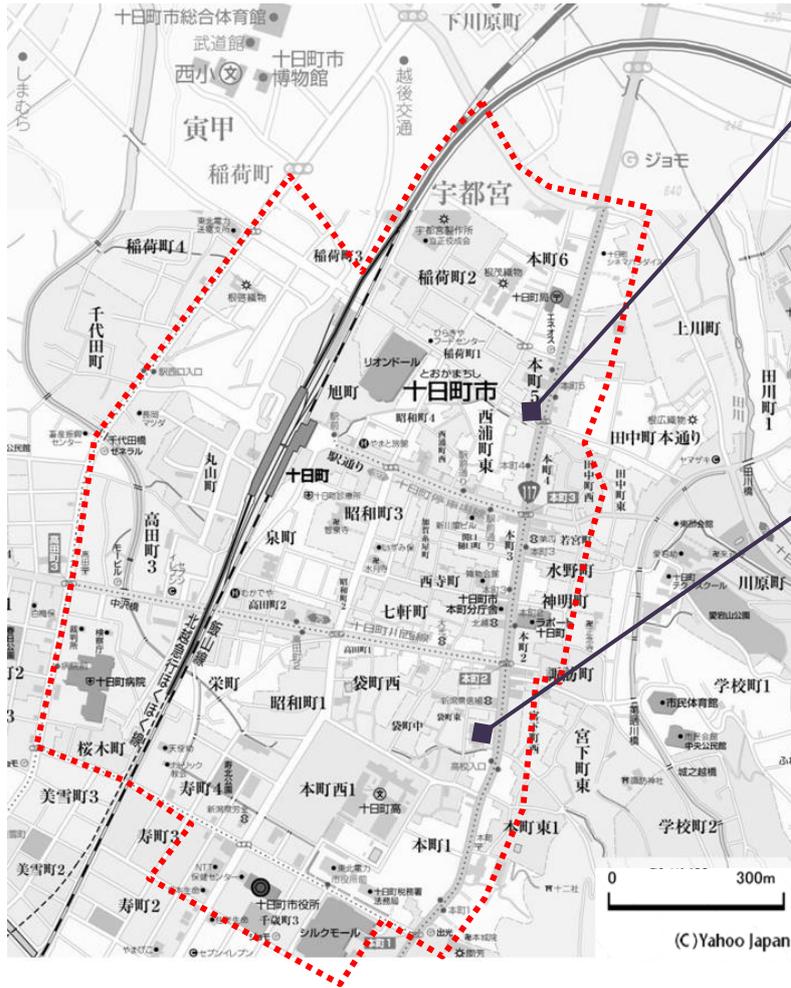


組合名	施設状況	施設延長(m)
○振興組合		
1 十日町市本町一丁目商店街振興組合	アーケード	678
2 十日町市本町二丁目商店街振興組合	アーケード	504
3 十日町市本町三丁目商店街振興組合	アーケード	295
4 十日町市本町四丁目商店街振興組合	アーケード	285
5 十日町市本町五・六丁目商店街振興組合	一部アーケード	616
6 十日町市駅通り商店街振興組合	アーケード	706
7 十日町市高田町一丁目商店街振興組合（通称：コモ通り商店街）	アーケード	551
○協同組合		
8 十日町市高田町二丁目商店街協同組合	融雪	391
9 十日町市高田町三丁目商店街協同組合	融雪	452
10 十日町市昭和通り商店街協同組合	融雪	879
	計	5,357

※施設の延長は道路の両側をカウント

	本町1	本町2	本町3	本町4	本町5・6 (アーケード)	駅通り	高田町1	高田町2 (融雪歩道)	昭和町通り (融雪歩道)	合計
アーケードの長さ(m)	677.93	504.00	294.76	285.00	252.10	363.73	706.00	551.00		3634.52
アーケードの柱数(本)	104	65	30	30	34	97	112			472
アーケード建設日(年月)	平成11年～ 12年	平成13年～ 15年	平成6年	平成9年11 月	平成13年11 月	平成14年11 月	平成9年～ 10年	平成2年1月	平成5年	平成9年～ 10年

●大規模な空きビル・空き店舗の状況



旧娯楽会館：平成16年の中越大震災により被災し廃業した大型商業ビル（平成24年8月解体）



旧田倉：平成16年の中越大震災の被災により廃業した大型商業ビル（平成24年11月解体）



中心市街地活性化区域

●空き店舗の状況（平成25年4月現在）

所在地	店舗名	店舗の一部にあるテナント
本町1丁目	旧イトー楽器	
本町1丁目	旧花むら	
本町2丁目	のとやビル第2	1F：メガネスーパー
本町2丁目	福対協	
本町4丁目	中徳（1階と2階）	
本町5丁目	アーバンプラザビル2階（202号室、203号室）	1F：ラーメンクマ
高田町1丁目	やまもビル2階（しるえっと）	1F：mijot
高田町2丁目	すぐやビル2階	1F：スナックメロディ

オ) 観光の状況

【観光入込客数（全市）】

161 万人（平成 16 年）⇒252 万人（平成 22 年）

【主要な観光入込客数（中心市街地）】

- ・ 明石の湯：13 万人／年（日平均：約 430 人）
- ・ 道の駅クロステン：約 30 万人／年
- ・ 里山現代美術館キナーレ：約 9 万人（3 年に一度の会期中）

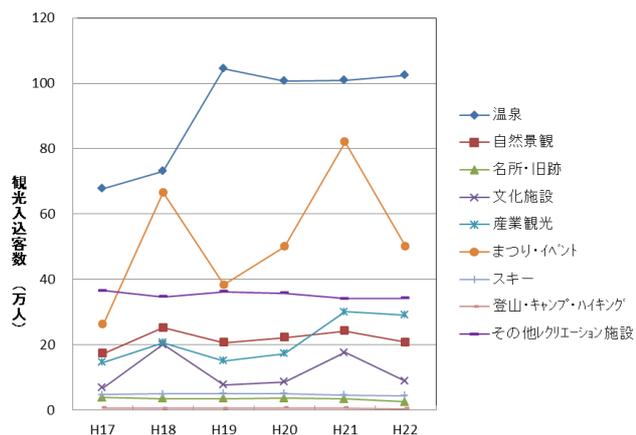
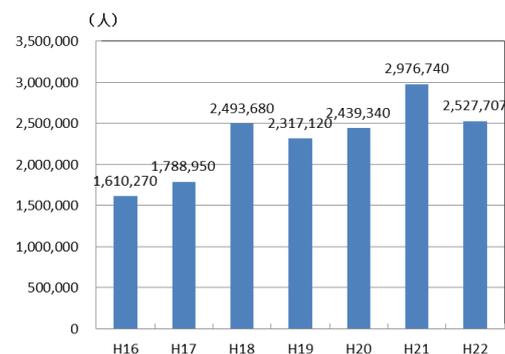
- ・ 全市の観光入込客数は「大地の芸術祭」などの新たな取り組みにより年々増加傾向にある。
- ・ 中心市街地内の観光施設にも多くの観光客が訪れている。

全市の観光入込客数は年々増加傾向にある。これは温泉施設の利用客の増加の影響が大きい。このほか平成 12 年から開催されている「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」も大きく寄与している。3 年ごとに開催されるトリエンナーレ形式であり、開催年には国内だけでなく海外からも多くの観光客が訪れ、平成 18 年、平成 21 年の観光入込客数は大きく伸びている。また、会期終了後も数多くの恒久作品が残っているため、開催年以外の年でも内外から多くの観光客が訪れる。

中心市街地内では「大地の芸術祭」の主要作品である「越後妻有交流館キナーレ」が平成 24 年にリニューアルされ「越後妻有里山現代美術館キナーレ」として生まれ変わり、芸術祭期間中の約 2 ヶ月間だけで約 93,000 人の来場があった。「道の駅クロステン」も同時期にリニューアルしたため、今後の入込客数の増加が期待されている。

一方、これらの施設と商店街との連携が不足しているため、中心市街地の中心部への回遊性につながっていないという課題がある。

●十日町市への観光入込客数の推移



●主要な観光施設の入込客数の推移（市内）

十日町市の主要な観光地	観光目的	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年
芝峠温泉	温泉	31,760	95,300	107,200	105,670	100,760	98,510	66,844
ゆくら妻有	温泉	-	-	12,950	117,490	102,060	118,590	111,599
ミオン中里	温泉	-	-	23,040	215,880	212,500	198,550	212,060
松之山温泉	温泉	199,830	188,230	230,290	240,610	243,620	252,990	-
千手温泉	温泉	212,670	208,140	209,950	223,310	205,170	205,750	-
温泉	温泉	124,350	129,140	130,800	126,280	127,180	120,800	-
松之山温泉(旅館)	温泉・健康	-	-	-	-	-	-	73,770
松之山温泉(日帰り入浴施設:鷹の湯)	温泉・健康	-	-	-	-	-	-	79,410
松之山温泉(日帰り入浴施設:ナスデビュウ湯の山)	温泉・健康	-	-	-	-	-	-	107,430
ベルナティオ	温泉・健康	-	-	-	-	-	-	112,245
明石の湯	温泉・健康	-	-	-	-	-	-	123,690
四季彩館ベジパーク	産業観光	-	-	-	-	-	104,630	-
スキー場	スキー	-	-	49,740	51,040	-	-	-
当間高原リゾート	その他	264,410	283,190	276,040	252,430	258,680	250,450	154,576
まつだい雪国農耕文化村センター	文化施設	-	-	80,110	-	32,050	89,660	-
十日町雪まつり	まつり・イベント	85,000	140,000	138,000	184,000	300,000	315,000	325,000
大地の芸術祭	まつり・イベント	-	2,000	369,750	-	20,330	327,670	-
ふるさと会館	産業観光	56,390	56,390	63,890	52,380	82,890	91,120	77,426
清津峡	自然景観	75,350	92,580	98,700	89,980	90,490	86,880	76,977
美人林	自然景観	53,760	62,840	113,550	76,160	91,620	110,960	91,800

新潟県観光統計情報より

●主要な観光資源の分布（市内）

■松代雪国農耕文化村センター
まつだい「農舞台」
（大地の芸術祭）



■ナカゴグリーンパーク



■光の館（大地の芸術祭）



■星と森の詩美術館



■「星峠の棚田」



■神宮寺



■十日町情報館



■日本三大薬湯「松之山温泉」



中心市街地

■十日町市博物館に展示される
国宝「火焰型土器」



■越後松之山「森の学校」キョロロ



■美人林（ブナ林）



■上越国際当間スキー場



■当間高原リゾート「ベルナティオ」



■なかさと清津スキー場



■小松原湿原

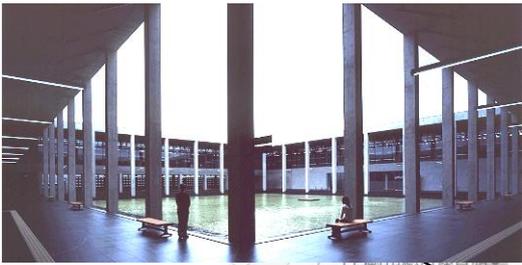


■日本三大渓谷「清津峡」



●主要な観光などの資源の分布（中心市街地）

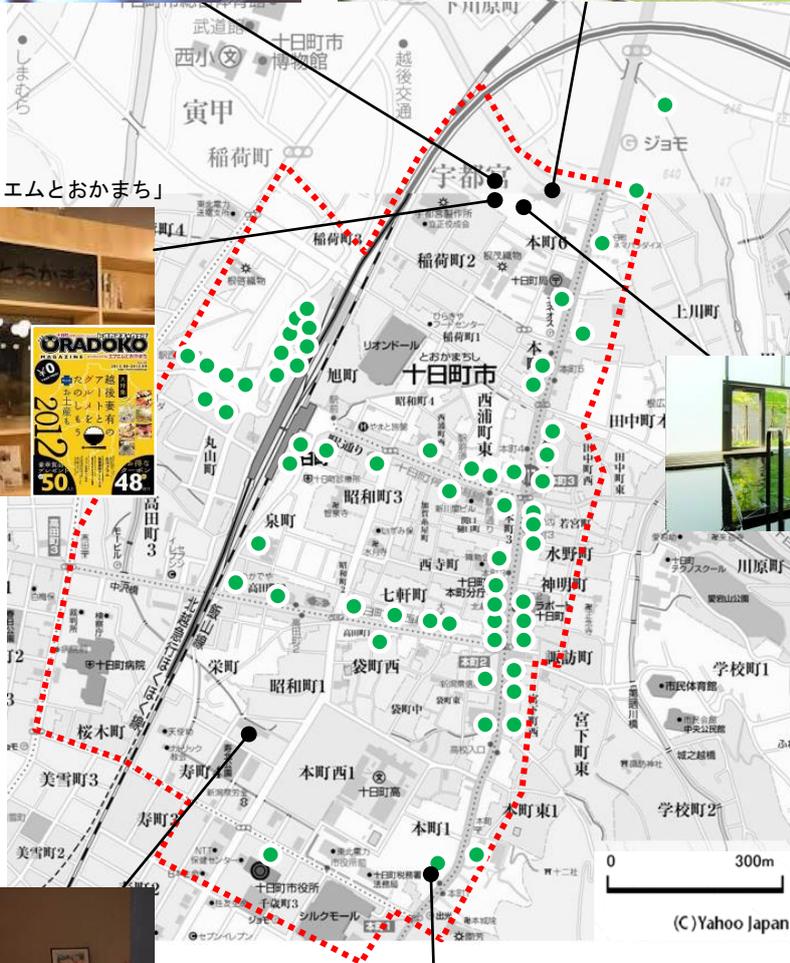
■越後妻有里山現代美術館「キナーレ」



■道の駅クロステンとギネス認定の「つるし雛」



■コミュニティ放送
「ほっこりラジオ エフエムとおかまち」



■明石の湯



■おとぎの国美術館



■石彫プロムナード ●:石彫設置個所



●施設概要（中心市街地）

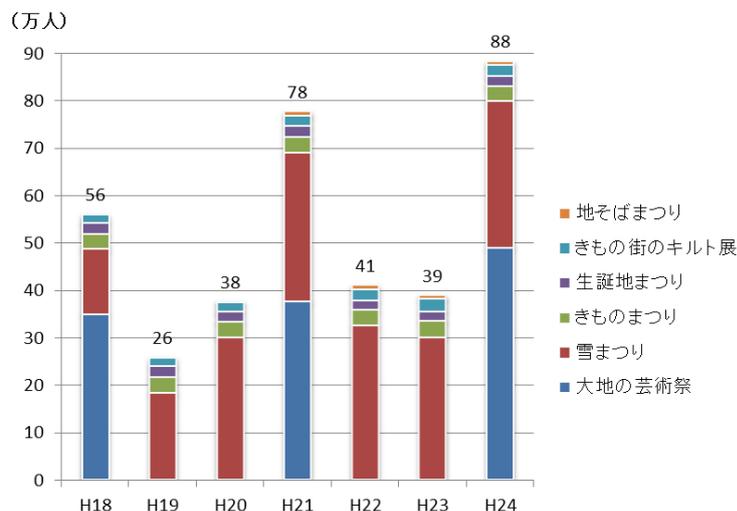
施設名	内容	入込数や特徴など
越後妻有里山現代美術館「キナーレ」	大地の芸術祭の作品かつ拠点施設であり、1階部分の回廊は芸術祭の期間中作品が展示される。その他の期間は年間を通じて各種イベントが行われる。	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術祭期間中（約2ヵ月間） 平成21年：4万人（期間中） 平成24年：9.3万人（期間中） ・主なイベントの利用 「きものの街のキルト展」、地そばまつり、手づくり市 など
コミュニティ放送「ほっこりラジオエフエムとおかまち」	平成16年に発生した新潟県中越大地震直後、「臨時災害放送局 十日町市災害FM」として開局され、災害や生活情報を約1ヵ月にわたり放送し、その後市民からの強い要望に基づき民間により開設されたラジオ局。	<ul style="list-style-type: none"> ・市民出演による放送や地域情報、各種イベントの生中継、生活関連情報などを放送。 ・地域情報のポータルサイトの開設や地域情報満載のフリーペーパー誌「ORADOKO」を発行。
道の駅クロステン	地場産業振興センターとして建設され、土産品の販売や地元食材によるレストランやレセプションホールなどを併設している。	<ul style="list-style-type: none"> ・年間入込客数：約30万人/年 観光団体客やホールの利用 平成24年にリニューアルオープンし、ギネス認定を受けた「つるし雛」が展示されている。
明石の湯	「キナーレ」に併設され、モダンでスタイリッシュな広い浴室を備えたデザイン性の高い温泉施設。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用客数：13万人/年
石彫プロムナード	市民団体による『芸術文化のかおるまちづくり』が取り込まれ、地域の自然・ひと・歴史・文化などと調和し、「彫刻のあるまちづくり」として設置された石彫プロムナード。	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年、全国から作家を公募し、平成24年は18回目となるシンポジウムによる作品制作が行われた。 全作品：80体 中心市街地内：66体
おとぎの国美術館	「源氏物語」・「百人一首」・「わらべの詩」・「森のどうぶつたち」など紙ねんど人形が約1,000体展示されたギャラリー。	<ul style="list-style-type: none"> ・地元織物会社の運営による美術館来館者数：1,300人（年間）

●中心市街地に効果を与える主なイベント等の状況（中心市街地）

行事・催事・イベント名	時期等	内容	入込数や特徴など
十日町きものまつり	5月	<p>“きもの”がテーマのイベント。成人式に出席する若者をはじめとした市民がきものを着て街を練り歩くほか、稚児行列、ファッションショー、きものパーティ、無料茶席など、多彩なイベントが行われる。</p> 	約3万4,500人（H25）
十日町石彫シンポジウム	7月～8月	「アートがかおるまちづくり事業」として始まった。街中の石彫作品をめぐるスタンプラリーや、石彫の絵コンテストなども開催。	
大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ	7月下旬～9月上旬（3年に一度）	<p>アーティストと地域住民とが協働して地域に根ざした作品を制作。</p> <p>平成24年にはキナーレを拠点として、中心市街地の空き店舗にも作品の展示が行われ、多くの来街者でにぎわった。</p>	市内全体 約49万人（H24）

行事・催事・イベント名	時期等	内容	入込数や特徴など
きものの街のキルト展	9月	<p>中心市街地の店舗のウィンドウなどにさまざまな色や技法のキルトを飾り付ける。</p> <p>「きものの街のキルトコンテスト」では、全国からキルト作品を募集し、応募者全員のキルト作品を一同に展示する。また、期間中はキルト作家によるキルト講習会や、スタンプラリーを行う回遊性の取り組みが行われる。</p> 	<p>中心市街地内作品：約 110 作品</p> <p>入込客数 期間中： 約 2 万 3,000 人 (H24)</p>
生誕地まつり	10月第2日曜日	立正佼成会の開祖・庭野日敬氏の生誕地であることを祝う祭り。全国各地から会員が訪れ、各地域の祭りを披露する。商店街でも連動してイベントを行う。	来街者数： 約 2 万 1,500 人 (H24)
そば王国・越後十日町「地そば」まつり	11月	十日町の食文化の一つである「そば」を広くPRするため、地域のそば店が一堂に集結し、各店こだわりの味を食べ比べできるイベント。	入込客数： 約 8,500 人 (H24)
節季市 (チンコロ市)	1月10日 15日 20日 25日	農家の人々が、主に冬期間の副業として竹やわら等で作った生活用品、民芸品を持ち寄り開かれる市。犬や十二支を模った小さなしんこ細工の「チンコロ」が人気で、別名「チンコロ市」とも呼ばれる。	国立歴史民俗博物館の常設展示資料にも選定されており、県外から買いに訪れる人が多い。
十日町雪まつり	2月	昭和 25 年から続く現代雪まつりの元祖。巨大なステージが雪で作られてさまざまなイベントが開催されるほか、市内に 20ヶ所以上の「おまつりひろば」が設置される。中心市街地では市民の制作による雪像や広場が設置され、多くの観光客が訪れる。	約 31 万人 (H25 年)
各商店街等の主要なイベント	7月	駅通り七夕まつり (駅通り)	
	8月	コモ通り夏祭り (高田町1丁目)	
	8月	十日町おまつり (中心市街地全体)	
	9月	十五夜まつり (本町5・6丁目)	

●中心市街地に効果を与える主なイベント等の入込客数の推移 (中心市街地)



◆商業・観光に関するまとめ

■休日より平日の方が歩行者・自転車通行量が多く、地域密着型商業の街である。

休日よりも平日の歩行者・自転車通行量が多い地域密着型商業が中心の街である。特に、商業施設や金融機関、公益施設が集積している本町分庁舎前の通行量が特出して多い。

■本町分庁舎の設置により歩行者通行量が増加。

平成 17 年と平成 23 年を比較すると、本町分庁舎前においては歩行者通行量が約 20% 増加している。これは、平成 18 年に市役所の事務所の一部と住民票発行などのサービスを本町分庁舎に設置した効果が大きいと考えられる。

■郊外型の大規模小売店舗の進出等により、買い物利用割合が低下。

郊外型の大規模小売店舗での買い物利用割合が高くなってきており、中心市街地の買物利用割合は大規模小売店舗を含めても 28%にまで落ち込んでいる。

小売販売額や従業者数などすべての指標において、本町 1～4 丁目の落ち込みが著しく、地域のデパート的存在であった衣料品小売の「田倉」が平成 16 年に閉店した本町 1～2 丁目が特に大きく落ち込んでいる。

■アーケードや融雪歩道により雪国でも安全な歩行空間が確保されている。

中心市街地の商店街は国道や県道などの主要幹線道路沿いに形成され、豪雪地域という特性からアーケードや融雪歩道が整備されており、来街者や高齢者にも優しい安全で快適な歩行空間が確保されている。今後施設整備を行っていく上では、豪雪地域という特性に配慮し、この既存ストックを有効に活用した施設の配置等を考えることが必要である。

■老朽化した空きビルが点在し、近隣住民に不安を与えている。

アーケードなどの施設は、更新されているものの、高度成長期の昭和 40 年～50 年にかけて建築された商業や事務所ビルは、更新されておらず老朽化が進んでいる。特に地場産業の低迷や不況による廃業で老朽化した空きビルは、平成 16 年の中越大震災の被災を受けたことにより、危険建物となって近隣住民に不安を与えるとともに、都市景観上も好ましくない状況となっていることから、建替えや改修が望まれている。

■観光集客施設と商店街との回遊性が不足。

5月の「きものまつり」に始まり、2月の「十日町雪まつり」まで、毎年概ね隔月ごとに中心市街地内で四季折々の多彩なイベントが開催されている。一方、「越後妻有里山現代美術館キナレ」「道の駅クロステン」などの観光集客施設と商店街との連携が不足しているため、回遊性に課題がある。

④交通の状況

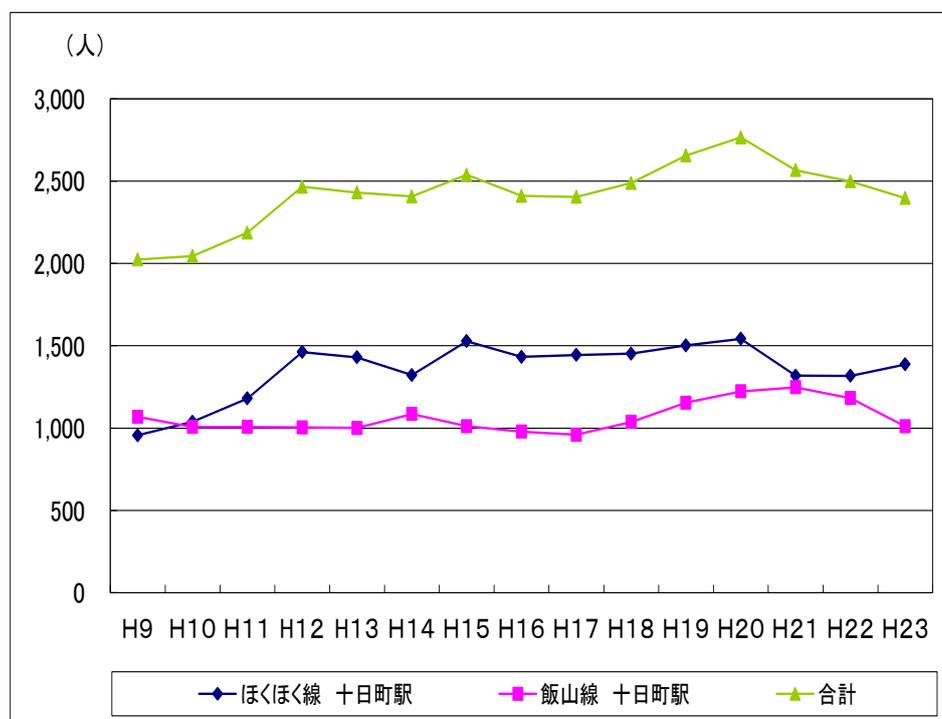
ア) 鉄道の利用状況

【鉄道利用者】

- ・ 鉄道利用者は平成 20 年をピークに緩やかな減少傾向にある。

J R 飯山線十日町駅、北越急行ほくほく線十日町駅の 1 日あたり平均乗降者数は、両駅の合計で平成 20 年をピークに緩やかに減少し、平成 23 年は約 2,400 人となっている。J R 飯山線十日町駅の乗降者数は、平成 21 年まで増加した後に減少し、平成 10～13 年と同水準となっている。平成 18 年以降の増加は、平成 18 年度に隣町にある津南高校が中等教育学校に移行されたことに伴い、鉄道を利用する通学者が増えたことに起因すると考えられる。ほくほく線十日町駅の乗降者数は、平成 20 年から 21 年にかけて大きく減少し、その後横ばいとなっている。

● J R 飯山線十日町駅及びほくほく線十日町駅の日あたり平均乗降者数の推移



	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
ほくほく線 十日町駅	956	1,038	1,180	1,462	1,430	1,322	1,528	1,432	1,444	1,452	1,502	1,542	1,318	1,317	1,387
飯山線 十日町駅	1,068	1,007	1,007	1,004	1,001	1,085	1,011	978	960	1,037	1,154	1,223	1,248	1,182	1,010
合計	2,024	2,045	2,187	2,466	2,431	2,407	2,539	2,410	2,404	2,489	2,656	2,765	2,566	2,499	2,397

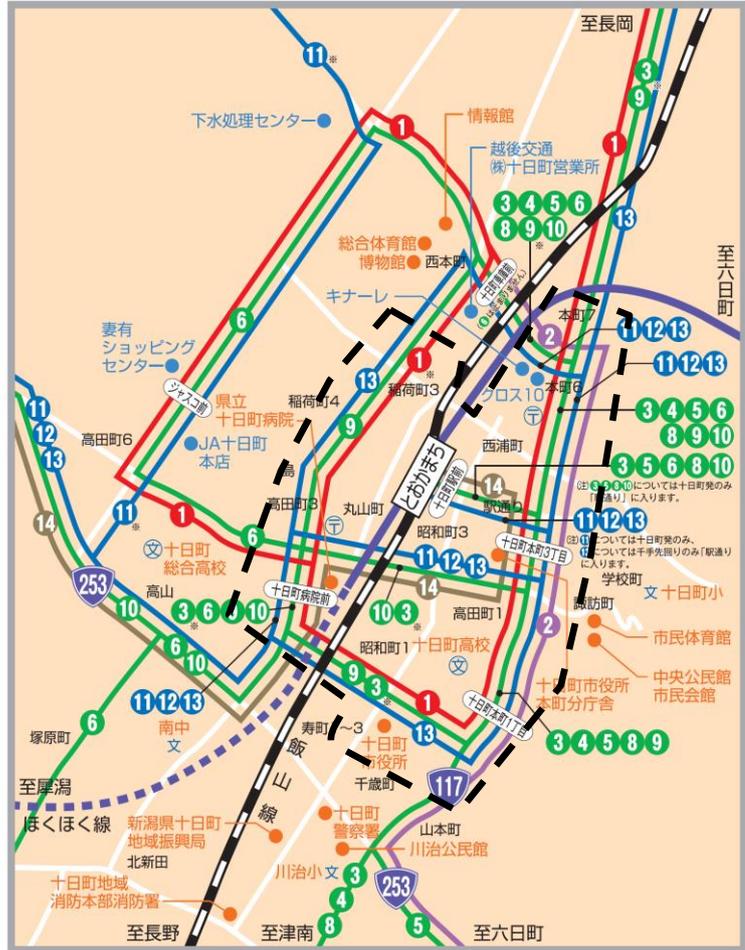
※平成 20 年以前は「十日町市鉄道輸送活性化地域行動計画（平成 21 年 9 月）」より
 ※平成 21 年以降は十日町市調べ

イ) バス路線の状況

<p>【予約型乗合タクシー】 十日町駅東口降車人数：104人 十日町駅東口乗車人数：281人(177人増)</p>	<p>中心市街地内の停留所ごとの乗降者数の内訳をみると、降車した付近で所用を済ませたのち、十日町駅東口まで徒歩等で移動している人が多い。</p>
---	--

●民間路線バスの運行状況

路線バスは、中心市街地と周辺部及び他市町村とを結ぶ路線を、民間4社で計14路線運行している。最も人口流動が多い津南町を結ぶ路線は、上下線合わせて42便運行しているが、その他の路線は、半分以下の便数であり、うち急行バスを除く10便ほどは朝・昼・夕に各1～2本という状況にある。



中心市街地活性化区域

路線No	運行路線	中心市街地の主な停留所						便数(片側)
		クロスステン	本町6丁目	本町3丁目	本町1丁目	十日町駅前	十日町病院	
1	《急行》十日町=小千谷=長岡駅		○	○	○		○	13
2	《高速バス》十日町=新潟	○	○	○	○			5
3	十日町=中里=津南	○	○	○	○	○(一部)	○(一部)	22
4	十日町=倉下	○	○	○	○			1
5	十日町=関根=池の平=長里	○	○	○	○	○		5
6	十日町駅前=ジャスコ=新宮=宮中=中里=倉俣=田代	○	○	○	○	○	○	3
7	《急行》湯沢=清津峡=津南=森宮野原							0
8	十日町=六箇	○	○	○	○	○		4
9	十日町=新水=菅沼=後山	○(一部)	○	○	○		○(一部)	6
10	十日町=高島=鉢	○	○	○	○	○	○	7
11	十日町=川西=小千谷	○	○	○	○	○	○	10
12	十日町=上野=仙田=室島=小白倉	○	○	○	○	○	○	5
13	《循環》十日町=千手=上野=栄橋=十日町	○	○	○	○	○	○	3
13	《循環》十日町=栄橋=上野=千手=十日町	○	○	○	○	○	○	3
14	十日町=松代=松之山				○	○	○	5

資料：市調査

市では、公共交通が整備されていない集落（交通空白地）の解消や高齢者の移動手段の確保を図るため、集落と中心市街地とを結ぶ予約型乗合タクシーを運行している。

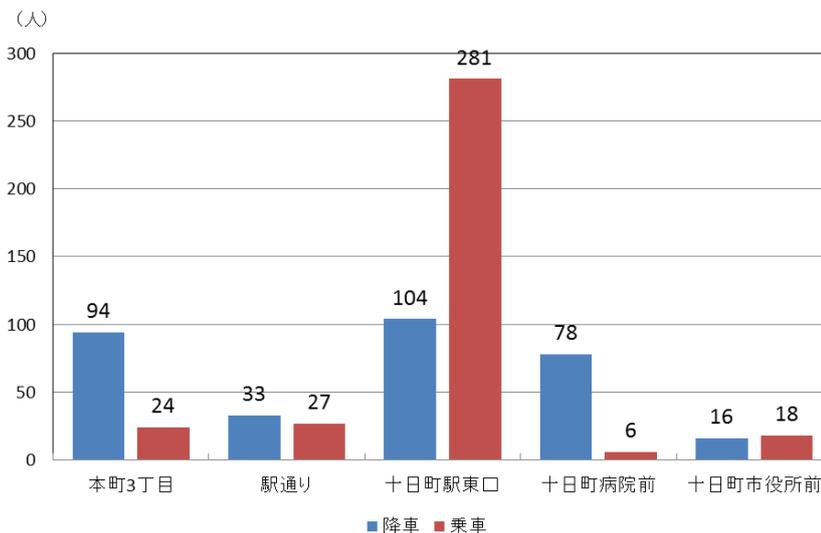
平成 23 年 9 月から 5 路線の運行を開始し、平成 24 年 7 月からは 2 路線を加えて、現在 7 路線で運行を行っている。

中心市街地の停留所ごとの乗降者数の内訳をみると、各集落から中心市街地に向かう往路の場合は本町 3 丁目で約 29%、十日町駅東口で約 32%、十日町病院で約 24%の降車比率となっている。一方、中心市街地から各集落への帰路の乗車箇所は、十日町駅東口で約 79%の人が乗車している。これは各施設で所用を済ませたのち、徒歩などで十日町駅東口まで移動していると考えられる。

●予約型乗合タクシーの運行状況（市調査）

路線 No	運行路線	運行開始	運航日（曜日）	運行便数	運賃（1回）	延べ利用人数（人）	
						H23年度（9月より）	H24年度（10月まで）
1	美佐島線	H23.9～運行	月・水・木	各6便（3往復）	200円	487	536
2	水沢線	H23.9～運行	火・金	各4便（2往復）	400円	85	132
3	真田線	H23.9～運行	火・木	各4便（2往復）	500円	78	74
4	六箇線	H23.9～運行	火・金	各4便（2往復）	400円	45	21
5	飛渡線	H23.9～運行	月・水	各4便（2往復）	600円	11	14
6	八箇線	H24.7～運行	火・木	各4便（2往復）	400円	—	26
7	仙田線	H24.7～運行	金	各4便（2往復）	600円	—	3
	合計					706	806

●予約型乗合タクシーの中心市街地での停留所ごとの乗降者（市調査：H23.9～H24.3）



	降車人数	割合	乗車人数	割合
本町3丁目	94	28.9%	24	6.7%
駅通り	33	10.2%	27	7.6%
十日町駅東口	104	32.0%	281	78.9%
十日町病院前	78	24.0%	6	1.7%
十日町市役所前	16	4.9%	18	5.1%
計	325		356	

◆交通に関するまとめ

■中心市街地周辺部からバス利用での来街者は、中心市街地内を徒歩等で移動。

中心市街地内の停留所ごとの乗降者数の内訳をみると、降車した付近で所用を済ませたのち、十日町駅東口まで徒歩等で移動している人が多い。

このことから生活利便性の高い中心市街地を形成させることが求められる。

■中心市街地内の駐車場が不足。

中心市街地内には買物客等が利用できる時間貸しの駐車場が不足しており、アンケート調査でも駐車場のニーズが高くなっている。

また、不足している中心市街地に駐車場を確保することにより、中心市街地内で行われるイベント等への来街者のアクセスを向上させることが可能である。

(4) 地域住民のニーズ等の把握・分析

①市民アンケート調査

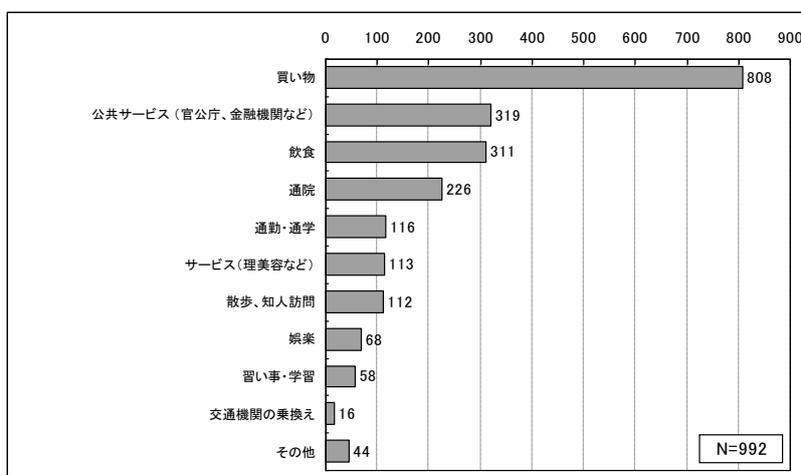
■調査実施の概要

- 調査対象-----市民 2,000 名（無作為抽出）
- 調査機関-----十日町市（産業観光企画課）
- 調査時期-----平成 23 年 2 月 25 日（金） 郵送による配布
- 回収期間-----平成 23 年 3 月 10 日（木）までに投函（郵送回収）
- 結果-----配布 2,000 票、 回収 1,235 票、 回収率 61.8%

ア) 来街目的

○買い物を目的に来街する人が多い

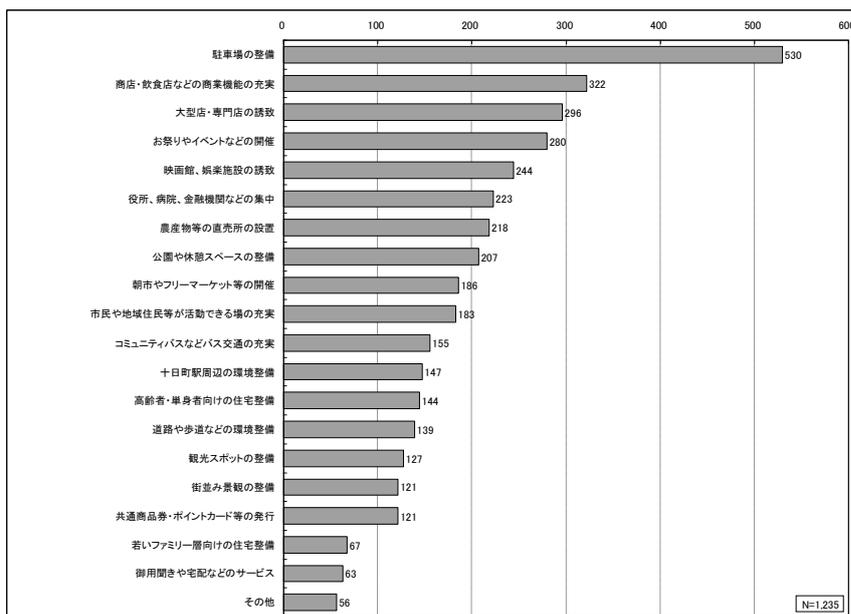
中心市街地に出かける主な目的は、「買い物」が最も多く(808件)、次いで「公共サービス(官公庁、金融機関など)」(319件)、「飲食」(311件)となっている。



イ) 中心市街地に対するニーズ

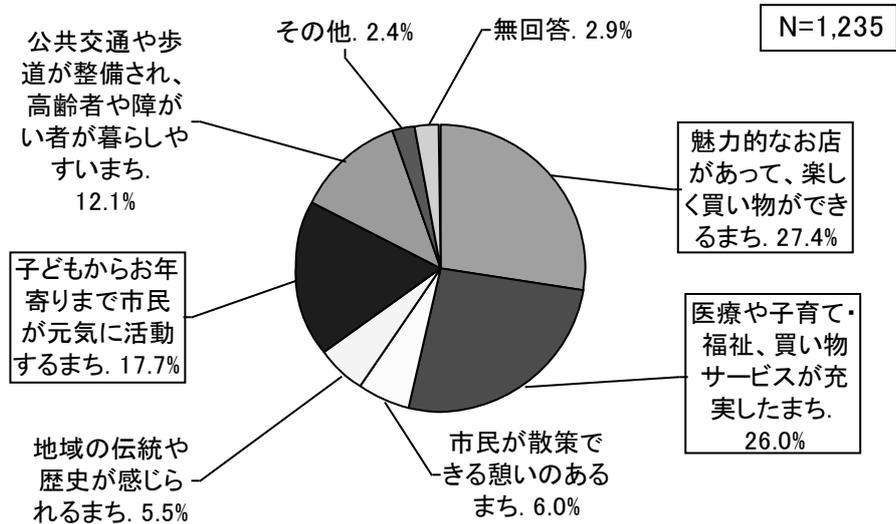
○駐車場の整備に対するニーズが高い

中心市街地を活性化するために必要だと思う取り組みは、「駐車場の整備」が最も多く(530件)、次いで「商店・飲食店などの商業機能の充実」(322件)、「大型店・専門店の誘致」(296件)、「大型店・専門店の誘致」(296件)となっている。



○「買物環境」「医療・子育て・福祉」「市民活動」に対するニーズが高い

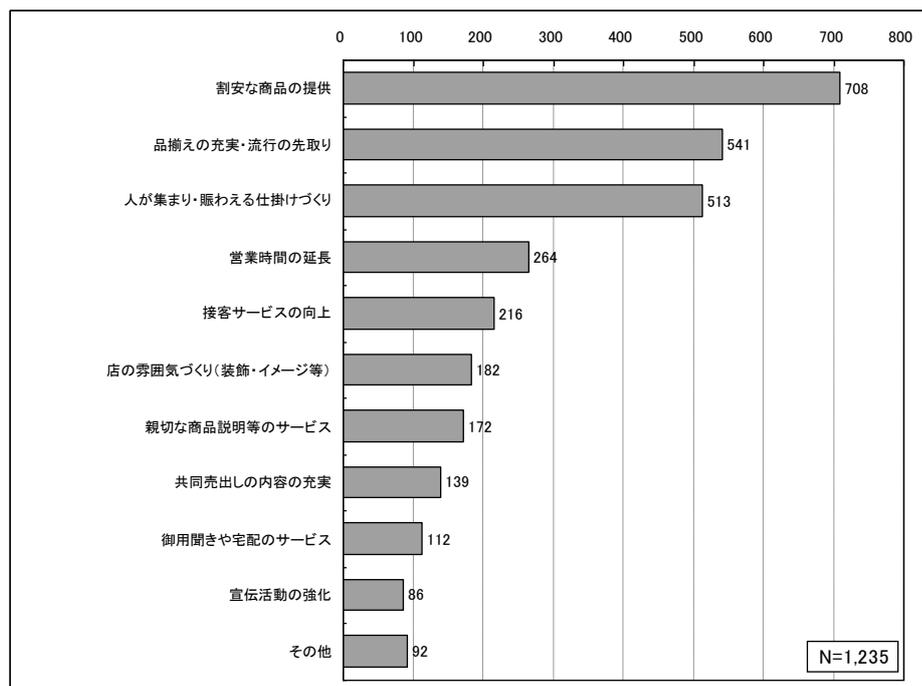
中心市街地の「今後こうあって欲しい」というイメージは、「魅力的なお店があって、楽しく買い物ができるまち」が最も多く(27.4%)、次いで「医療や子育て・福祉、買い物サービスが充実したまち」(26.0%)、「子どもからお年寄りまで市民が元気に活動するまち」(17.7%)となっている。



ウ) 中心商店街に対するニーズ

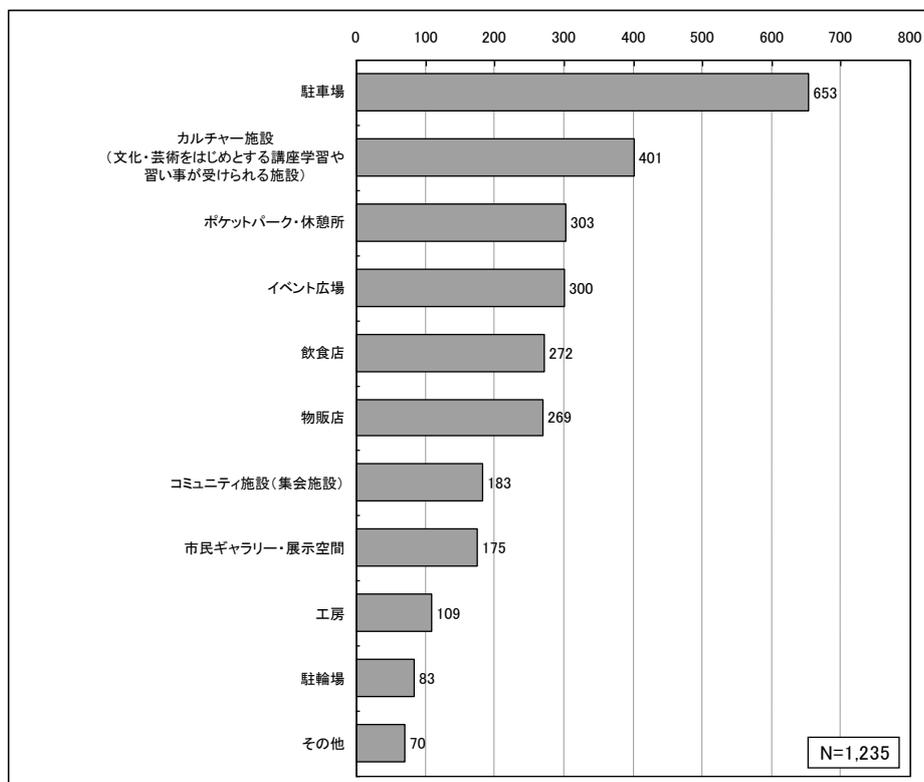
○商店街に対しては「割安な商品」のニーズが高い

中心市街地の商店街に望むものは、「割安な商品の提供」が最も多く(708件)、次いで「品揃えの充実・流行の先取り」(541件)、「人が集まり・賑わえる仕掛けづくり」(513件)となっている。



○空き店舗、空き地の活用方法として「駐車場」「カルチャー施設」のニーズが高い

中心市街地の空き店舗、空き地の活用方法として有効と思われるものは、「駐車場」が最も多く(653件)、次いで「カルチャー施設(文化・芸術をはじめとする講座学習や習い事が受けられる施設)」(401件)、「ポケットパーク・休憩所」(303件)となっている。



②来街者ヒアリング調査

本ヒアリング調査は、実際に中心市街地に来街している幅広い年齢層の市民・来訪者及び郊外にある拠点施設を利用している市民(郊外生活者主体)を対象として、中心市街地を利用している生活者及び郊外拠点施設を利用している郊外生活者の2つの視点から、中心市街地の利用実態、印象・評価、ニーズ等を把握し、中心市街地活性化の方向性を探ることを目的に、経済産業省「平成23年度中心市街地商業等活性化支援業務(中心市街地活性化の取り組みに対する診断・助言等支援事業)」を活用して実施した。

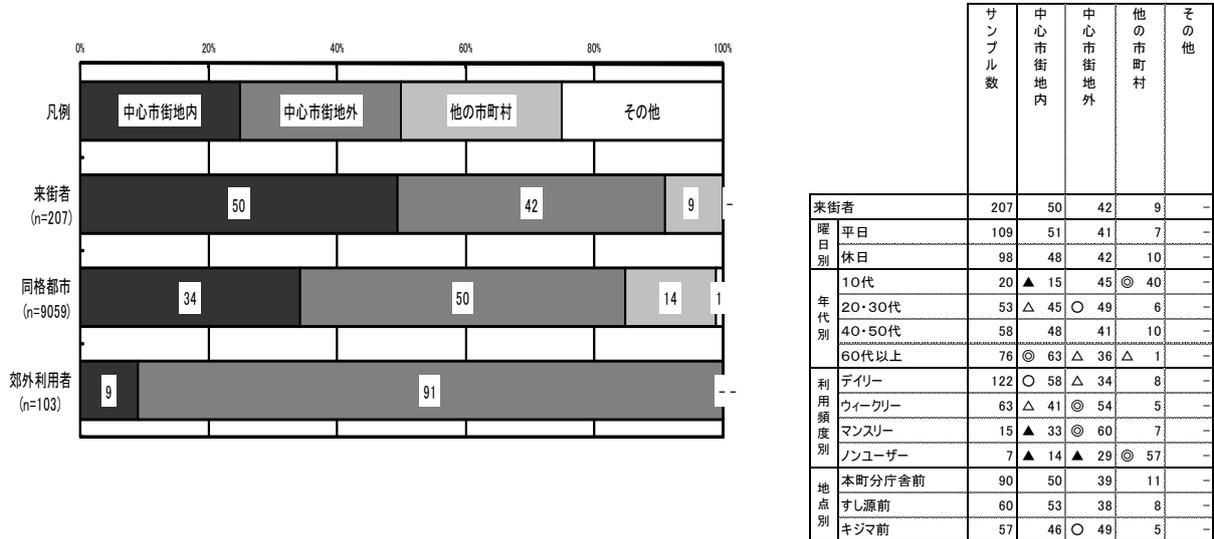
■調査実施の概要

- 調査日時：平成23年10月7日(金)、8日(土) 10:00~18:00
- 調査方法：調査員による街頭面接アンケート調査
- 調査地点：《中心市街地》
 - ・A. 本町分庁舎前(Aコープ)〔本町2丁目〕
 - ・B. すし源(えびすラーメン)〔本町3丁目〕
 - ・C. キジマ前(村熊商店)〔駅通り〕《郊外拠点》
 - ・D. イオン十日町店
- サンプル数：《中心市街地》207票 《郊外拠点》103票

ア) 来街範囲

○近隣からの来街者が多い

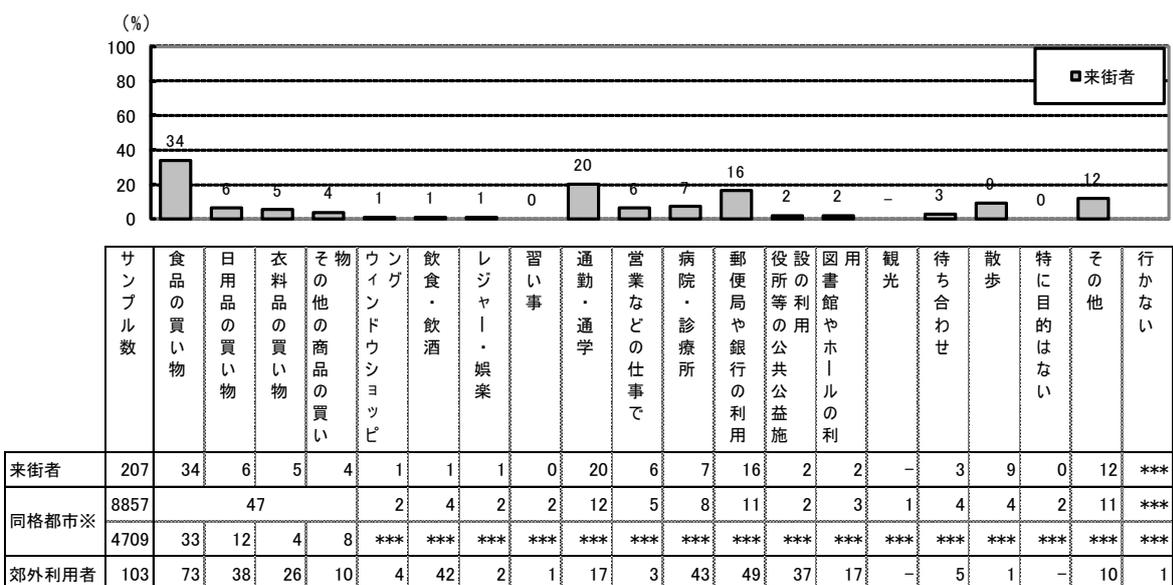
「中心市街地内」からの来街が5割と同格都市と比べて地元からの来街比率が高い。平日・休日ともその傾向に大きな変化はない。60代以上では、「中心市街地内」からの来街が多い。一方、郊外施設利用者のほとんどは「中心市街地外」の居住者であり、中心市街地の内と外とで生活圏が分離している。



イ) 来街目的

○来街目的は、「食品の買い物」「通勤・通学」「郵便局や銀行の利用」が多い

「食品の買い物」が最も多く(34%)、次いで「通勤・通学」(20%)、「郵便局や銀行の利用」(16%)となっている。郊外施設利用者においても、「食品の買い物」(73%)、「郵便局や銀行の利用」(49%)、「病院・診療所」(43%)、「飲食・飲酒」(42%)と、中心市街地への来街目的は比較的高く潜在する

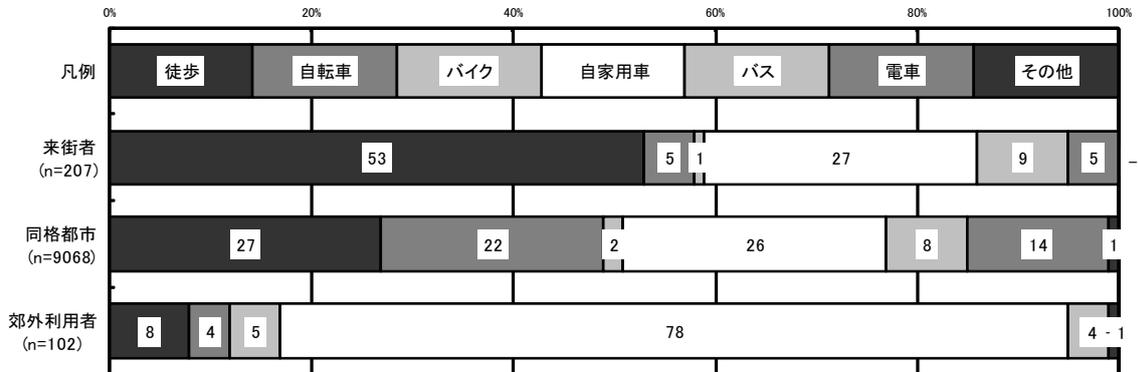


※同格都市の上段はH15年～H23年の平均値(「買い物」は1つで調査)、下段は「買い物」を4つに区分したH19年～H23年の平均値(「買い物」を4つに区分して調査)。

ウ) 中心市街地までの交通手段

○徒歩による来街が多い

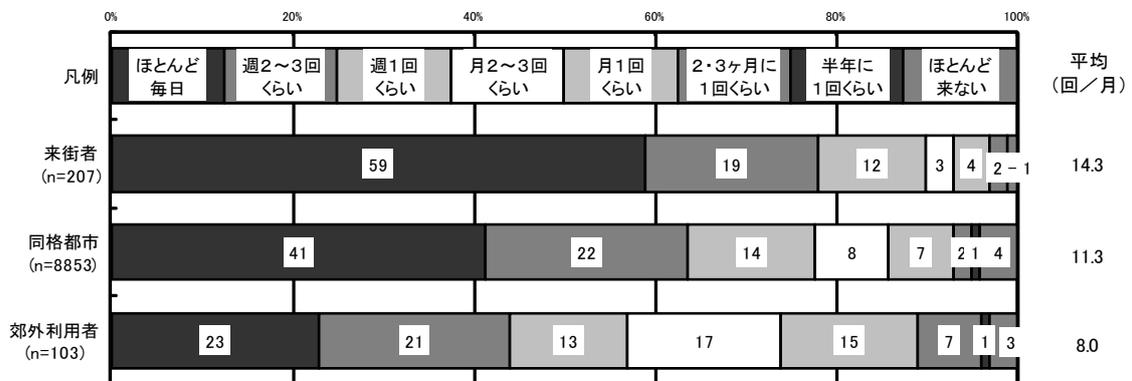
「徒歩」が最も多く約53%、次いで「自家用車」が約27%となっている。郊外利用者は8割弱が自家用車で中心市街地へ来街している。



エ) 来街頻度

○来街頻度が高い

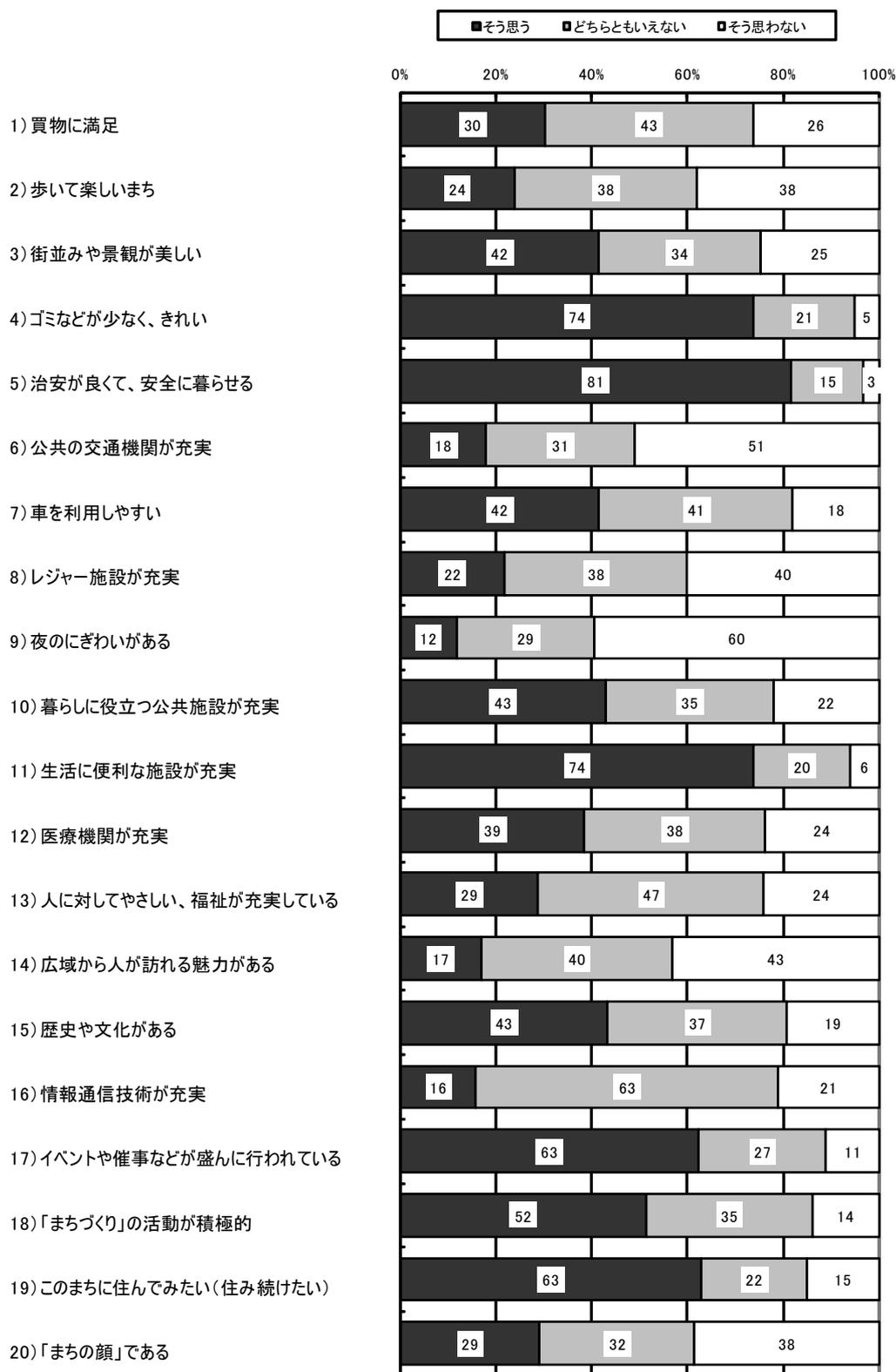
「ほとんど毎日」が最も多く約59%となっており、食品の買い物や通勤・通学を目的とした来街が多いことを反映しているといえる。郊外施設利用者の中心市街地への平均来街回数は8.0回と、中心市街地来街者の14.3回と比べて2/3程度であり、中心市街地の内と外での生活圏の分離が際立っている。



オ) 中心市街地の印象・評価

○中心市街地への来街者からは、部分的に一定の評価を受けている

評価が高い項目は、治安や環境面の他、イベントやまちづくり活動の積極さなど。
 評価が低い項目は、公共交通機関、街としての楽しさや魅力に関する項目など。



カ) 中心市街地の印象評価×全体満足度の傾向

■来街者

○整備の優先度が高く、今後必要になりそうな機能（優先度順）

- 1) 広域から人が訪れる魅力がある
- 2) 「まちの顔」である
- 3) 買い物に満足
- 4) 歩いて楽しい
- 5) 公共交通機関が充実

《優先度－1：優先度が高く、今後必要になりそうな機能》

●整備の優先度が高く、まちの満足度を高めるために、今後必要になりそうな機能

- 1) 広域から人が訪れる魅力がある
- 2) 「まちの顔」である
- 3) 買い物に満足
- 4) 歩いて楽しい
- 5) 公共交通機関が充実
- 6) 人に優しい福祉が充実

《優先度－2：一層の整備・増強が必要になりそうな機能》

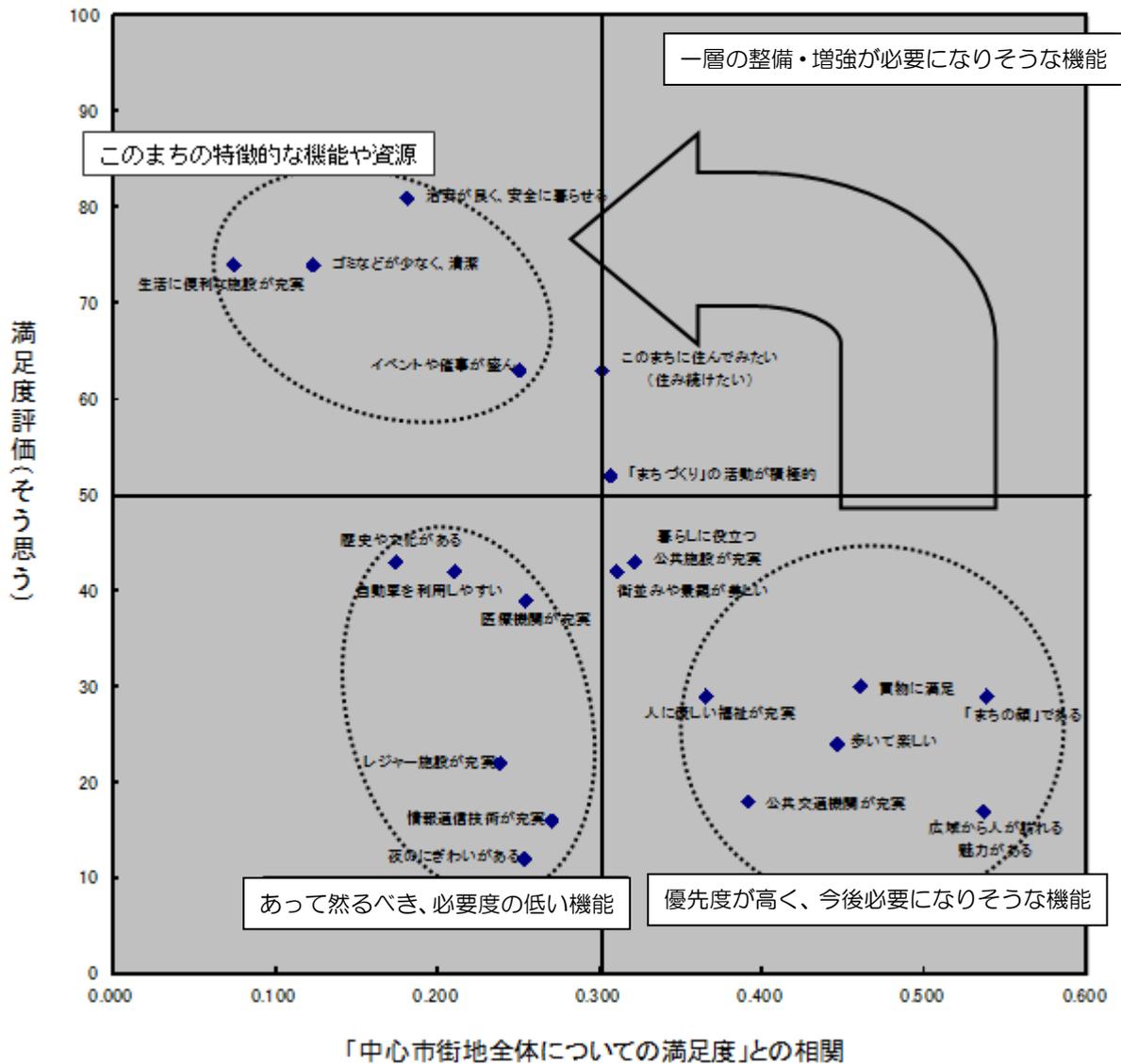
●まちの満足度を下げないために、一層の整備・増強が必要になりそうな機能
・特になし

《優先度－3：このまちの特徴的な機能や資源》

●更に磨くことで、強みとして活かすことができそうな、まちの特徴的な機能や資源

- 1) 生活に便利な施設が充実
- 2) ゴミなどが少なく、清潔
- 3) 治安が良く、安全に暮らせる
- 4) イベントや催事が盛ん

■ 中心市街地来街者



《上図の見方》

- 縦軸：各項目について「そう思う」（評価する）と回答した人の割合を表す。
- 横軸：右にある項目ほど、中心市街地全体に対する満足度を高めるうえで重要な項目である可能性を示唆している。（右にプロットされている項目ほど、各項目に対して「そう思う」（評価する）と回答した人が、同じく中心市街地全体についての満足度に対しても「満足」や「まあ満足」と回答したという関係性が強い。）
- 全体：各項目に対する現状の満足度（縦軸）が低いにもかかわらず、「中心市街地全体についての満足度」との相関（横軸）が高い項目を改善することは、まちの満足度向上に直結する可能性が高い項目であり、そういった項目は図の右下に集まる。一方、各項目に対する現状の満足度（縦軸）は高いながらも、「中心市街地全体についての満足度」との相関（横軸）が低い項目は、それらの改善に取り組んでもまちの満足度向上に直結する可能性が薄く、そういった項目は左上に集まる。

キ) 中心市街地へのニーズ

○総合医療施設、総合文化・教育施設、高齢者の集いのスペース、大型商業施設、衣料品やその他の専門店の充実について、来街者からのニーズが高い

中心市街地についてさらに充実すべきもの、欠けているものについての自由意見をキーワードで分類すると下表のようになる。

A. 日常の買物施設など

項目	件数 (件)	割合 (%)
1. 大型商業施設	41	19.8
2. 食品系	17	8.2
3. 衣料品系	39	18.8
4. その他専門店系	49	23.7
5. ○○な店	9	4.3
6. 運営面	17	8.2
7. 駐車場	5	2.4
8. 交通手段・アクセス・立地	2	1.0

B. 医療施設など

項目	件数 (件)	割合 (%)
1. 総合/規模	57	27.5
2. 利便性/設備	3	1.4
3. 専門性	12	5.8
4. 運営面	28	13.5
5. 駐車場	4	1.9
6. 交通手段・アクセス・立地	2	1.0

C. 高齢者対応施設など

項目	件数 (件)	割合 (%)
1. 施設面	55	26.6
2. 運営面	8	3.9
3. 交通手段・アクセス・立地	9	4.3

D. 教育文化施設など

項目	件数 (件)	割合 (%)
1. 文科系	58	28.0
2. 教育系	17	8.2
3. コミュニティ系	2	1.0
4. 運営面	2	1.0
5. 駐車場	1	0.5
6. 交通手段・アクセス・立地	6	2.9

E. その他の施設など

項目	件数 (件)	割合 (%)
1. 駐車場	23	11.1
2. レジャー・アミューズメント系	26	12.6
3. スポーツ系	4	1.9
4. カルチャー系	1	0.5
5. 生活サービス/インフラ	3	1.4
6. 憩い系	12	5.8
7. 交通機関・立地	7	3.4
8. その他	10	4.8

[3] 中心市街地でのこれまでの取り組みと評価

(1) 旧十日町市中心市街地活性化基本計画の取り組み

①旧十日町市中心市街地活性化基本計画の概要

平成 17 年の市町村合併前の旧十日町市では、平成 12 年度に、旧中心市街地活性化法に基づいた十日町市中心市街地活性化基本計画（以下、旧基本計画）を策定した。地域の事業者や住民、関係機関、行政からなる「作業部会」でワークショップ形式により素案を作成し、商業関係者からなる「中心市街地商店街連絡調整会議」から逐一意見を聞くなど、より関係者の意見を反映させる体制で計画策定が進められた。

■旧基本計画の概要

1. 策定年度：平成 13 年 3 月策定

2. 将来像：「暮らしやすい『街』・行ってみたい『街』」

暮らしやすい『街』

- 安心して暮らせる街
- 少子高齢化社会に対応した街
- 快適な生活空間の創出

行ってみたい『街』

- 魅力あふれる街
- 活気とふれあいに満ちた街
- 中心市街地は市民共有の財産

3. 実現のための基本方針

①安心・快適、暮らし続けたい街づくり

- ・降雪時や災害時などに備えた、安心して暮らせる住環境整備
- ・公的資本と民間資本の有機的な連携による、快適な生活空間の創出

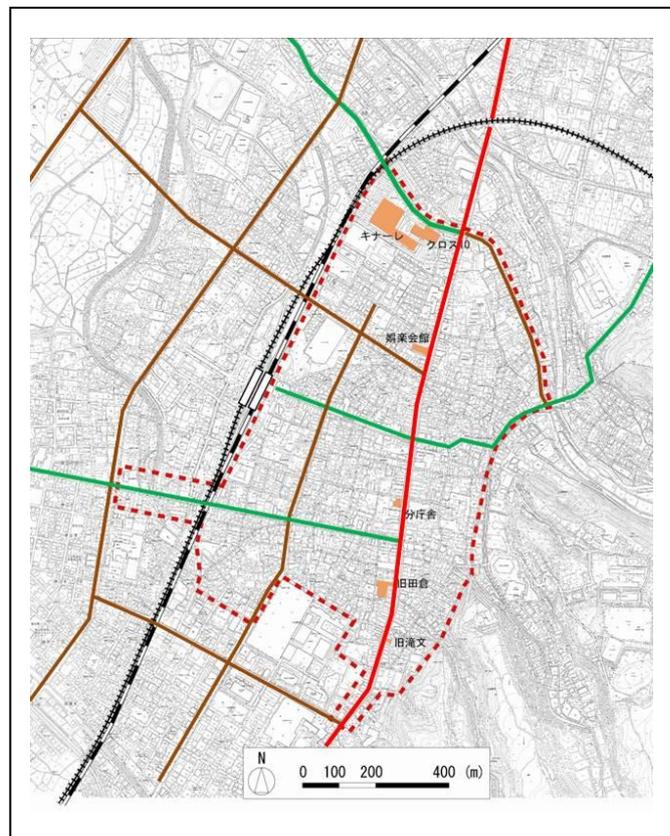
②人を惹きつけ活気にあふれる街づくり

- ・歴史・伝統、娯楽性による市民生活の中心としての活気づくり
- ・人・モノ・情報の集積による地域の経済循環の拡大

③世代間・地域間の交流によるふれあいに満ちた街づくり

- ・地域社会の活性化

4. 区域



②各事業の実施状況と評価

旧基本計画では、中心市街地活性化のテーマとして「暮らしやすい『街』・行ってみたい『街』」を掲げ、市街地の整備改善のための事業として 10 事業、商業等の活性化のための事業として 10 事業に取り組むこととした。

平成 24 年 3 月現在、完了・実施（継続含む）事業が 16 事業、未着手・中止事業が 4 事業となっている。

4 事業が未着手・中止となった要因としては、平成 16 年 10 月に新潟県中越大震災が発生したことや地権者の合意が得られなかったことが挙げられる。

ア) 事業実施状況

事業区分	事業の位置づけ				事業の実施状況			
	短期 (3年以内)	中期 (5年以内)	長期 (10年以内)	超長期 (20~30年後)	合計 (A)	完了・実施 (B)	未着手・中止	実施率 (B/A) %
市街地の整備改善のための事業	<ul style="list-style-type: none"> ● 駅東口駐輪場整備事業 ● 案内看板等誘導施設設置事業 ・ 十日町ステージ南側進入路整備事業（※1） ● 十日町ステージ整備事業 	<ul style="list-style-type: none"> ● 旧織物会館活用推進事業 ・ 街路整備事業（川治昭和町線・稲荷町線）（※1） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 市街地公園等整備事業 ● 街路整備事業（田川南線） ● 寺町通り石畳等環境整備事業 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 細街路環境整備事業 	10	7	3	70.0%
商業等の活性化のための事業	<ul style="list-style-type: none"> ● 商店街アーケード等整備事業 ● TMO 構想等作成事業 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者集合住宅整備事業 ● コミュニティ施設整備事業 ● きれいな街づくり運動推進事業 ● 市街地駐車場整備事業 ○ 商店街空き店舗等活用事業 ○ コミュニティバス運行事業 ● 戦略的「商店街」創出支援事業 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 企業誘致・起業の推進 		10	9	1	90.0%
事業数合計	6	9	4	1	20	16	4	80.0%
完了・実施	5	7	4	0		16		
未着手・中止	1	2	0	1			4	
実施率	83.3%	77.8%	100.0%	0.0%				

●完了事業、○実施中事業、・未着手事業

イ) 市街地の整備改善事業

番号	事業名	事業概要	事業の進捗状況	事業による効果	事業推進上の課題や今後の予定等
1	市街地公園等整備事業	泉町公園 (681 m ²) ・ 本町 2 丁目広場 (520 m ²) →新設 : H17 年度 ~ H21 年度	継続。 (現在、具体的新設計画なし。)	-	子育て世代から公園整備の要望が強い。
2	駅東口駐輪場整備事業	用地確保・「屋根付き駐輪施設」設置。 →~H14 年度	完了	利用台数は一日平均 20 台程度。	-
3	案内看板等誘導施設設置事業	歩行者用市街地誘案内看板 (サイン) 設置事業→新設 : H17 年度 ~ H18 年度 (誘導案内看板=9 基・周辺案内看板=6 基、総合案内看板=5 基)	完了	数値データはないものの、来訪者の利用はみられた。	-
4	旧織物会館活用推進事業	現状のまま 5 年間多目的に公共活用。さらに駐車場等として整備。	駐車場として完了	本町分庁舎用駐車場として、職員及び分庁舎来訪者が利用。	-
5	旧織物会館活用推進事業	跡地利用として高齢者集合住宅の建築を目指し、十日町 TMO 協議会による高齢者住宅調査研究を実施 →H18 年度 ~ H19 年度 (支援内容 : 先進地視察・研究報告書作成等)	完了	-	プロポーザル方式で高齢者集合住宅の建築を計画したが、応募がなく計画が頓挫したため、駐車場として利用。
6	街路整備事業 (川治昭和町線・稲荷町線)		未着手	-	沿線住民の関心が薄く、合意形成が困難。 道路用地の大半が用地交渉困難な不在地主用地。
7	街路整備事業 (田川南線)	県道十日町千手線 (W=16m L=500m) 、新潟県事業中 →H24 年度完了予定。	継続 (整備中)	-	H24 年度完了予定。
8	十日町ステージ南側進入路整備事業	十日町駅 ~ キナーレ、クロスステンの歩行者動線整備 (L=500m) →H23 年度 ~ H27 年度	未着手	-	計画沿線住民との合意に至らず。本計画において再事業化。
9	細街路環境改善事業		未着手	-	本計画において再事業化。
10	寺町通り石畳等環境整備事業	寺町通り整備 (W=6.0m L=270m) → H21 年度 舗装 1,800 m ² ・ 消雪パイプ布設替え L=431m ・ 側溝整備 L=74m	完了	当初計画を大きく変更し、冬季間も高齢者が安心して歩ける道路として整備。(側溝の段差、隙間・雪の消え残り解消等)	和の雰囲気を持たせた石畳舗装等の高質空間を形成する計画だったが、地元の合意が得られないことや、事業費削減等、大幅に計画を変更。

番号	事業名	事業概要	事業の進捗状況	事業による効果	事業推進上の課題や今後の予定等
11	十日町ステージ整備事業	越後妻有交流館キナーレの建設(平成15年度完成) 第2回大地の芸術祭作品(きもの回廊)、温泉棟(明石の湯)	完了	来場者数: 142,574人(平成21年度)	大地の芸術祭開催年以外の来館者数の増加を図る必要がある。

●評価

[効果があった取り組み]

- ・ 駅東口駐輪場の整備や案内看板等誘導施設の設置によって、来街者の利便性向上が図られた。

[効果が少なかった取り組み]

- ・ 市街地公園等整備事業で2か所の公園を整備し、市民の憩いの場、イベント会場などとして利用されているが、中心市街地内には公園緑地が少ないため、子育て世代からの整備要望が強い。
- ・ 寺町通り石畳等環境整備事業は、地元のコンセンサスが得られず、冬季の交通利便性を優先した一般的な道路整備にとどまってしまったが、伝統産業である「きもの街」を体感できる景観や空間の整備が望まれている。
- ・ 予定していた街路整備事業(川治昭和町線、稲荷町線)と細街路環境改善事業は未着手となり、区域内の細街路では、冬期間の交通確保のための消雪パイプの敷設(更新)や屋根雪や道路脇の雪を処理するための流雪溝の整備が必要である。
- ・ 旧織物会館活用事業での高齢者集合住宅の建築は応募者がなく頓挫し暫定的に駐車場として使用しているが、市民アンケートによると、駐車場の整備を望む声は相変わらず多い。
- ・ 大地の芸術祭十日町ステージに位置づけられている越後妻有交流館「キナーレ」は、平成15年度に整備された後、平成23年度から平成24年度にかけて行った改修工事により、「越後妻有里山現代美術館キナーレ」として生まれ変わった。また、同時期に改修工事が行われた「道の駅クロステン」とともに、これまで以上の集客力とにぎわいをみせているが、南側進入路が未整備のままとなっているため、中心市街地内の中心部への回遊性につながっていない。

ウ) 商業の活性化事業

番号	事業名	事業概要	事業の進捗状況	事業による効果	事業推進上の課題や今後の予定等
1	企業誘致・起業の推進	中心市街地に事業所スペースが小規模な情報通信関連及び都市型の新事業を誘致。	実施中	-	-
2	高齢者集合住宅整備事業	旧織物会館の活用	未着手(駐車場整備済み)	駐車場は商店街利用客の駐車場として活用。	高齢化の進行に対応するため、本計画において再事業化。

番号	事業名	事業概要	事業の進捗状況	事業による効果	事業推進上の課題や今後の予定等
3	コミュニティ施設整備事業	TMO、民間団体が主体となって行政の支援を受けながら中心市街地にコミュニティ施設を整備する。5年～10年。	一部実施中	中心市街地のにぎわい創出と商店の売上向上をめざしてコーディネーターを採用。空き店舗を事務所として活用。空き店舗を老人サロンとして開設（H22年度）	-
4	きれいな街づくり運動推進事業	モラル向上の推進。緑や花いっぱいの通り（歩道の演出・管理体制を整備した中におけるゴミ箱・分別回収ボックスの設置）	一部実施中	-	TMO事業として商店街のアーケード支柱に花のプランターを設置し、季節の花を植えて美化とイメージアップを図る。
5	市街地駐車場整備事業	既存施設の利便性を高める方策を研究した上で、住民ニーズや商店街としての利用度を踏まえて行政の支援を受けた中で商業団体によって実施。	完了	十日町セントラルパーキング協同組合が東北電力十日町営業所跡地を購入し第3駐車場としH17年に整備。市内4カ所の駐車場を管理。	依然として不足しているため、本計画において再事業化。
6	商店街空き店舗等活用事業	空き店舗活用により商店街の賑わいを創出。コミュニティ利用・チャレンジショップ・アンテナショップ・環境ステーション利用	一部実施中	空き店舗を借り受けて事業を始める者に対し、1年間家賃の一部を補助。家賃の2分の1・上限5万円。	昼間からの営業が条件であるが職種によってはクリアできない問題あり。
7	商店街アーケード等整備事業	アーケード及びカラー舗装等の商店街の環境整備。	完了	本町1～4丁目、高田町1丁目はアーケードを整備、高田町2・3丁目はカラー舗装で整備した。平成14年で各商店街の工事は完了。	通行人や買い物客の利便性は向上されたが施設の維持管理費の問題を多く抱えている。
8	予約型乗合タクシー運行事業	市内周辺部と中心市街地内を結ぶ予約型乗合タクシーを運行。	実施中	高齢者の中心市街地における買い物・通院の交通手段が確保。	-
9	戦略的「商店街」創出支援事業	消費者ニーズを反映した店づくりを行うため実施する各種事業。主にソフト事業で構成（個店経営・後継者育成セミナー、商店街のマップ作成、カードシステムの研究・開発、商店街ファサード整備等）。	一部実施中	TMO事業で平成15年以降各種事業を展開（個店経営・後継者育成セミナー、個店を紹介するガイドマップ作成、統一した景観を作るファサード整備・暖簾及び格子の垣根等、石彫活用事業、高齢者向けカード事業）。	-
10	TMO構想等作成事業	タウン・マネジメント機関の設立に向けた準備。TMO構想・計画の作成。	完了	平成15年7月、TMO構想と計画を作成し十日町市に報告。	事業主体や財源などが不明確なまま進めたため、未実施の事業が残存。

エ) TMO事業

番号	事業名	事業概要	事業の進捗状況	事業による効果	事業推進上の課題や今後の予定等
1	花いっぱい事業	アーケードへのフラワーポット、プランター等の設置、花植え 年2回	H16 年度～	共同作業を通じた関係者の連帯感が醸成され、開始以来継続して実施。	アーケード支柱に設置するため、来街者の視認性が低く、華美性に欠ける。
2	統一清掃事業	アーケード内の統一清掃日を設定し2回実施	H16 年度	単年度で終了	
3	一店逸品(一品)事業	カタログ製作	H16 年度	単年度で終了	商店街カタログ作成事業に継承
4	商店街カタログ作成事業	おすすめ商品カタログの作成、設置	H17 年度～H19 年度	地元高校生がカタログ写真の撮影に参加したことで話題、来街者の拡大につながった。	
5	セミナー開催事業	小布施町、青森市、富山市などから講師を招へいし、まちづくりや中心市街地活性化の先進事例を研修した	H17 年度～H20 年度、H23 年度	活気ある中心市街地の形成に取り組む機運の醸成につながった。	先進地の事例研究など継続したセミナー開催が必要。
6	一斉放送設備設置の提案事業	防災システム構築のための設備、ミニFMなどを検討・提案	H17 年度	商店街アーケード区域と中心市街地全域のそれぞれに合った放送設備の設置などを市に提案	
7	統一景観形成事業	駅通り商店街に検討事業を委託きもの製作工程看板の作成、設置	H17 年度～H18 年度	駅通り商店街をモデル地区として景観の統一を検討。その後、駅通り商店街の単独事業に移行した。	検討成果が駅通り商店街のみの帰属となり、他の商店街に波及しなかった。
8	高齢者集合住宅の検討事業	先進地視察を実施し、報告書を作成	H17 年度～H18 年度	検討の結果、中心市街地に必要不可欠な施設であること等を確認。	本計画で再事業化。
9	コミュニティ施設整備事業	中越大震災で被災し移転改築する商工会議所会館にコミュニティ施設を併設市民ポケットプラザ、和室研修室、多目的ホール	H17 年度	商店街の情報発信基地、中心市街地の回遊ルートの起点として高齢者や主婦などに利用されている。商店街組合等と連携した積極的な活性化活動の拠点となっている。	

番号	事業名	事業概要	事業の進捗状況	事業による効果	事業推進上の課題や今後の予定等
10	街なか石彫作品活用事業	スタンプラリーや絵のコンテストを実施	H18年度～H21年度	スタンプラリーは初回44人がH20には208人、絵のコンテストは初回30人がH21には128人に増加するなど商店街への誘客効果につながったが、予算等の関係で終了。	中心市街地及び周辺地域に設置されている石彫の数は約80体あり、まちなかの回遊性につながる魅力の一つとなっていることから再開すべき。
11	エコひいきクラブ設置事業	H19年度～H20年度に検討を行い、H21年度からシルバーカード事業と空き店舗活用事業を実施。 [シルバーカード事業] 60歳以上の高齢者を対象にしたカードを発行し、さまざまな特典を付与しながら個店の活性化や賑わいにつなげる。 [空き店舗活用事業] ホームページでの空き店舗情報の提供や空き店舗を借り上げ、高齢者の休憩場所として提供する取り組みを実施。	H19年度～	[シルバーカード事業] 実施当初は、新規顧客の囲い込みにつながったが、回を重ね、店舗でサービスのバラつきが出るなどの課題あり。 [空き店舗活用事業] 空き店舗のみの情報では、変化が少なく効果が不明確。休憩場所の提供は管理委託を受けた高齢者組織への負担が過大となり、H24年度で運営方法の変更を余儀なくされた。	[シルバーカード事業] 既存のカード事業に付加するサービス部分を補助金で充てたため、補助金が減額されると事業自体の吸引力が低下。 [空き店舗活用事業] 商店街来訪者の立ち寄りや休憩場所としての利用は多く、継続すべき。チャレンジショップの併設など、高齢者組織への管理委託以外の運営方法を検討すべき。
12	100円商店街事業	十日町商店街振興組合連合会主管事業の広告宣伝等を支援。	H22年度～H23年度	アンケートによると、「またやってほしい」と答えた人が98%、「また来たい」と答えた人が97%と好評。	

●評価

[効果があった取り組み]

- ・きれいな街づくり運動推進事業は、TMO事業で花いっぱい事業として取り組み、商店街のイメージアップにつながった。
- ・エコひいきクラブ設置事業の空き店舗活用事業は、高齢者や来街者への休憩所や憩いの場の提供としてサービス向上につながった。
- ・調査研究、セミナーの開催、商店街の魅力向上につながる事業などさまざまな取り組みを継続して展開してきた。

- ・ 中心市街地及び周辺地域に設置されている石彫を活用したスタンプラリーなどの取り組みは、回を重ねるごとに参加者が増え好評であった。石彫は、街なかの回遊性につながる当市独自の中心市街地の魅力の一つであり、今後の活用が期待されている。

[効果が少なかった取り組み]

- ・ 市街地駐車場整備や商店街アーケード等整備事業の実施により、予定した商業関係施設が整備されたが、市民アンケートなどによると引き続き駐車場整備を望む声は多い。
- ・ 商業の活性化のためのソフト事業は、TMO構想を策定しTMO協議会により実施されたものなど、予定した事業はおおむね実施することができたが、中越大震災などの影響もあり、商店街の衰退に歯止めはかからず、継続した商店街活性化のための取り組みが必要である。
- ・ TMOが協議会という形態で組織され、毎年構成団体から選出された代表者が役員に就任し、事業を立案し実施する方式をとっているため、近年は活動がマンネリ化し、縮小傾向になっている。
- ・ TMO事業が、県や市、商工会議所からの補助金によって支えられているため、事業内容・規模が補助金額に左右され、自立性に欠ける。
- ・ TMO協議会の組織再構築や新たに組織を創設するなど、自立してまちづくり活動を担う新たな組織の創設が必要であるとの意見がある。

(2) その他の取り組み

①市街地整備関連の取り組み

番号	事業名	事業概要
1	駅前広場整備事業	J R 飯山線十日町駅東口の駅前広場で、石張舗装や縁石の敷設、ロードヒーティングの設置など歩行者空間の整備を実施。
2	泉町公園（備蓄倉庫）	地域の防災施設として、地下貯水槽と備蓄倉庫を一体的に整備。
3	駅西区画整理事業（十日町駅西口周辺整備及び市道高田町稲荷町線改良）	駅西地区 13.8ha の区域で平成 5 年度から始まった区画整理事業は、平成 24 年度をもって工事が完了。中心市街地の区域では、十日町駅西口周辺整備と市道高田町稲荷町線改良が行われ、市の玄関口としての魅力及び歩道整備による歩行者の安全性の向上を図った。
4	本町東線歩道設置事業	幅員 3m の歩道を 55m 整備し、冬期間における歩行者の安全性が向上した。

●評価

- ・ 平成 13 年度以降、旧基本計画に掲載した事業に着手し、中心市街地の活性化に取り組んできたが、中越大震災やその後の自然災害の影響で空き地・空き店舗が増加したことや、震災前後に田倉、娯楽会館の 2 つの大型集客施設が相次いで廃業となったことなどは、中心市街地の活力を低下させる大きな要因となった。そのため、旧基本計画や TMO 構想に掲載された事業以外にも市街地の整備や商業の活性化に取り組んだが、復旧復興のための事業が優先される中で効果的な事業を実施することができなかった。
- ・ 中越大震災及び平成 17 年の市町村合併から 8 年が経過し、震災からの復興が進み、新市の進むべき方向が共有されるようになったことから、ようやく中心市街地活性化に取り組む時が到来したといえる。さらに、廃業後も活用されずに廃墟と化していた 2 つの大

型集客施設を市の所有としたことを端緒として、この跡地活用を核とした市街地整備が期待される。

②商業・商店街関連の取り組み

番号	事業名	事業概要
1	中心市街地にぎわい力アップ事業	<p>平成 22 年度、平成 23 年度</p> <p>(1) 地域、商店、商工会議所、行政による中心市街地活性化のためのネットワーク構築を目的に空き店舗を活用した拠点施設を設置</p> <p>(2) 中心市街地活性化コーディネーターの設置</p> <p>(3) 商店街の認知度及び個店売上アップのためのイベントとして毎月 10 日に「とおか市」を開催</p> <p>平成 24 年度</p> <p>(1) イベント企画</p> <p>①とおか市の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎月 10 日に開催。4 月の新人歓迎会、5 月の逸品大会、6 月のジャンケン大会など毎回テーマを設定し、来街者増加のための趣向を凝らす。 <p>②にぎわいサタデー</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎月最終土曜日に商店街でイベントを開催し、来街促進とにぎわいの創出を図る。 5 月には、商店街カラオケキャラバン、6 月には商店街的イケメン総選挙を開催。 <p>(2) 空き店舗活用事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 駄菓子、アクセサリーなどのチャレンジショップによって新規創業や中心市街地への出店意欲を醸成。 <p>(3) 情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> 商店街の情報を外部に発信。
2	商店街の空き店舗を活用した大地の芸術祭作品展開	<p>平成 24 年度の第 5 回大地の芸術祭では、中心市街地の空き店舗など 7 カ所で作品を展示し、商店街組合と連携して作品の管理を行った。作品展示のほか、地域住民や子供たちを対象としたワークショップを開催した。</p>
3	きものの街のキルト展（平成 16 年度～）	<p>平成 24 年度の第 9 回きものの街のキルト展は、9 月 15 日（土）～ 30 日（日）の 16 日間開催され、中心市街地内の店舗や公益施設など 130 を超える会場に全国から出品されたキルト作品が展示された。期間中は市内外から多くの見学者が訪れた。回を重ねるごとに見学者数が増加しており、近年は延べ 25,000 人程の入込数となっている。期間中は 54 店が参加するスタンプラリー、ハギレや手芸作品の販売、土産品の紹介・販売、飲食店 9 店による特別メニューの提供など、商店街と連携した回遊性や誘客につなげる取り組みを実施した。</p>

●評価

- 中心市街地にぎわい力アップ事業の取り組みは、商業関係者と行政の連携、若手経営者や市民活動団体の中心市街地活性化への機運の高まりにつながった。また、これまで商店街とつながりが薄かった子供たちや中学生、高校生といった世代を巻き込み、商店街への誘客効果を上げている。これらの取り組みは今後さらにブラッシュアップすることが期待されている。
- 大地の芸術祭やきものの街のキルト展は、当市の地域資源や魅力を活用した新たな取り

組みとして定着した。これらの取り組みをブラッシュアップすることで、さらなるにぎわいの創出が期待できる。

伝統行事「節季市」の現代版として毎月 10 日に商店街で開催される「とおか市」



にぎわいサタデーで好評を博した「商店街的イケメン総選挙」



「キルト展」は、市内外から婦人層を中心に多くの見学者が訪れる。市内の小学生も授業の一環として訪れ、精巧な細工が施された力作に見入っていた。



(3) 中心市街地の衰退要因とこれまでの取り組みのまとめ

①中心市街地の衰退要因

ア) 人口の減少及び高齢化の進行

中心市街地の人口が減少する中、高齢者人口は増加傾向にあり、人口の減少率、高齢化率はともに全市のそれよりも高くなっている。人口減少の要因は、全国的な傾向としてのモータリゼーションの進展による商業施設の郊外化に伴って中心市街地の求心力が低下したことや、主要産業である織物産業が昭和 50 年代以降に急速に低迷したことにより中心市街地の経済力が低下したためと推測される。

また、豪雪地の住宅密集地は、他の地域に比べて雪処理の負担が大きく、若い世代が

流出する原因となっていることや、中越大震災による被災で高齢者世帯などが移転を余儀なくされたことも大きな要因となっている。

イ) 中越大震災の影響などによる空きビル、未利用地が点在

かつて中心市街地の中心的存在としてにぎわいを見せていた旧田倉、旧娯楽会館といった大型集客施設が、中越大震災と前後して廃業し、未利用のまま廃墟と化していたほか、被災により取り壊された工場跡地が未利用のまま点在している。

ウ) 郊外型の大規模小売店舗の進出による商店街の衰退

平成6年に市内に初めて郊外型の大規模小売店舗が進出してから中心市街地での買い物利用割合は減少の一途をたどっており、10年ほど前から郊外型の大規模小売店舗での買い物利用割合が中心市街地を上回り、さらに差が広がる傾向にある。

また、全市の小売事業所数、小売業売場面積、小売従業員数、年間小売販売額はすべてほぼ横ばいで推移しているのに対し、中心市街地における小売業売場面積、小売従業員数、年間小売販売額は減少傾向にある。

さらに、中心市街地の商店街ごとの状況をみると、本町1～4丁目は、郊外型の大規模小売店舗が進出するまでは買物地区利用割合が30%程度あったが、近年では3%程度にまで落ち込んでいる。

②これまでの取り組みの評価

ア) 市街地の整備改善

集客施設や案内看板の整備など来街者の利便性向上が図られたが、未実施の事業もあり、一体的な効果を引き出すまでには至らなかった。細街路や公園緑地、景観形成、駐車場などの整備を望む声は引き続き多い。

イ) 商業の活性化・TMO事業

空き店舗を活用した休憩所の提供や花いっぱい運動は、来街者へのサービス提供や商店街のイメージアップとして効果があった。

TMO協議会の再編や自立してまちづくり活動を担う組織の創設が求められている。

ウ) その他の取り組み

2つの大規模集客施設の跡地など未利用地の活用が期待されている。

にぎわい力アップ事業で試行されたさまざまな取り組みをブラッシュアップすることで、さらなる商店街への誘客が期待されている。

大地の芸術祭の中心市街地での作品展開やきもの街のキルト展、石彫シンポジウムなどは、当市の特徴的な取り組みで、中心市街地への誘客や回遊性の創出が期待できることから、今後の積極的な活用が期待される。

[4] 中心市街地の課題と基本的な方針

(1) 中心市街地の課題

中心市街地の現状や地域のニーズを踏まえ、中心市街地の課題を整理する。

課題1 まちなか居住の促進

- ・ 中心市街地の宅地は、敷地面積が狭く、冬期間の屋根雪の処理や駐車場の確保が負担となり、住宅の改築に当たり敷地面積が広い郊外に移転する傾向がある。
- ・ 中心市街地には、少子高齢化の進行に伴って需要増加が見込まれる子育て世代や高齢者向けの住宅が不足している。
- ・ 旧田倉跡地（本町2丁目）、旧娯楽会館跡地（本町5丁目）は、平成16年の中越大震災で被災して遊休地となっていることから、市民からも中心市街地の整備にあたって有効活用が求められている。
- ・ 十日町駅西土地区画整理事業で優良宅地が造成され、市道などの都市基盤が整備されたことから、今後はこの区域を中心市街地内での新たな居住重点地区として位置づけ、保留地や市有地を宅地分譲に活用しつつ、よりゆとりのある環境でのまちなか居住の促進を図る必要がある。
- ・ 中心市街地内には、冬期間の交通確保のための消雪パイプの布設や側溝の整備が求められている道路がある。

課題2 にぎわいの創出

- ・ 中心市街地には、少子高齢化の進行に伴って需要が見込まれる子育て世代や高齢者の生活支援に即した生活サービス機能の充実が求められている。
- ・ 郊外型の大型小売店舗との差別化を図るため、市民のまちづくり活動と連携するなど商店街の新しい魅力を掘り起こす必要がある。
- ・ 新たな商業施設を整備するとともに、「石彫シンポジウム」などの地域資源を最大限に活用したソフト事業を展開し、中心市街地内の回遊性を高める必要がある。
- ・ これまで中心市街地のまちづくり活動を担ってきたTMO協議会に代わって組織されたNPO法人による、市民活動や商業者との連携の支援が求められている。
- ・ 来街者のアクセスの向上を図るため、駐車場の整備が求められている。

課題3 地域コミュニティ機能の再生

- ・ 市民の「つながり力」という強みを最大限活かすとともに、中間支援組織や市民団体の育成を図るために、市民活動・交流のための拠点施設を重点的に整備するほか、まちづくり活動に対する支援を強化することで、中心市街地のコミュニティの活発化を図る必要がある。

(2) 中心市街地活性化の基本的な方針

① 活性化の基本理念

【基本理念】

「新たなにぎわい」に満ちた「魅力あるまち」の創造

～ “安心・快適・ときめき” のまちづくり～

十日町市では、少子高齢化の進行や地域経済の低迷といった課題が山積するなか、「選ばれて住み継がれる十日町市」を市政運営の信念として掲げ、一人でも多くの市民がこの地に魅力を感じ、愛着を持ちながら後世の代まで住み続けられるように、さまざまな取り組みを進めている。

「十日町市総合計画後期基本計画」のまちづくりの重点方針のひとつである「活力ある元気なまちづくり」においては、「怒涛の人の流れの創出」に向けて、地域の資源や魅力を最大限に活用した誘客力の強化を図っている。

とりわけ中心市街地では、里山の原風景・棚田、信濃川の雄大な河岸段丘、全国屈指の降雪量を誇る雪などの「自然資源」や、悠久の国宝・火焰型土器やきもの、「大地の芸術祭」に代表される現代アートといった「文化資源」、雪の恵みから育まれた米やそば、酒などの「食資源」など、十日町市内に点在する豊かな地域資源の情報発信・展開拠点としての機能の強化を図ることとしている。

一方で、人口減少、少子高齢化の進行により、都市機能の整備・維持にかかる市民一人当たりのコストが上昇し、極めて重要な課題となっている。

ついては、都市基盤が既に整っている中心市街地の優位性を十分に活かしつつ、住宅や商業施設、公益施設等の都市施設をさらに集約し、コンパクトな都市経営を目指すことが重要となっている。

また本市は、平成 16 年の中越大震災をはじめ、平成 19 年の中越沖地震、平成 23 年の長野県北部地震、新潟・福島豪雨などの相次ぐ自然災害の経験や、毎年 2 m を超す積雪と向き合ってきた歴史から、地域ぐるみの防災活動や克雪活動がとりわけ活発である。これらの活動が地域コミュニティの醸成や市民活動の活性化など、市民の「つながり力」の維持に大きく寄与している。

昭和 50 年代までの中心市街地は、当時隆盛であった織物産業にけん引される形で市民経済が発展し、活気にあふれにぎわいがあった。しかし 21 世紀に入り、低成長・人口減少時代に突入した今、本市の中心市街地の活性化にあたっては、本計画で挙げた課題と特性を十分に勘案して、十日町市本来の強みである市民の「つながり力」や「市民活動」といった社会的な資本を活かし、かつて織物産業で活気があった頃とは異なる「新たなにぎわい」を生み出すこととする。さらに既存の都市基盤資本を最大限活用しつつ、子供からお年寄りまでが住み続けられる雪国ならではの「安心で快適なときめきのあるまちづくり」を進めていくこととする。

なお、本計画の実現にあたっては、行政が先導的に事業に取り組み、民間投資の誘発を図るものとする。

②活性化の基本方針

基本方針①：雪国でも快適で安心して暮らし続けられるまち

生活環境の魅力を向上させるため、市民の除雪の負担を軽減する支援策や、居住促進のための支援策等を拡充するほか、少子高齢化に対応した居住施設の整備を進め、まちなか居住を促進する。

基本方針②：歩いて楽しいまち

少子高齢化にともない、今後需要が増大すると予想される子育て世代や高齢者の支援を目的とした生活利便施設を整備する。

また、商店街の中に新たな商業施設や案内機能などを整備するとともに、新たな魅力を掘り起こし、中心市街地内の回遊性とにぎわいを創出する。

基本方針③：いきいきとまちづくり活動ができるまち

十日町市の強みである「市民のつながり力」を最大限に活かし、市民活動・交流のための拠点を重点的に整備するほか市民のまちづくり活動への支援を強化し、地域コミュニティの活性化を目指す。